



ネットワークビデオレコーダー

型名 **VR-X7100**

取扱説明書
(設定一覧編)

本書はネットワークビデオレコーダー VR-X7100 で設定を行うアプリケーションの設定値一覧です。
システムやカメラ、ビューワー “Smart Client” の設定を行うときにご覧ください。

Unit Setup

ユニット設定	4
NAS 設定	4
IP リース設定	5
SNMP 設定	6
JVC ログ設定	7
HDD メーター設定	7

Management Application

拡張設定	8
ハードウェアプロパティ	9
名前とビデオチャンネル	9
ネットワーク、デバイスタイプおよびライセンス	10
PTZ デバイス	11
カメラプロパティ	12
一般	12
ビデオ	13
音声設定	16
レコーディングプロパティ	17
レコーディングおよびアーカイブパス	18
イベント通知	19
出力	20
モーション検知	21
プライバシーマスク	22
魚眼レンズ	23
PTZ 設定	24
PTZ パトロール	25
イベントでの PTZ	26
レコーディングおよびストレージのプロパティ	27
レコーディングおよびアーカイブパス	27
動的パスの選択 - アーカイブ	28
ビデオレコーディング	29
手動レコーディング	30
フレームレート - MJPEG (通常のフレームレート)	31
フレームレート - MJPEG (スピードアップ設定)	32
フレームレート - MPEG	33
音声の選択	34
ストレージ情報	35
マイクのプロパティ	36
マイク	36
ハードウェア入力イベントプロパティ	37
ハードウェア出力プロパティ	38
手動イベントプロパティ	39
ジェネリックイベントプロパティ	40
ジェネリックイベントプロパティ	41
ポートとポーリング	41
出力コントロールプロパティ	42
イベントの出力	42
スケジュールおよびアーカイブ	43
すべてのカメラのスケジュール	43
スケジュールオプション	44
アーカイブ中	45

スケジュールプロパティ - (カメラ名)	46
オンライン期間	46
スピードアップ	47
PTZ パトロール	48
Matrix プロパティ	49
Matrix 受信者	49
Matrix イベントコントロール	50
ログプロパティ	51
ログ	51
E メールプロパティ	52
メッセージ設定	52
添付設定	53
サーバー設定	54
SMS プロパティ	55
メッセージ設定	55
サーバー設定	56
Central 通信プロパティ	57
Central	57
サーバーアクセスプロパティ	58
サーバーアクセス	58
ローカル IP 範囲	59
言語サポートと XML エンコーディング	60
マスター・スレーブプロパティ	61
マスターサーバー	61
スレーブサーバー	62
ユーザープロパティ	63
ユーザー情報	63
ジェネリックアクセスプロパティ	64
カメラアクセス	65
アラーム管理	66
アクセスコントロール管理	67
通知スケジュールリングプロパティ	68
スケジュールリング	68

Smart Client オプション

アプリケーション	69
パネル	70
機能	71
タイムライン	72
エクスポート	73
キーボード	74
ジョイスティック	75
アクセスコントロール	76
アラーム	77
詳細	78
言語	79

この取扱説明書の見かた

■本文中の記号の見かた

注意

操作上の注意が書かれています。

メモ：

機能や使用上の制限など、参考になる内容が書かれています。

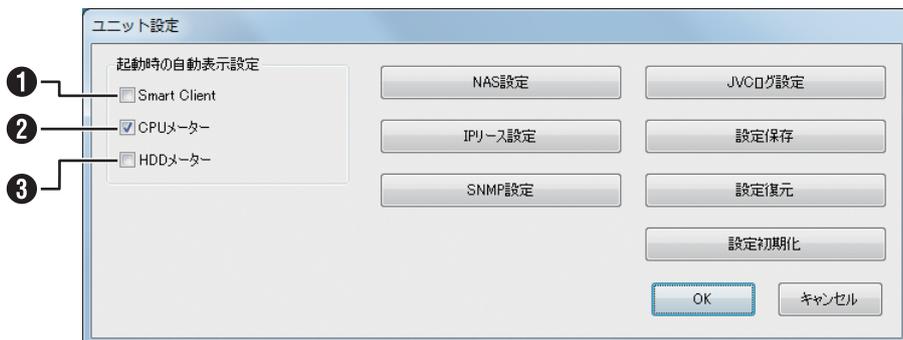
参考ページや参照項目を示しています。

■本書の記載内容について

- 本書の著作権は弊社に帰属します。本書の一部、または全部を弊社に無断で転載、複製などを行うことは禁じられています。
- 本書に記載されている他社製品名は、一般に各社の商標、または登録商標です。本書では™、®、©などのマークは省略してあります。
- 本書に記載されたデザイン、仕様、その他の内容については、改善のため予告なく変更することがあります。

ユニット設定

Unit Setup のトップ画面です。起動時の表示設定や各種設定、設定の保存や復元などを行います。

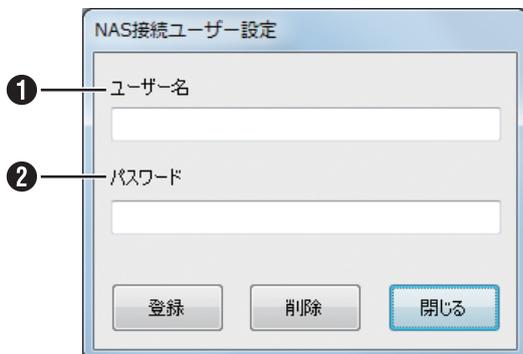


付番	項目	設定値	内容
①	Smart Client	チェック チェックなし	チェックを付けると、システム起動時に Smart Client が起動します。
②	CPU メーター	チェック チェックなし	チェックを付けると、システム起動時に CPU メーターが起動します。
③	HDD メーター	チェック チェックなし	チェックを付けると、システム起動時に HDD メーターが起動します。

「設定値」の太字は初期値です。

NAS 設定

NAS に接続するための設定をします。



付番	項目	設定値	内容
①	ユーザー名	—	NAS に接続するためのユーザー名を指定します。
②	パスワード	—	NAS に接続するためのパスワードを指定します。

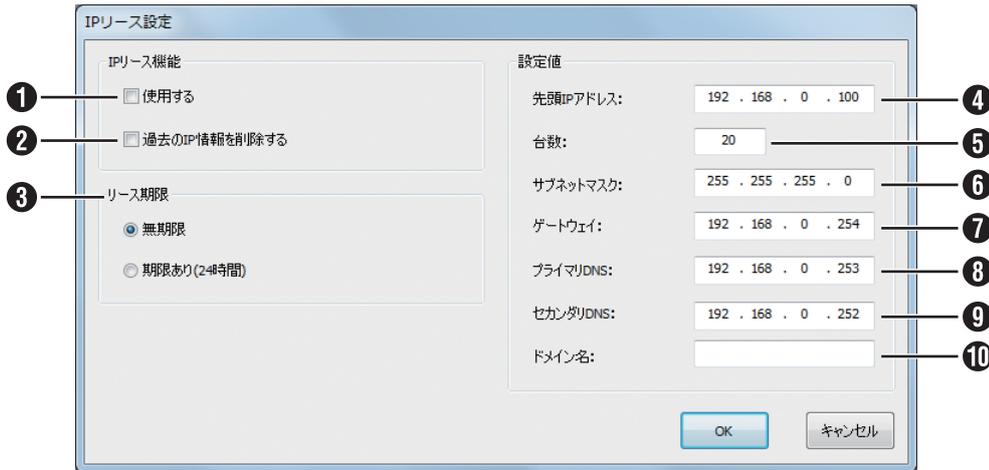
「設定値」の太字は初期値です。

IP リース設定

本機から、各ネットワークカメラに IP アドレスを割り振る場合に設定します。

メモ：

- IP リース機能でネットワークカメラの IP アドレスを割り振るためには、ネットワークカメラの DHCP を有効にしておく必要があります。ネットワークカメラの DHCP を有効にするには、ネットワークカメラの取扱説明書をご覧ください。
- 本機を同時に複数台使用するネットワークの場合、IP リース機能を使用するのは 1 台のみにしてください。また、同一ネットワーク上に DHCP サーバーが稼働している場合は IP リース機能は使用しないでください。同時に 2 台以上で IP リース機能を有効にすると、固定 IP になってしまうなど、カメラが誤作動する場合があります。

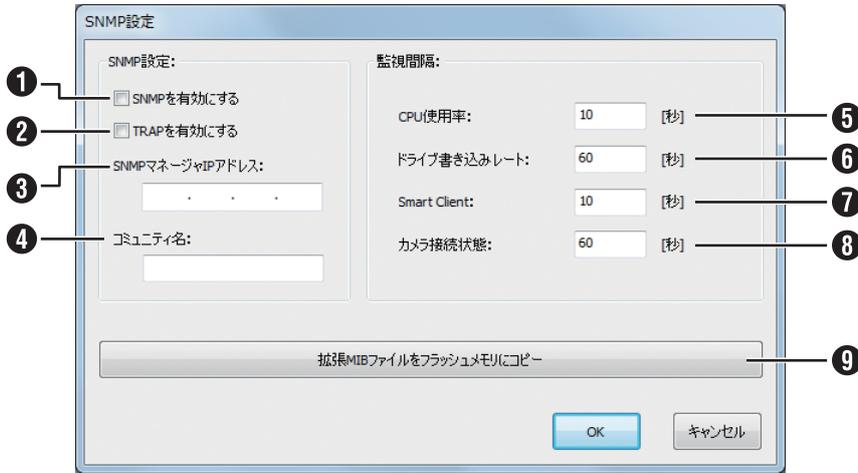


付番	項目	設定値	内容
①	使用する	チェック チェックなし	本機から、各ネットワークカメラに IP アドレスを割り振るかどうかを設定します。
②	過去の IP 情報を削除する	チェック チェックなし	各ネットワークカメラの過去の IP 情報を削除して、新しい IP アドレスを割り振る場合にチェックを付けます。
③	リース期限	無期限 期限あり (24 時間)	カメラに割り振る IP アドレスの有効期限を設定します。
④	先頭 IP アドレス	192.168.0.100	ネットワークカメラに割り振る IP アドレスの先頭アドレスを指定します。
⑤	台数	1 台～ 99 台 20 台	IP アドレスを割り振るカメラの台数を選びます。先頭 IP アドレスから選んだ台数分の IP アドレスが割り振られます。
⑥	サブネットマスク	255.255.255.0	カメラに設定するサブネットマスクを指定します。
⑦	ゲートウェイ	192.168.0.254	カメラに設定するゲートウェイを指定します。
⑧	プライマリ DNS	192.168.0.253	カメラに設定するプライマリ DNS を指定します。
⑨	セカンダリ DNS	192.168.0.252	カメラに設定するセカンダリ DNS を指定します。
⑩	ドメイン名	—	カメラに設定するドメイン名を指定します。

「設定値」の太字は初期値です。

SNMP 設定

監視用パソコンの SNMP マネージャから本機の状態を監視することができます。



付番	項目	設定値	内容
①	SNMP を有効にする	チェック チェックなし	チェックを付けると SNMP の機能が有効になります。
②	TRAP を有効にする	チェック チェックなし	チェックを付けると TRAP の機能が有効になります。
③	SNMP マネージャ IP アドレス	—	SNMP マネージャの IP アドレスを指定します。
④	コミュニティ名	—	SNMP のコミュニティ名を指定します。(1 ~ 32 文字。英数字のみ)
⑤	CPU 使用率	10 ~ 9999 秒 10 秒	CPU 使用率を監視する間隔を指定します。
⑥	ドライブ書き込みレート	30 ~ 9999 秒 60 秒	ドライブへの書き込みレートを監視する間隔を指定します。
⑦	Smart Client	10 ~ 9999 秒 10 秒	Smart Client の起動状態を監視する間隔を指定します。
⑧	カメラ接続状態	60 ~ 9999 秒 60 秒	カメラの接続状態を監視する間隔を指定します。
⑨	拡張 MIB 情報を フラッシュメモリにコピー	—	拡張 MIB 情報を USB フラッシュメモリにコピーします。 SNMP 設定の詳細は取扱説明書の『SNMP を設定する』をご覧ください。

「設定値」の太字は初期値です。

JVC ログ設定

ログ情報の保存のしかたを設定します。

メモ：

- ログ情報は障害発生時の解析に必要となる場合があります。



付番	項目	設定値	内容
①	ログ保存日数	10日	ログを保存する期間を設定します。
②	ログ書き込みスペースが少ない時、自動的に古いログを削除する	チェック チェックなし	チェックを付けると、保存先 HDD の容量が 50 MB 以下になったときに自動で古いログが削除されます。

「設定値」の太字は初期値です。

HDD メーター設定

HDD メーターの設定を行います。

HDD メーター設定画面は、HDD メーターの [設定] をクリックすると表示されます。

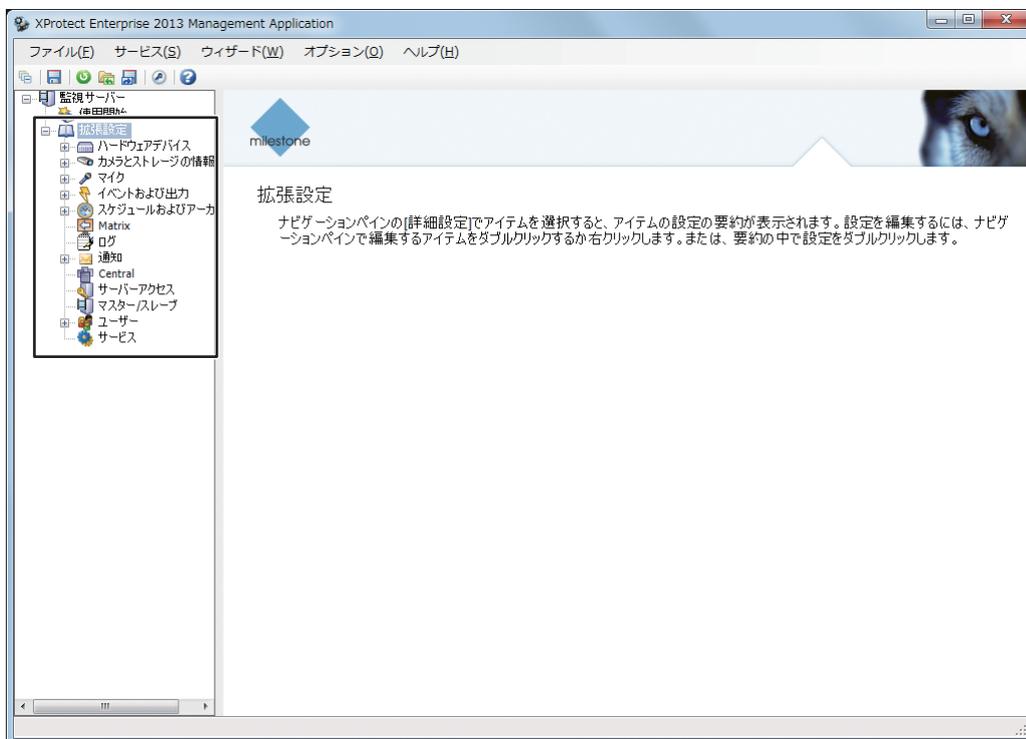


付番	項目	設定値	内容
①	更新間隔	10 ~ 300 秒 10 秒	更新間隔を秒単位で設定します。
②	透過率	0 ~ 90% 0%	HDD メーターの透明度を設定します。
③	監視対象の選択	—	内蔵 HDD と本機に認識されている外部 HDD がリスト表示されます。監視対象とする HDD にチェックを付けてください。

「設定値」の太字は初期値です。

拡張設定

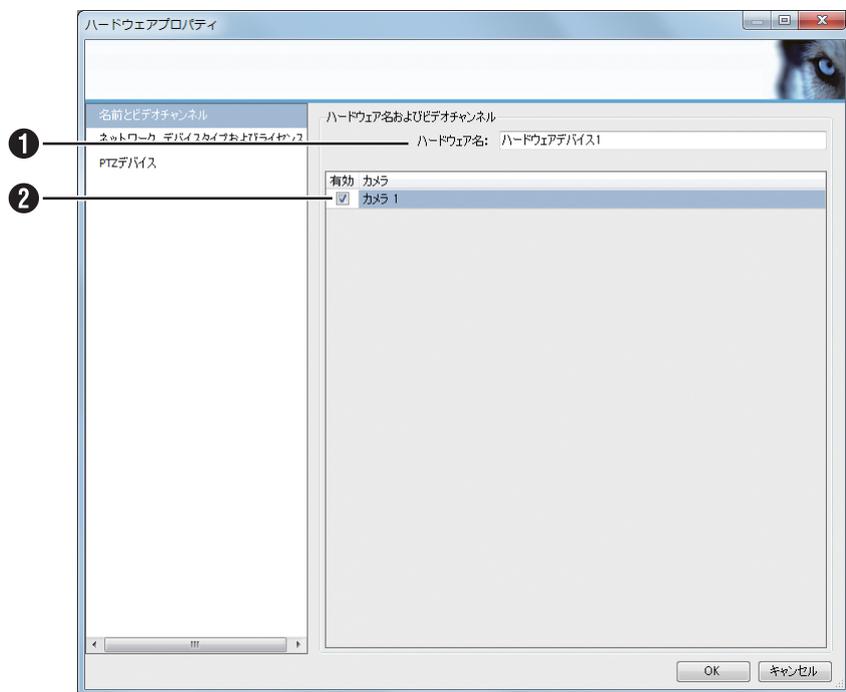
Management Application の「拡張設定」のトップ画面です。
画面左のツリーを開き、各項目をダブルクリックするとプロパティ画面が表示されます。プロパティ画面では各種設定の確認や変更ができます。



項目	内容
ハードウェアデバイス	システムに接続されている機器のプロパティ表示や設定を行います。
カメラとストレージの情報	カメラ映像のフレームレートや保存場所の設定を行います。
マイク	システムに接続されているマイクの設定を行います。
イベントおよび出力	各種イベントの設定を行います。
スケジュールおよびアーカイブ	記録、アーカイブ、通知、PTZ パトロールなど各種スケジュールの設定を行います。
Matrix	イベント発生時に映像を配信する Matrix 機能の設定を行います。
ログ	ログの保存についての設定を行います。
通知	Eメール通知や SMS 通知、スケジューリングの設定を行います。本機は、SMS での通知には対応していません。
Central	Milestone 社の MilestoneXProtect Central を使うための設定です。本機は、Central 機能には対応していません。
サーバーアクセス	サーバーに関する設定を行います。
マスター / スレーブ	複数のネットワークビデオレコーダーを使用する場合のマスター / スレーブ設定を行います。
ユーザー	ユーザーの追加・変更や権限の変更をします。
サービス	Milestone XProtect の各サービスの開始や停止を行います。

ハードウェアプロパティ

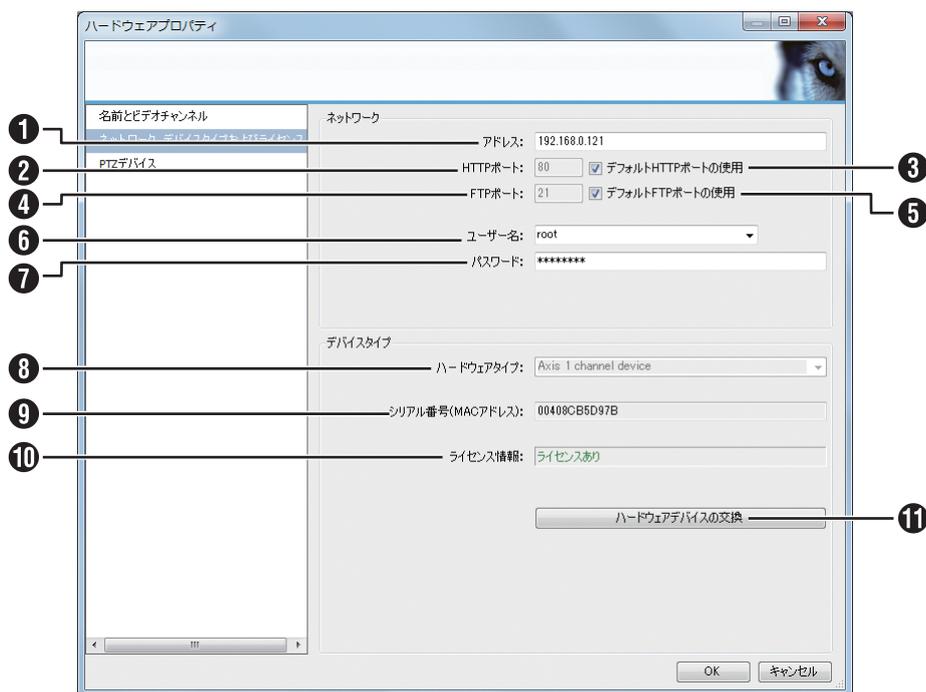
名前とビデオチャンネル



付番	項目	設定値	内容
①	ハードウェア名	—	名前はデバイスを他と区別するために使います。複数のデバイスに同じハードウェアデバイス名をつけることはできません。 ・ 次の文字は使用できません。: < > & ' " ¥ / : * ? []
②	有効	チェック チェックなし	このデバイスを使用するときは、チェックを付けます。 初期値は、デバイスによって異なります。

「設定値」の太字は初期値です。

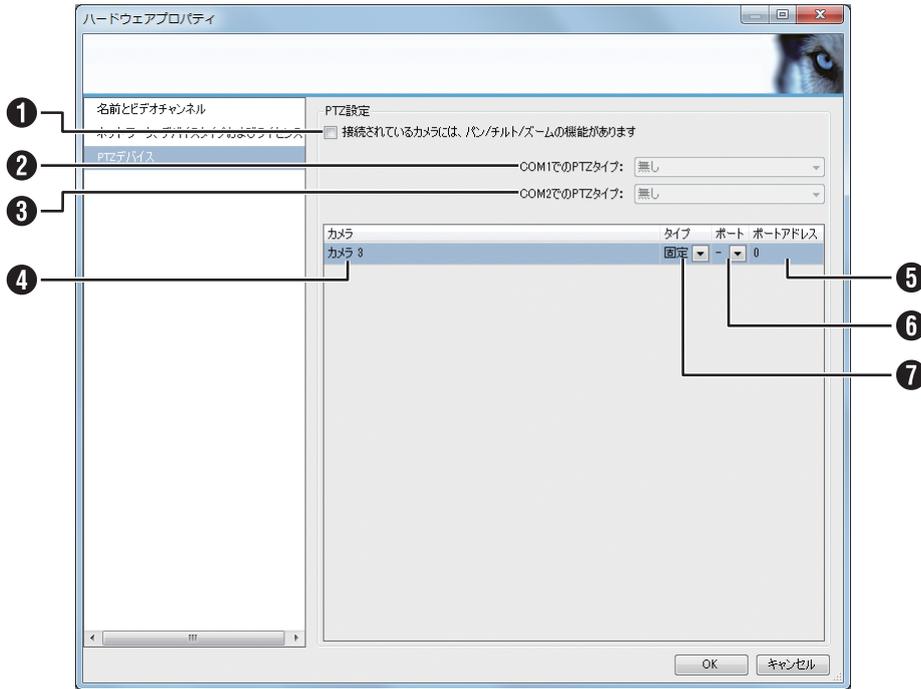
ネットワーク、デバイスタイプおよびライセンス



付番	項目	設定値	内容
①	アドレス	—	デバイスの IP アドレスまたは DNS ホスト名です。
②	HTTP ポート	80	「デフォルト HTTP ポートの使用」にチェックを付けると、デバイスへの HTTP 通信をデフォルトのポート番号 80 を通して行います。他のポート番号を使用したい場合は、チェックをはずし、チェックボックスの左欄でポート番号を設定してください。「デフォルト HTTP ポートの使用」の初期値は、デバイスによって異なります。
③	デフォルト HTTP ポートの使用	チェック チェックなし	
④	FTP ポート	21	「デフォルト FTP ポートの使用」にチェックを付けると、デバイスへの FTP 通信をデフォルトのポート番号 21 を通して行います。他のポート番号を使用したい場合は、チェックをはずし、チェックボックスの左欄でポート番号を設定してください。「デフォルト FTP ポートの使用」の初期値は、デバイスによって異なります。
⑤	デフォルト FTP ポートの使用	チェック チェックなし	
⑥	ユーザー名	—	ルートアカウント (Admin アカウント、Administrator アカウント、管理者アカウントと呼ばれることもあります) を使用してデバイスにログインする場合に必要なパスワードを設定してください。
⑦	パスワード	—	
⑧	ハードウェアタイプ	—	デバイスの種類が表示されます。
⑨	シリアル番号 (MAC アドレス)	—	デバイスのシリアル番号です。通常はデバイスが持っている 12 文字の MAC アドレスと同じです。
⑩	ライセンス情報	—	デバイスのライセンス情報です。
⑪	ハードウェアデバイスの交換	—	使用中のデバイス (カメラ) を新しいデバイスに交換します。

「設定値」の太字は初期値です。

PTZ デバイス

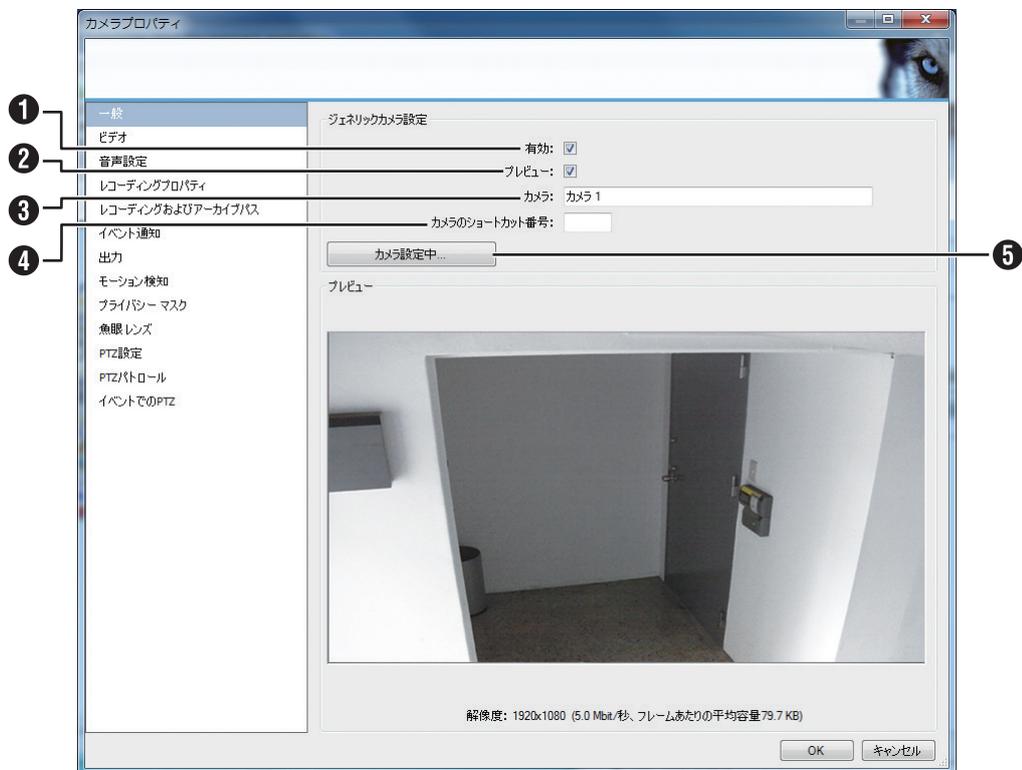


付番	項目	設定値	内容
①	接続されているカメラには、パン / チルト / ズームの機能が あります	—	ネットワークエンコーダ (IP ビデオサーバー) に接続されたカメラの中 に PTZ カメラがある場合は、チェックを付けます。 チェックボックスが無効の場合は、そのデバイスでは PTZ 機能が利用で きません。
②	COM1 での PTZ タイプ	無し	PTZ カメラがネットワークエンコーダ (IP ビデオサーバー) の COM1/ COM2 ポートを通して制御される場合は、PTZ カメラに適した制御 方式をプルダウンメニューから選択します。 COM1/COM2 ポートを通して制御される PTZ カメラが 1 つもない場 合は、「無し」を選びます。
③	COM2 での PTZ タイプ	JCBP-S Pelco-P Pelco-D	
④	カメラ	—	カメラ名を表示します。
⑤	ポートアドレス	0	「タイプ」で「可動」を選択した場合のみ設定できます。 カメラのポートアドレスを設定します。通常は「0」または「1」です。 直列接続した PTZ カメラを使用している場合は、ポートアドレスでそれ ぞれを識別するので、カメラの取扱説明書で推奨されている設定を確認 してください。
⑥	ポート	COM1 COM2	「タイプ」で「可動」を選択した場合のみ設定できます。 PTZ 機能の制御に使用するネットワークエンコーダ (IP ビデオサーバー) のコントロールポートを設定します。
⑦	タイプ	固定 可動	カメラが「固定」か「可動」かを設定します。 ・ 固定：固定カメラ ・ 可動：PTZ カメラ

「設定値」の太字は初期値です。

カメラプロパティ

一般



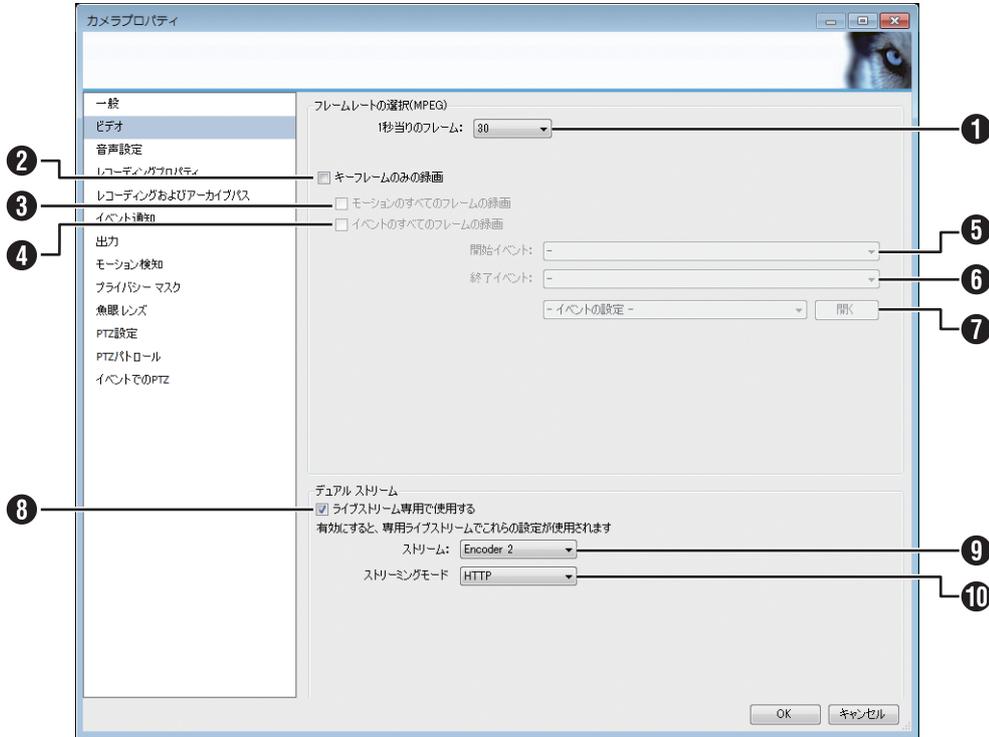
付番	項目	設定値	内容
①	有効	チェック チェックなし	このカメラを使用するときは、チェックを付けます。 初期値は、カメラによって異なります。
②	プレビュー	チェック チェックなし	チェックを付けると、選択中のカメラの映像が表示されます。
③	カメラ	—	選択したカメラを他と区別するため、カメラ名は重ならないようにしてください。 ・カメラ名は、カメラ自体に設定された名前ではなく、本機で識別するために設定する名前です。 ・次の文字は使用できません。:<> & ' " ¥ / : * ? □
④	カメラのショートカット番号	—	カメラの番号を設定します。 カメラ番号は、他と重ならないようにしてください。
⑤	カメラ設定中	—	クリックすると、ビデオプロパティ画面を表示します。 エンコードやカメラの設定を行います。

「設定値」の太字は初期値です。

ビデオ

カメラのビデオ設定を行います。カメラにより、「MPEG」または「MJPEG」のいずれかの画面が表示されます。

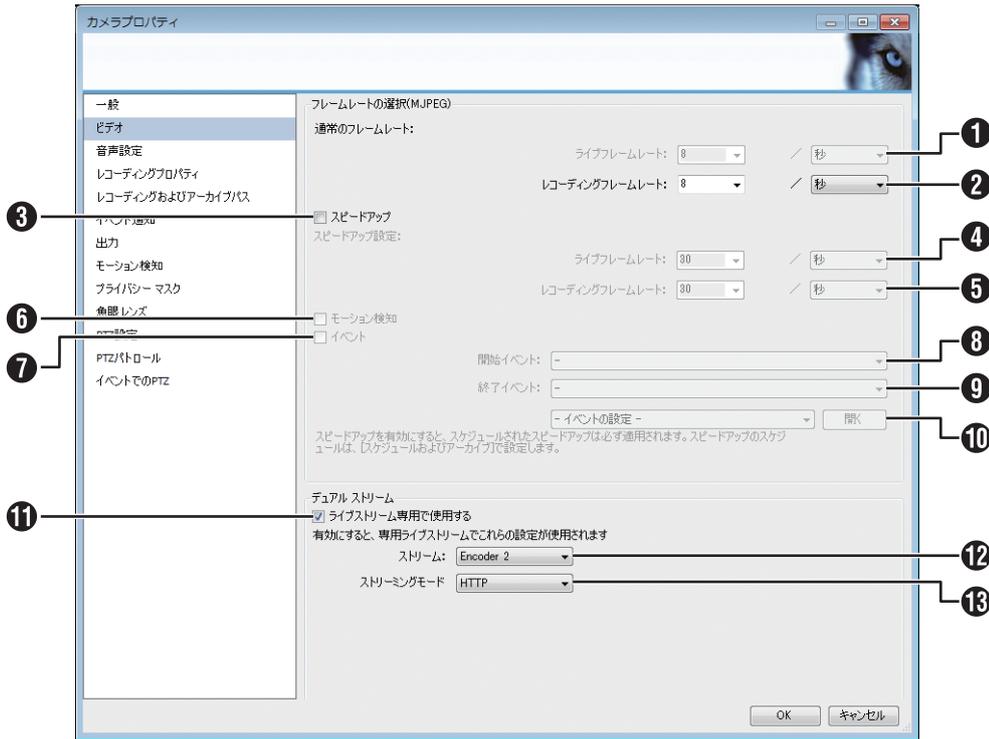
■ MPEG



付番	項目	設定値	内容
①	1秒当りのフレーム	1 ~ 30 30	ライブ映像と記録画像のフレームレートを設定します。
②	キーフレームのみの録画	チェック チェックなし	映像データのキーフレームのみを録画する場合にチェックを付けます。
③	モーションのすべてのフレームの録画	チェック チェックなし	モーション、イベントのすべてのフレームを録画する場合にチェックを付けます。イベントを選択した場合は、開始イベント、終了イベントを設定します。
④	イベントのすべてのフレームの録画	チェック チェックなし	映像データの形式（コーデック）が MPEG-4 または H.264 の場合に、「キーフレームのみの録画」にチェックを付けた場合にのみ設定できます。
⑤	開始イベント	—	
⑥	終了イベント		
⑦	イベントの設定	ハードウェア入力イベント 手動イベント ジェネリックイベント	イベントを選択して [開く] をクリックすると、選択したイベントの設定画面を表示します。
⑧	ライブストリーム専用で使用する	チェック チェックなし	ライブ用と録画用それぞれに専用の映像データをカメラから取得する場合に使用します。コーデックや解像度、フレームレートなどにそれぞれ別の値を設定できます。このチェックボックスを有効にするには、まず、カメラのビデオプロパティ画面で「Encoder mode:」（エンコーダモード:）を「Multi」（マルチ）に設定してください。デュアルストリームモードを有効にした場合、カメラの設定およびフレームレートの設定はカメラの WEB ページで行なってください。使用するエンコーダ番号のみ本機で設定します。本機能は、カメラがデュアルストリーム対応の複数のエンコーダを持ち、かつ NVR ソフトウェアがそのカメラのデュアルストリームをサポートしている場合にのみ設定できます。
⑨	ストリーム	Encoder 1 ~ 3	ライブストリーム用のデータを取得するエンコーダを設定します。初期値は、カメラのビデオプロパティ画面にある「Encoder」の設定によって異なります。
⑩	ストリーミングモード	HTTP RTSP/RTP	カメラから映像データを取得するときの通信方式を設定します。HTTP を設定してください

「設定値」の太字は初期値です。

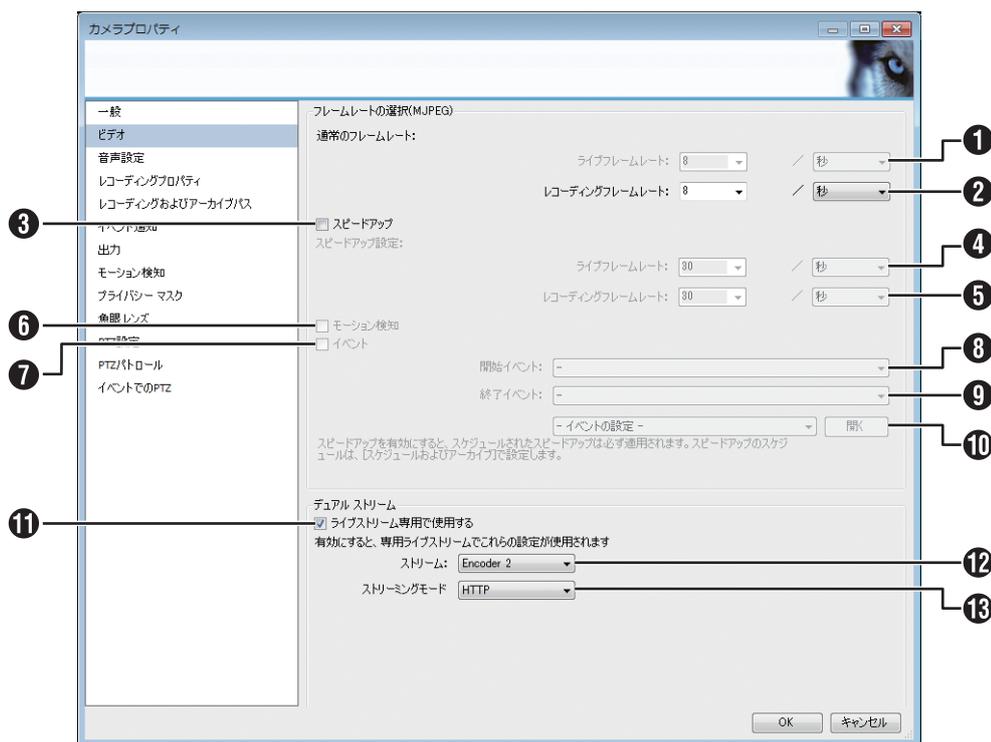
■ MJPEG



付番	項目	設定値	内容
①	通常のフレームレート：ライブフレームレート	1 ~ 30 秒、分、時間 8 秒	ライブ映像のフレームレートを設定します。お使いのカメラが動作保証する値を設定してください。
②	通常のフレームレート：レコーディングフレームレート	8 秒	記録するフレームレートを設定します。 ・「通常のフレームレート：ライブフレームレート」の設定によって、設定できる値が変わります。 ・「通常のフレームレート：ライブフレームレート」よりも大きい値は設定できません。
③	スピードアップ	チェック チェックなし	スピードアップ機能を使用するときにチェックを付けます。モーション検知またはイベント発生時に通常のフレームレートよりも高いフレームレートを使用する場合に設定します。お使いのカメラが動作保証する値を設定してください。 ・スピードアップ機能は、「モーション検知」または「イベント」により有効になります。
④	スピードアップ設定：ライブフレームレート	30 秒	スピードアップ設定が有効なときの、ライブ画面のフレームレートを設定します。 ・「通常のフレームレート：ライブフレームレート」の設定によって、設定できる値が変わります。 ・「通常のフレームレート：ライブフレームレート」よりも小さい値は設定できません。
⑤	スピードアップ設定：レコーディングフレームレート	30 秒	スピードアップ設定が有効なときの、記録するフレームレートを設定します。 ・「スピードアップ設定：ライブフレームレート」の設定によって、設定できる値が変わります。 ・「スピードアップ設定：ライブフレームレート」よりも大きい値は設定できません。
⑥	モーション検知	チェック チェックなし	モーションやイベントをトリガーにしてスピードアップ設定を使う場合に設定します。有効にするときは、チェックを付けます。 ・「イベント」にチェックを付けたときは、さらに開始イベントと終了イベントを設定します。
⑦	イベント	チェック チェックなし	
⑧	開始イベント	—	
⑨	終了イベント	—	
⑩	イベントの設定	ハードウェア入力イベント 手動イベント ジェネリックイベント	イベントを選択して [開く] をクリックすると、選択したイベントの設定画面を表示します。

「設定値」の太字は初期値です。

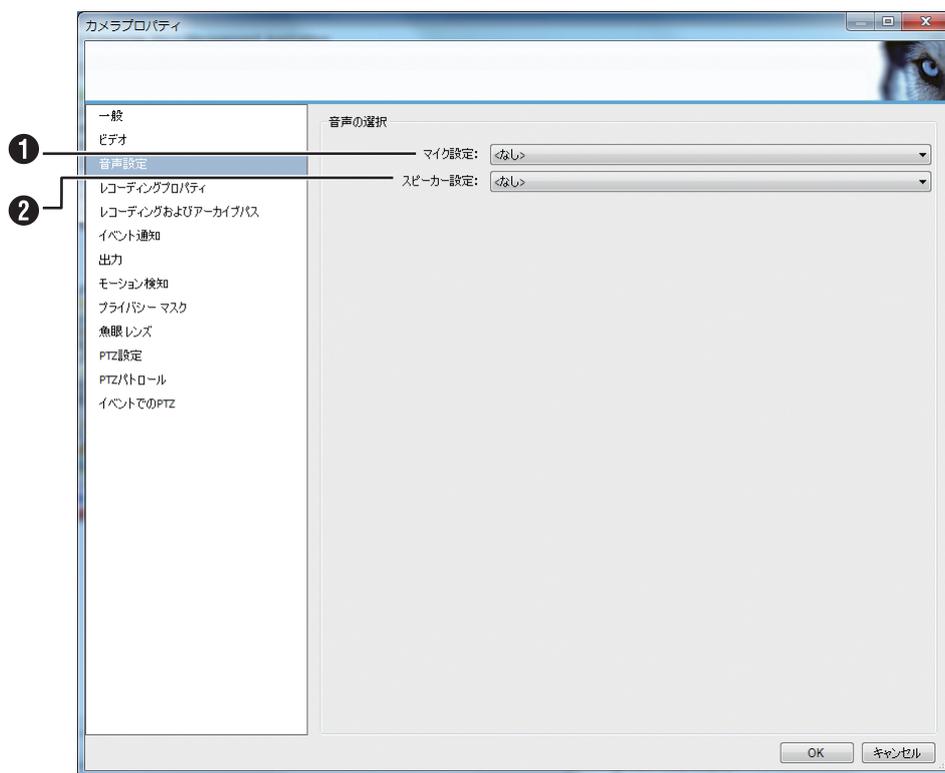
■ MJPEG (つづき)



付番	項目	設定値	内容
11	ライブストリーム専用で使用する	チェック チェックなし	ライブ用とレコーディング用それぞれに専用の映像データをカメラから取得する場合に使用します。コーデックや解像度、フレームレートなどにそれぞれ別の値を設定できます。このチェックボックスを有効にするには、まず、カメラのビデオプロパティ画面で「Encoder mode:」(エンコーダモード:)を「Multi」(マルチ)に設定してください。 デュアルストリームモードを有効にした場合、カメラの設定およびフレームレートの設定はカメラのWEB ページで行なってください。使用するエンコーダ番号のみ本機で設定します。 本機能は、カメラがデュアルストリーム対応の複数のエンコーダを持ち、かつNVRソフトウェアがそのカメラのデュアルストリームをサポートしている場合にのみ設定できます。
12	ストリーム	Encoder 1 ~ 3	ライブストリーム用のデータを取得するエンコーダを設定します。初期値は、カメラのビデオプロパティ画面にある「Encoder」の設定によって異なります。
13	ストリーミングモード	HTTP RTSP/RTP	カメラから映像データを取得するときの通信方式を設定します。HTTPを設定してください。

「設定値」の太字は初期値です。

音声設定



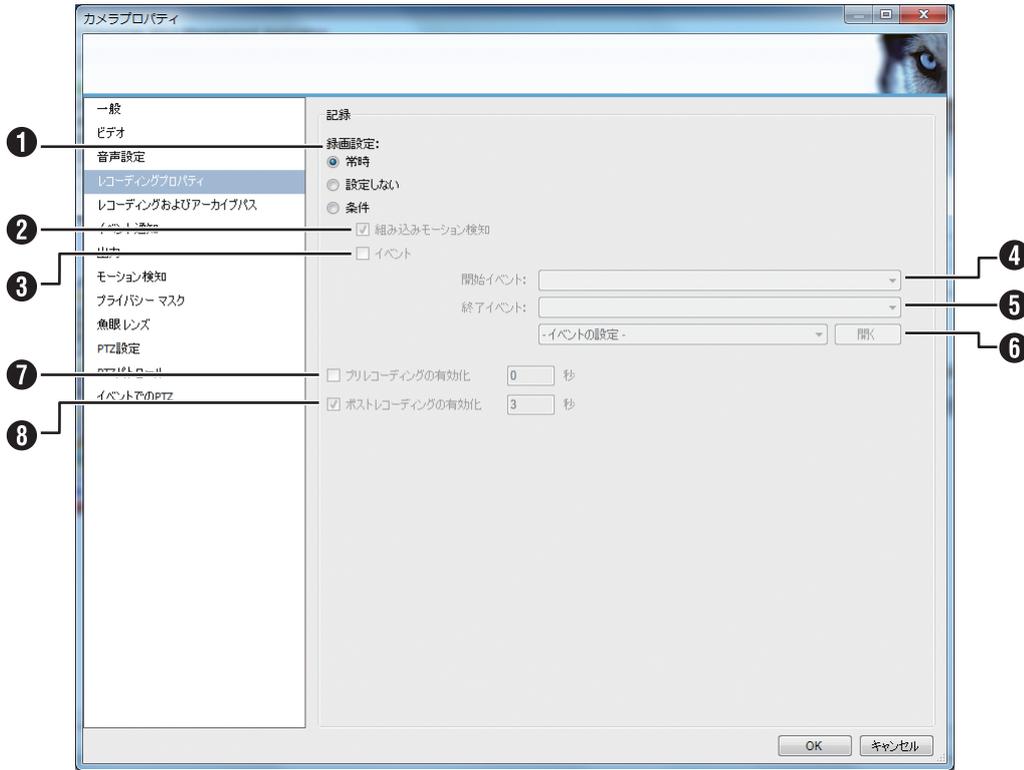
付番	項目	設定値	内容
①	マイク設定	—	マイクおよびスピーカーを使用するときの設定です。選択可能なマイク / スピーカーは、カメラによって異なります。
②	スピーカー設定	—	カメラの音声機能を使用しない場合は、「なし」を選択してください。

「設定値」の太字は初期値です。

ご注意

- カメラに音声機能がない場合でも、音声機能ありとして本機に登録されるカメラがあります。その場合は音声の選択を「なし」に設定してください。また、カメラのWEB ページで音声を OFF に設定している場合も同様に設定してください。これらの設定を行わない場合、カメラから映像データが正常に取得できない場合があります。

レコーディングプロパティ



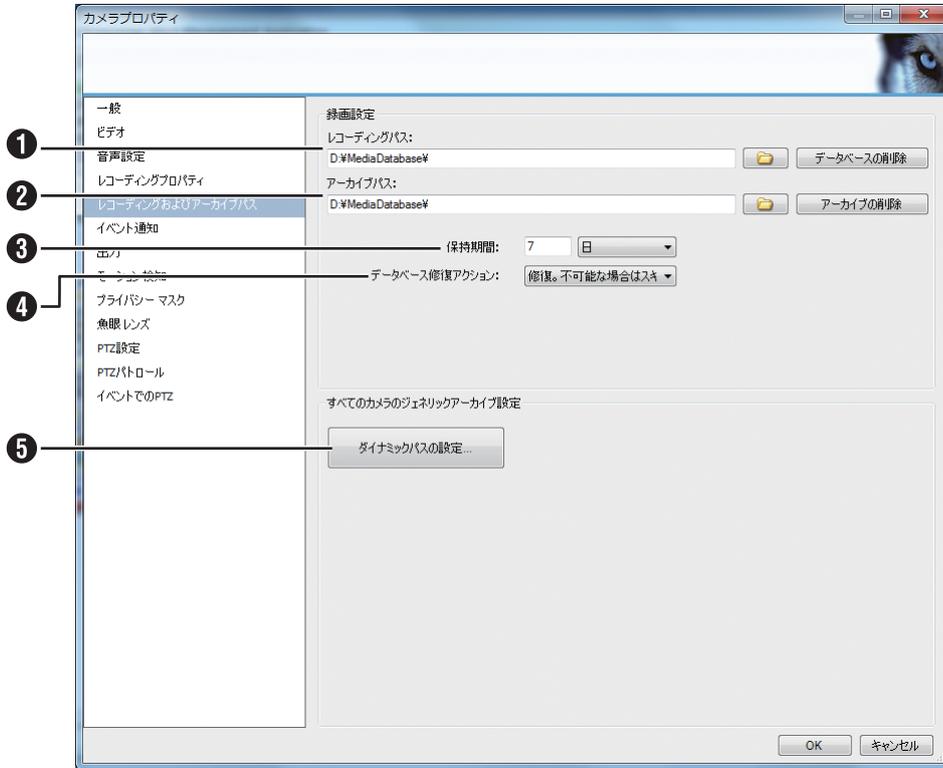
付番	項目	設定値	内容
①	録画設定	常時 設定しない 条件	初期設定は、カメラによって異なります。 「条件」を選んだときは、「組み込みモーション検知」「イベント」の設定を行います。 ・常時：常に画像を記録する場合にチェックを付けます。 ・設定しない：設定による記録を行わずに、手動で映像を記録します。 ・条件：記録する条件を設定します。
②	組み込みモーション検知	チェック チェックなし	モーションが検知された画像をすべて記録する場合にチェックを付けます。モーションは、本機のソフトウェアで検出するモーションです。モーションの設定は「モーション検知」(※ 21 ページ)で行います。
③	イベント	チェック チェックなし	イベント発生時に記録する場合にチェックを付けます。「イベント」にチェックを付けたときは、さらに開始イベントと終了イベントを設定します。
④	開始イベント	—	
⑤	終了イベント	—	
⑥	イベントの設定	ハードウェア入力イベント 手動イベント ジェネリックイベント	イベントを選択して「開く」をクリックすると、選択したイベントの設定画面を表示します。
⑦	プリレコーディングの有効化	チェック チェックなし	モーションまたはイベントの前後を記録することができます。発生の前後何秒間までを記録するか指定します。 ・「秒」の初期設定は、カメラによって異なります。
⑧	ポストレコーディングの有効化	チェック チェックなし	

「設定値」の太字は初期値です。

レコーディングおよびアーカイブパス

ご注意

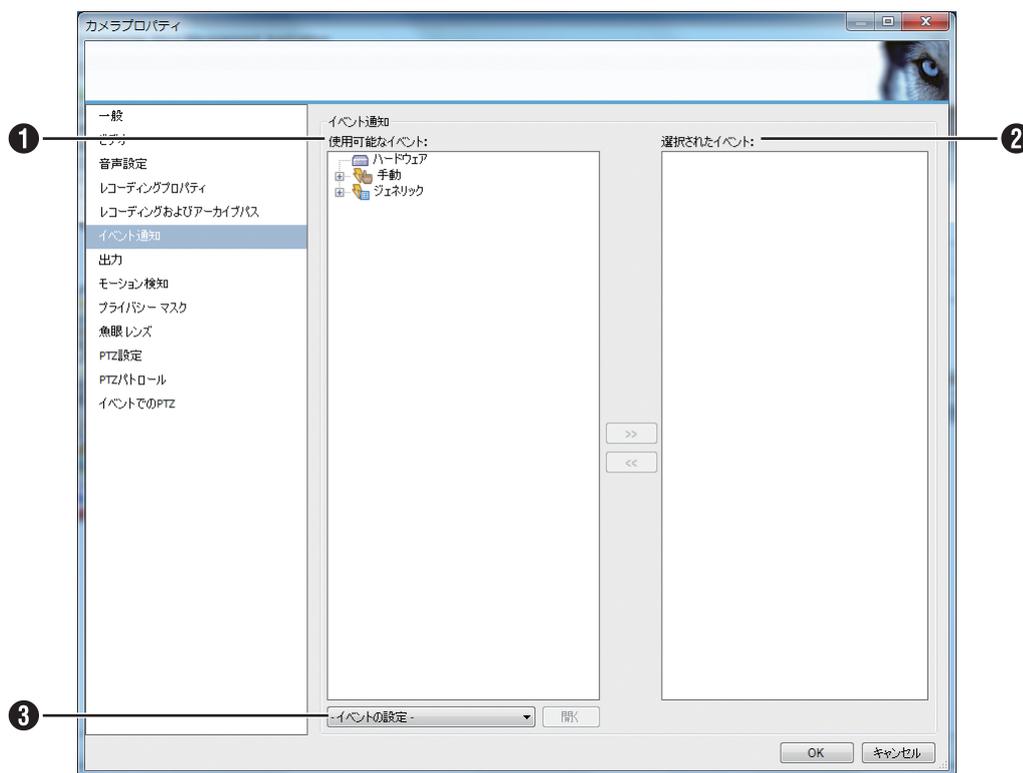
- 「データベース修復アクション」は、通常は「アーカイブ(修復無し)」を選択してください。他の選択肢を選択した場合は、最悪の場合データベースに問題が発生した場合に記録映像が消去されてしまうことがあります。



付番	項目	設定値	内容
①	レコーディングパス	D : ¥MediaDatabase	HDD の論理ドライブ上のパスを指定します。
②	アーカイブパス	D : ¥MediaDatabase	データベースのアーカイブ先を指定します。 動的パスを使用しているときは指定できません。
③	保存期間	日、時間、分 7日	一定の記録時間に達するまで、記録をデータベースに保存します。となりの欄で記録時間を指定し、時間の単位(分、時間、日)をリストから選択します。
④	データベース修復アクション	修復。不可能な場合はスキャンし、消去します 修復。不可能な場合は消去します 修復。失敗した場合はアーカイブ 削除(修復せず) アーカイブ(修復無し)	データベースに問題が発生した場合、どうするか選択します。選択肢の数は、アーカイブが有効かどうかによって変わります。通常は「アーカイブ(修復無し)」を選択してください。 • 修復。不可能な場合はスキャンし、消去します： 簡易版(修復)と詳細版(スキャン)の、2種類の修復方法が試されます。そのどちらもうまくいかなかった場合は、データベースの内容を削除します。 • 修復。不可能な場合は消去します： 簡易版の修復が試されます。うまくいかなかった場合は、データベースの内容を削除します。 • 修復。不可能な場合はアーカイブします： カメラのアーカイブが有効の場合のみ選択できます。簡易版の修復が試されます。うまくいかなかった場合は、データベースの内容をアーカイブします。 • 削除(修復せず)： 選択しないでください。 • アーカイブ(修復無し)： カメラのアーカイブが有効の場合のみ選択できます。データベースの内容をアーカイブします。通常はこれを選択してください。
⑤	ダイナミックパスの設定	—	アーカイブ先として動的パスを選択する場合に、動的パスを有効にし、アーカイブ先として使用するドライブを選択します。 動的パスの設定については「動的パスの選択 - アーカイブ」(☞ 28 ページ)をご覧ください。

「設定値」の太字は初期値です。

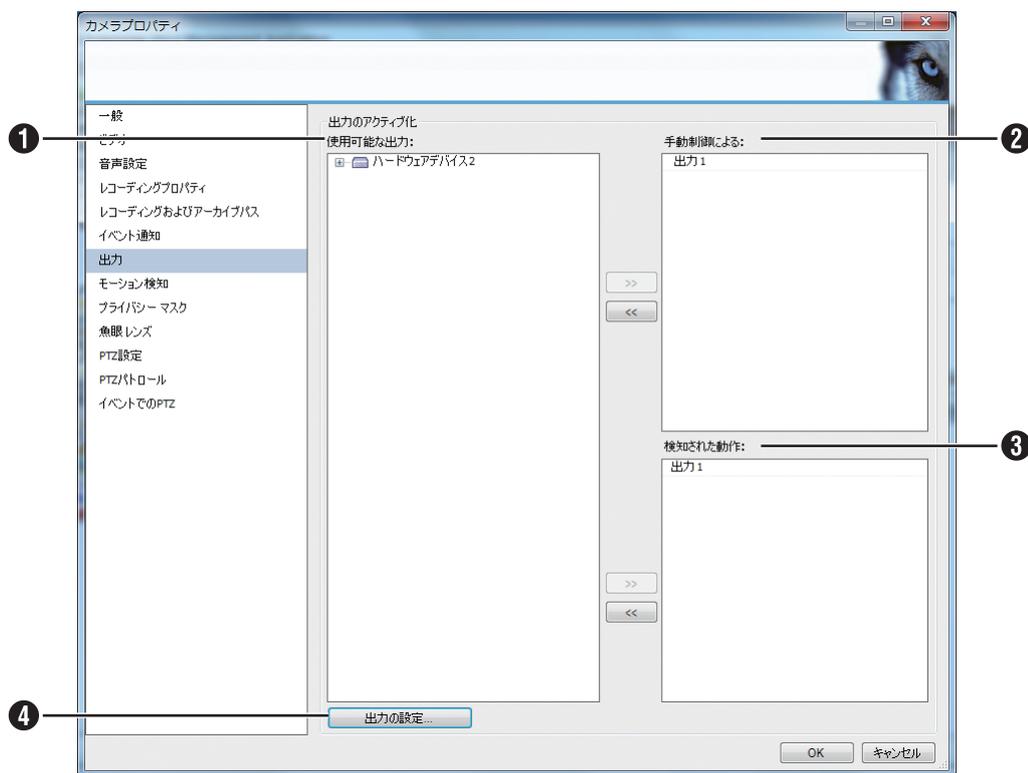
イベント通知



付番	項目	設定値	内容
①	使用可能なイベント	ハードウェア 手動 ジェネリック	「使用可能なイベント」には、本機に登録されているイベントの一覧が表示されます。ある特定のイベントが発生したときに、ライブ映像表示画面上部のタイトルバーエリアに黄色のインジケータが表示されます。
②	選択されたイベント	—	本機能を使用するには「使用可能なイベント」内のイベントを選び、「選択されたイベント」リスト内に移動します。
③	イベントの設定	ハードウェア入力イベント 手動イベント ジェネリックイベント	イベントを選択して「開く」をクリックすると、選択したイベントの設定画面を表示します。

「設定値」の太字は初期値です。

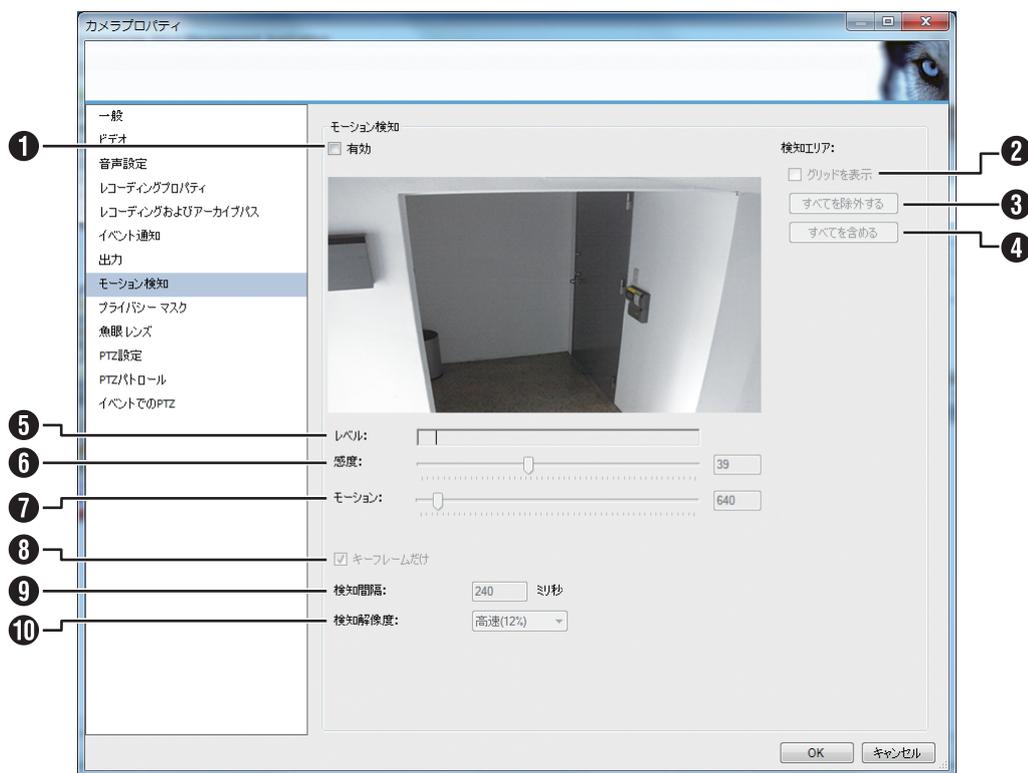
出力



付番	項目	設定値	内容
①	使用可能な出力	—	使用できる出力ポートを表示します。使用できる状態にするには、[出力の設定] をクリックして設定を行います。
②	手動制御による	—	Smart Client のライブ画面の出力パネルに表示して、手動で起動する出力を設定します。
③	検知された動作	—	モーション検知したときに、出力させる出力ポートを設定します。モーションは、本機のソフトウェアで検出するモーションです。モーションの設定は「モーション検知」(※ 21 ページ) で行います。
④	出力の設定	—	出力先の設定やテスト出力を行います。

「設定値」の太字は初期値です。

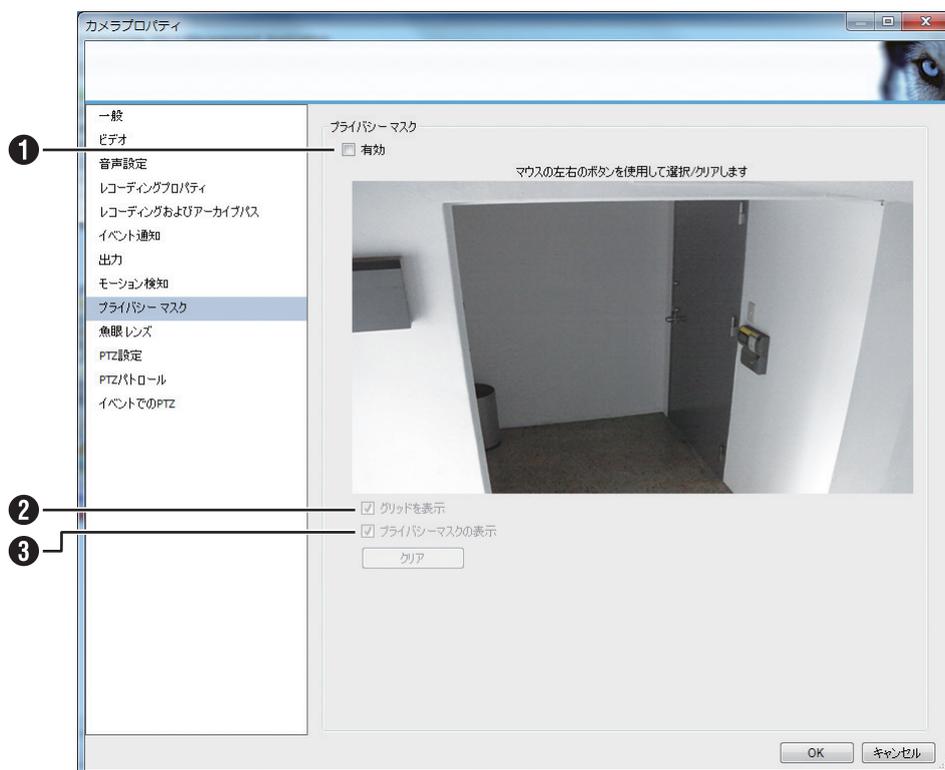
モーション検知



付番	項目	設定値	内容
①	有効	チェック チェックなし	本機のソフトウェアによる動き検知を有効にする場合にチェックを付けます。使用しない場合は本機の負荷を減らすため、チェックをはずしてください。
②	グリッドを表示	チェック チェックなし	チェックを付けると、プレビューにグリッドが表示されます。
③	すべてを除外する	—	表示範囲をすべてモーション検知エリアから除外します。除外されたエリア（全エリア）は青色で表示されます。
④	すべてを含める	—	表示範囲をすべてモーション検知エリアに含めます。
⑤	レベル	—	モーション検知の境界値（しきい値）が表示されます。
⑥	感度	0 ~ 256 39	ライブ映像の画像ピクセルデータの変化のどのレベルをモーションとして認識するかを設定します。数値が小さいほど感度が上がり、ライブ映像のわずかな変化をモーションとして認識します。
⑦	モーション	0 ~ 10000 640	何ピクセルの変化をモーション変化と判断するかを設定します。スライダーを左右に移動させると画面のラインが移動し、境界値（しきい値）の調整を行います。検出されるモーション（動き）を表示するバー（緑）がしきい値を超えると赤色に変化し、モーションとして検知されたことを示します。
⑧	キーフレームだけ	チェック チェックなし	カメラのコーデックが MPEG-4 または H.264 の場合に、映像のキーフレームのみを使ってモーション検知する場合、チェックを付けます。
⑨	検知間隔	240 ミリ秒	モーション検知の間隔を設定します。
⑩	検知解像度	フル（100%） 最適化（25%） 高速（12%）	モーション検知を行うときに、ライブ映像データをそのままのサイズで使用する（フル）か、小さい画像サイズで高速に行う（最適化または高速）が設定します。

「設定値」の太字は初期値です。

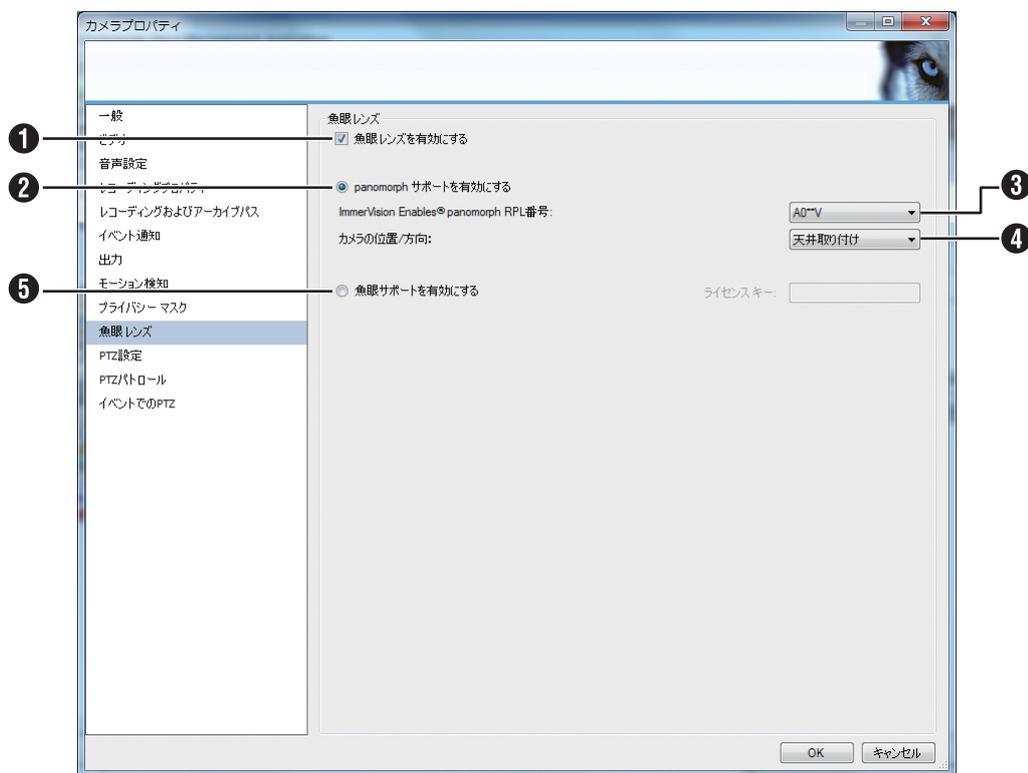
プライバシーマスク



付番	項目	設定値	内容
①	有効	チェック チェックなし	プライバシーマスクを使用するときにチェックを付けます。
②	グリッドを表示	チェック チェックなし	プレビュー画面（ライブ映像）にグリッドを表示します。
③	プライバシーマスクの表示	チェック チェックなし	プレビュー画面（ライブ映像）のプライバシーマスクが設定されているエリアを赤色で表示します。

「設定値」の太字は初期値です。

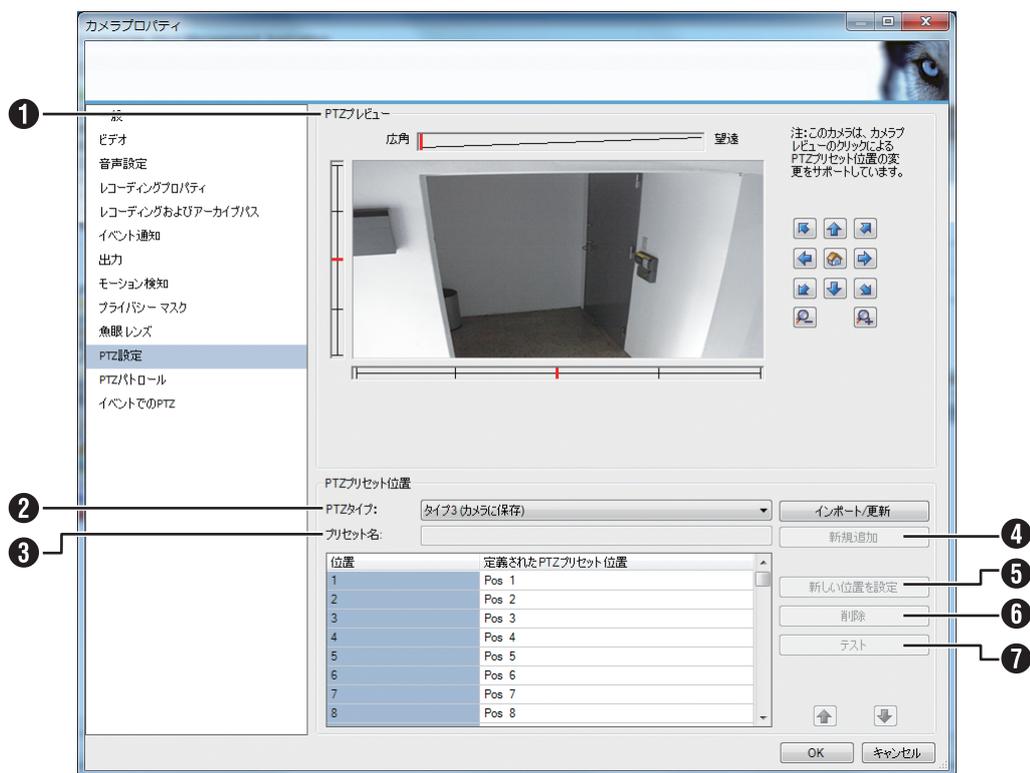
魚眼レンズ



付番	項目	設定値	内容
①	魚眼レンズを有効にする	チェック チェックなし	魚眼機能を使用するときにチェックを付けます。
②	panomorph サポートを有効にする	チェック チェックなし	panomorph サポートの番号とカメラの位置 / 方向を設定します。
③	ImmerVision Enables® panomorph RPL 番号	AO**V A1UST A8TRT	
④	カメラの位置 / 方向	天井取り付け 壁面取り付け 床面取り付け	
⑤	魚眼サポートを有効にする	チェック チェックなし	魚眼機能を使用するためのライセンスキーを入力します。 本機は魚眼機能には対応しておりません。

「設定値」の太字は初期値です。

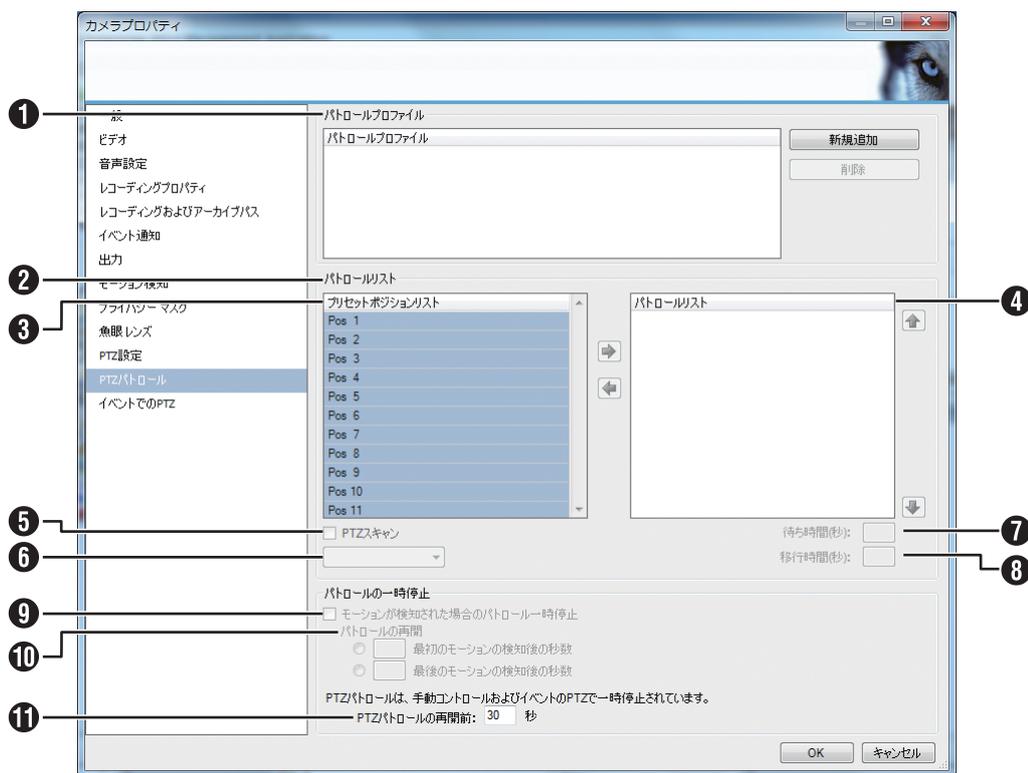
PTZ 設定



付番	項目	設定値	内容
①	PTZ プレビュー	—	PTZ カメラを希望の位置に向けます。
②	PTZ タイプ	タイプ 1 (サーバーに保存) タイプ 2 (カメラに保存) タイプ 3 (カメラに保存)	PTZ カメラのタイプを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> タイプ 1 (サーバーに保存) : プリセット位置を本機で設定・保存します。 タイプ 2 (カメラに保存) : [インポート/更新] をクリックして、プリセット位置をカメラから読み込みます。プリセット位置は、本機に保存されます。 タイプ 3 (カメラに保存) : [インポート/更新] をクリックして、プリセット位置をカメラから読み込みます。プリセット位置は、カメラに保存されます。JVC のカメラをお使いの場合、プリセット位置精度の高い「タイプ 3」に設定することをおすすめします。(カメラによっては選択できません。)
③	プリセット名	—	プリセット名称を入力します。
④	新規追加	—	設定中のプリセット位置をリストに追加します。
⑤	新しい位置を設定	—	リストで選択したプリセット位置を修正します。位置の修正は、PTZ プレビュー画面で行います。
⑥	削除	—	リストで選択したプリセット位置を削除します。
⑦	テスト	—	プリセット位置をテストします。

「設定値」の太字は初期値です。

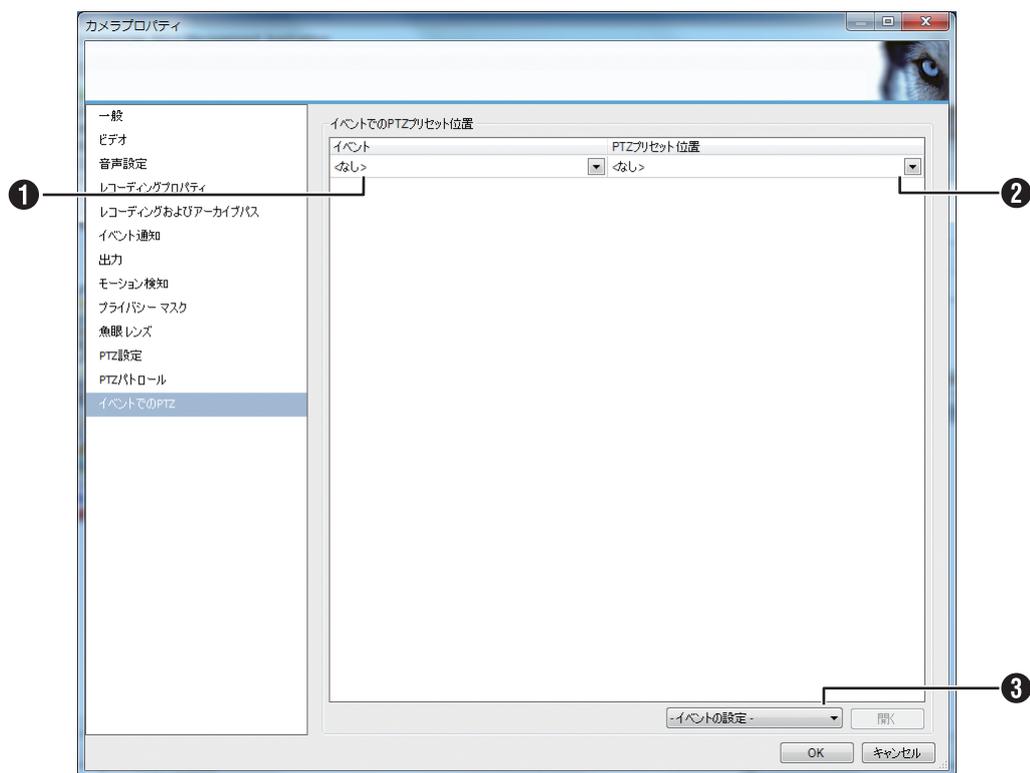
PTZ パトロール



付番	項目	設定値	内容
①	パトロールプロファイル	—	設定済みのパトロールの表示と新規パトロールプロファイルの作成をします。
②	パトロールリスト	—	パトロール内容を編集します。
③	プリセットポジションリスト	—	選択したカメラに登録済みのプリセット位置を表示します。パトロールに追加するプリセット位置を選択し、  をクリックしてパトロールリストに追加します。
④	パトロールリスト	—	パトロールに登録されたプリセット位置を表示します。パトロールから削除するときは、削除するプリセット位置を選択し、  をクリックします。
⑤	PTZ スキャン	チェック チェックなし	PTZ スキャン機能を持ったカメラの場合にチェックを付けて、スキャンの速度を設定します。
⑥	PTZ スキャン (速度)	超低速 低速 中速 高速 超高速	
⑦	待ち時間 (秒)	10 秒	各プリセット位置でカメラが停止する時間を設定します。
⑧	移行時間 (秒)	5 秒	各プリセット位置間をカメラが移動する時間を設定します。この間は、モーション検知は行いません。
⑨	モーションが検知された場合の パトロールの一時停止	チェック チェックなし	チェックを付けると、モーション検知時にパトロールを一時停止します。
⑩	パトロールの再開	最初のモーション検知後の秒数 最後のモーション検知後の秒数	モーション検知で一時停止したパトロールを再開するタイミングを設定します。
⑪	PTZ パトロールの再開前	30 秒	手動での PTZ 操作またはイベントで中断されたパトロールを再開するタイミングを設定します。

「設定値」の太字は初期値です。

イベントでの PTZ

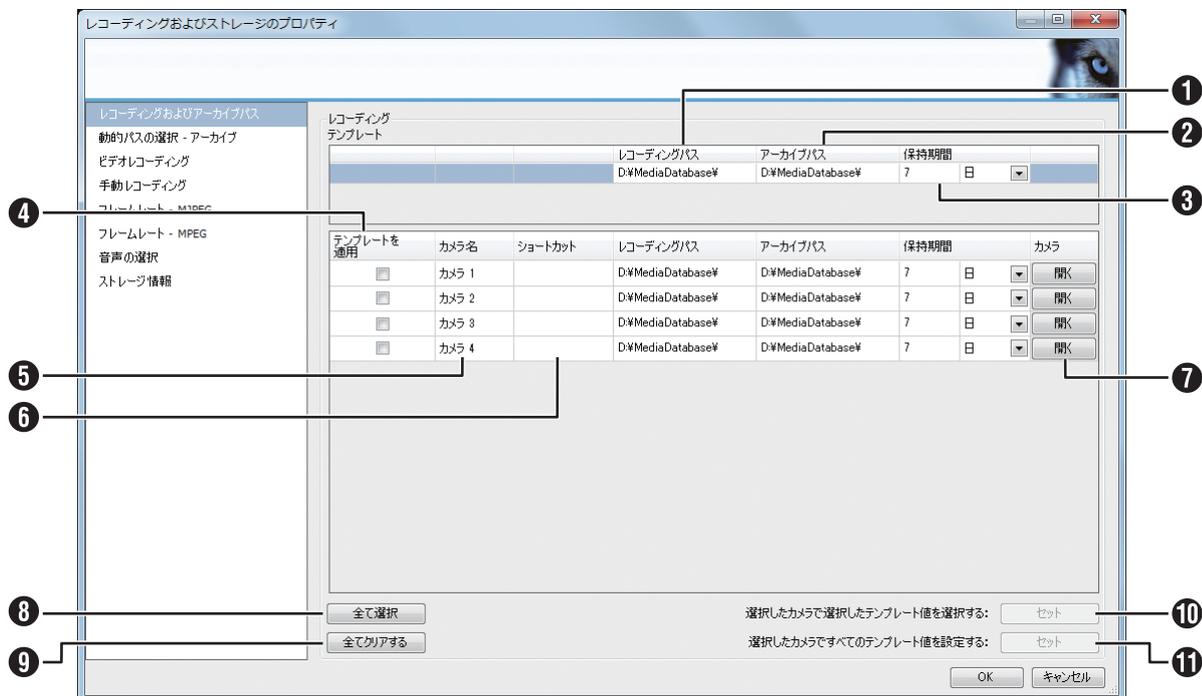


付番	項目	設定値	内容
①	イベント	—	イベントで PTZ カメラを移動する場合の、イベントとプリセット位置の組み合わせを設定します。
②	PTZ プリセット位置	—	
③	イベントの設定	ハードウェア入力イベント 手動イベント ジェネリックイベント	イベントを選択して [開く] をクリックすると、選択したイベントの設定画面を表示します。

「設定値」の太字は初期値です。

レコーディングおよびストレージのプロパティ

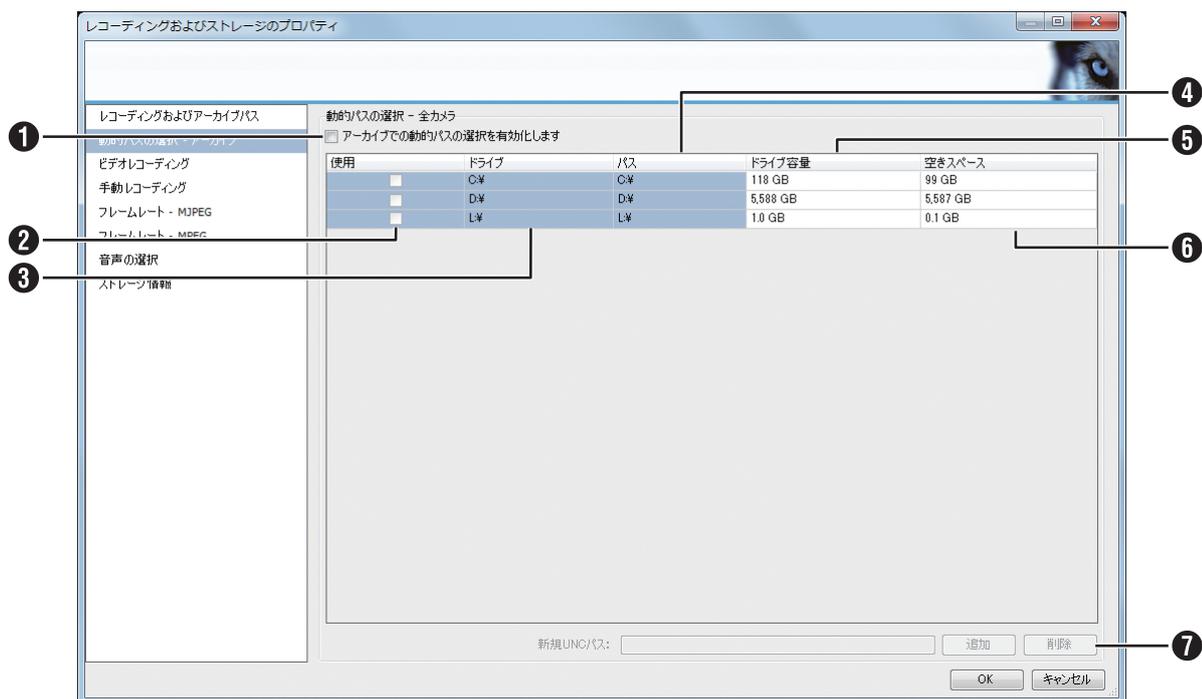
レコーディングおよびアーカイブパス



付番	項目	設定値	内容
①	レコーディングパス	D : ¥MediaDatabase	HDD の論理ドライブ上のパスを指定します。
②	アーカイブパス	D : ¥MediaDatabase	データベースのアーカイブ先を指定します。 動的パスを使用しているときは指定できません。
③	保持期間	日、時間、分 7日	一定の記録時間に達するまで、記録をデータベースに保存します。記録時間を入力し、時間の単位（分、時間、日）をリストから選択します。
④	テンプレートを適用	チェック チェックなし	上段の「テンプレート」で設定した内容を適用するときにチェックを付けます。
⑤	カメラ名	—	カメラ名を表示します。
⑥	ショートカット	—	カメラの番号を設定します。 カメラ番号は、他と重ならないようにしてください。
⑦	カメラ	—	[開く] をクリックすると、「カメラプロパティ」画面を表示します。
⑧	全て選択	—	すべてのカメラのチェックボックスにチェックを付けます。
⑨	全てクリアする	—	すべてのカメラのチェックボックスのチェックをはずします。
⑩	選択したカメラで選択したテンプレート値を選択する	—	[セット] をクリックすると「テンプレートを適用」でチェックを付けたカメラに、テンプレートで選択した値を設定します。
⑪	選択したカメラですべてのテンプレート値を設定する	—	[セット] をクリックすると「テンプレートを適用」でチェックを付けたカメラに、テンプレートのすべての値を設定します。

「設定値」の太字は初期値です。

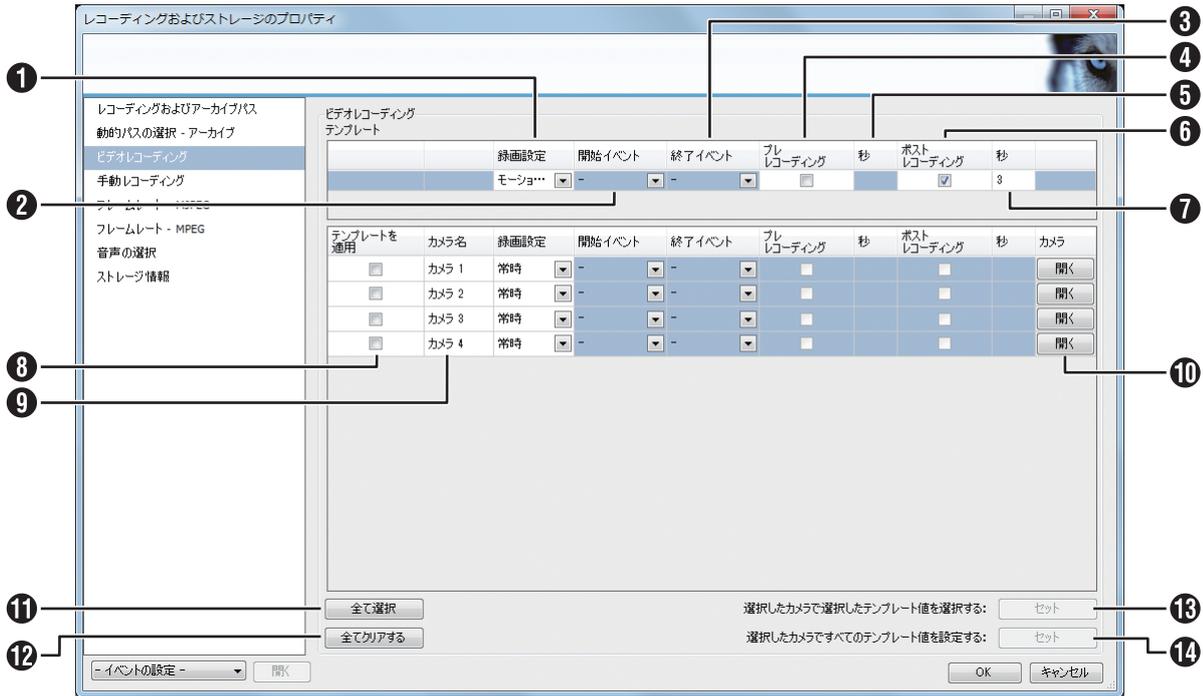
動的パスの選択 - アーカイブ



付番	項目	設定値	内容
①	アーカイブでの動的パスの選択を有効化します	チェック チェックなし	アーカイブ先のドライブを登録リストから自動選択するときにチェックを付けます。
②	使用	—	登録されたアーカイブ先は、ドライブ、パス、ドライブ容量、空きスペースとともにリストに表示されます。 「使用」のチェックをはずすと、選択されなくなります。
③	ドライブ	—	
④	パス	—	
⑤	ドライブ容量	—	
⑥	空きスペース	—	
⑦	新規 UNC パス	—	動的パスによる自動選択に登録したいドライブパスを入力します。

「設定値」の太字は初期値です。

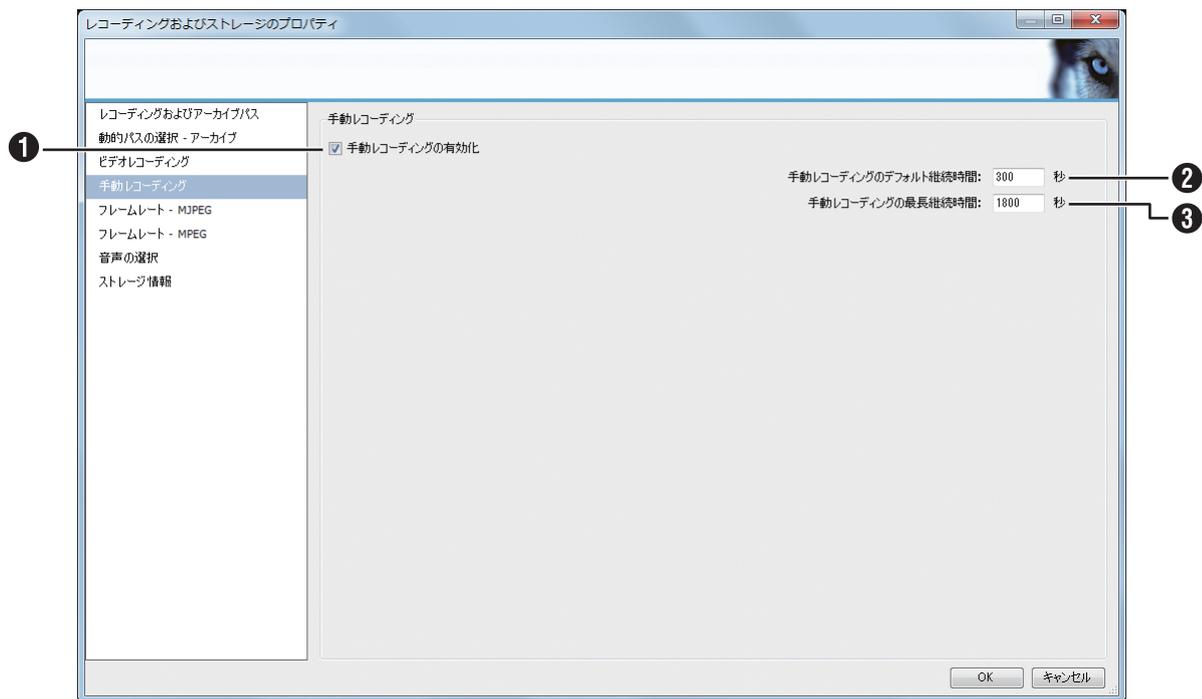
ビデオレコーディング



付番	項目	設定値	内容
①	録画設定	常時 設定しない モーション検知 イベント イベントおよびモーションの検知	録画の方法を選択します。
②	開始イベント	選択なし	録画を開始するイベント、終了するイベントを設定します。
③	終了イベント		
④	プレレコーディング	チェック チェックなし	モーションまたはイベントの前後を記録できます。発生的前後何秒間までを記録するか指定します。
⑤	秒	—	
⑥	ポストレコーディング	チェック チェックなし	
⑦	秒	3	
⑧	テンプレートを適用	チェック チェックなし	上段の「テンプレート」で設定した内容を適用するときにチェックを付けます。
⑨	カメラ名	—	カメラ名を表示します。
⑩	カメラ	—	[開く] をクリックすると、「カメラプロパティ」画面を表示します。
⑪	全て選択	—	すべてのカメラのチェックボックスにチェックを付けます。
⑫	全てクリアする	—	すべてのカメラのチェックボックスのチェックをはずします。
⑬	選択したカメラで選択したテンプレート値を選択する	—	[セット] をクリックすると「テンプレートを適用」でチェックを付けたカメラに、テンプレートで選択した値を設定します。
⑭	選択したカメラですべてのテンプレート値を設定する	—	[セット] をクリックすると「テンプレートを適用」でチェックを付けたカメラに、テンプレートのすべての値を設定します。

「設定値」の太字は初期値です。

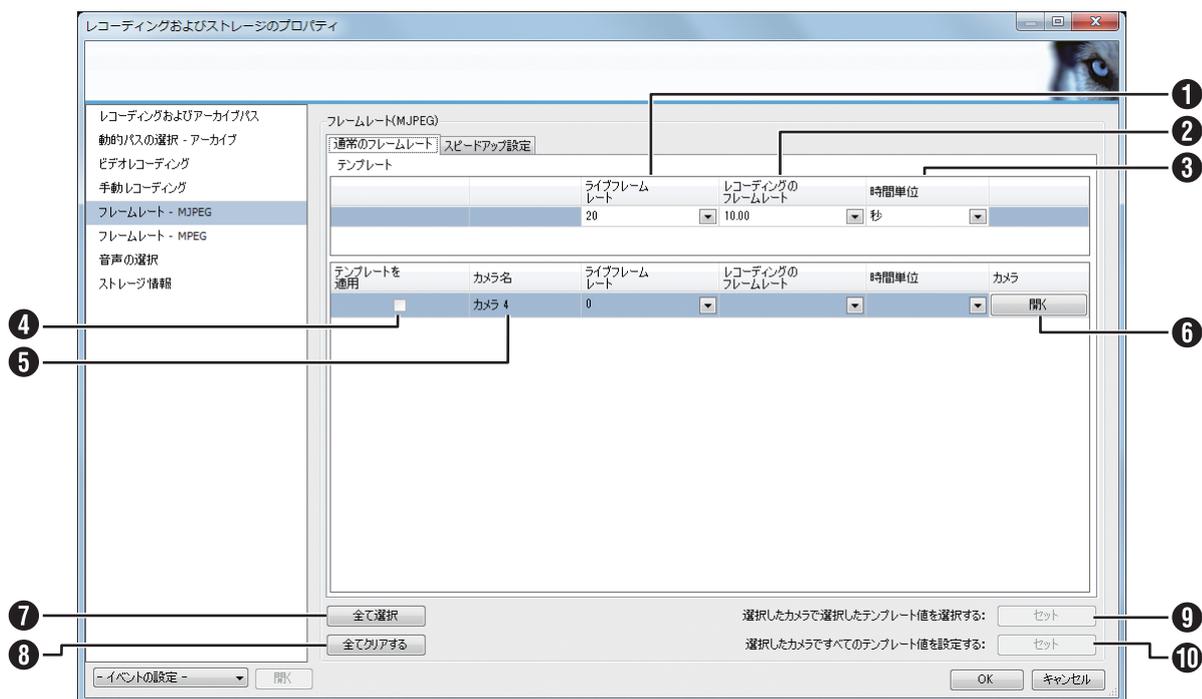
手動レコーディング



付番	項目	設定値	内容
①	手動レコーディングの有効化	チェック チェックなし	手動録画機能を使うときにチェックを付けます。 初期設定は、カメラによって異なります。
②	手動レコーディングのデフォルト継続時間	300 秒	手動録画の録画時間を設定します。決定した時間が過ぎると、自動で録画は終了します。
③	手動レコーディングの最長継続時間	1800 秒	手動録画の最長時間を設定します。

「設定値」の太字は初期値です。

フレームレート - MJPEG (通常のフレームレート)



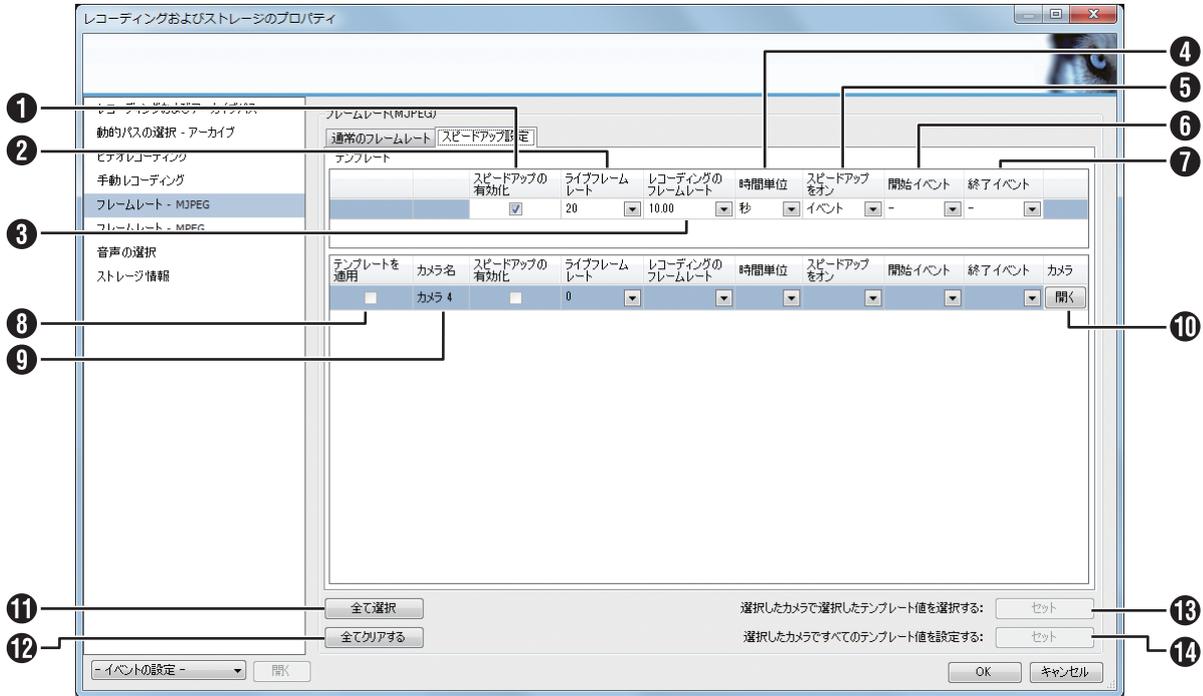
付番	項目	設定値	内容
①	ライブフレームレート	1 ~ 10、15 20、25、30	通常時のライブ画面のフレームレートを設定します。 有効な設定値はカメラによって異なります。カメラの取扱説明書をご覧ください。 になり、有効な設定値を確認してから設定してください。
②	レコーディングのフレームレート	10.00	通常時の記録するフレームレートを設定します。 有効な設定値はカメラによって異なります。カメラの取扱説明書をご覧ください。 になり、有効な設定値を確認してから設定してください。 ・「通常のフレームレート」の「ライブフレームレート」の設定によって、設定できる値が変わります。 ・「通常のフレームレート」の「ライブフレームレート」よりも大きい値は設定できません。
③	時間単位	秒 分、時間	時間単位を設定します。
④	テンプレートを適用	チェック チェックなし	上段の「テンプレート」で設定した内容を適用するときにチェックを付けます。
⑤	カメラ名	—	カメラ名を表示します。
⑥	カメラ	—	[開く] をクリックすると、「カメラプロパティ」画面を表示します。
⑦	全て選択	—	すべてのカメラのチェックボックスにチェックを付けます。
⑧	全てクリアする	—	すべてのカメラのチェックボックスのチェックをはずします。
⑨	選択したカメラで選択したテンプレート値を選択する	—	[セット] をクリックすると「テンプレートを適用」でチェックを付けたカメラに、テンプレートで選択した値を設定します。
⑩	選択したカメラですべてのテンプレート値を設定する	—	[セット] をクリックすると「テンプレートを適用」でチェックを付けたカメラに、テンプレートのすべての値を設定します。

「設定値」の太字は初期値です。

フレームレート - MJPEG (スピードアップ設定)

ご注意

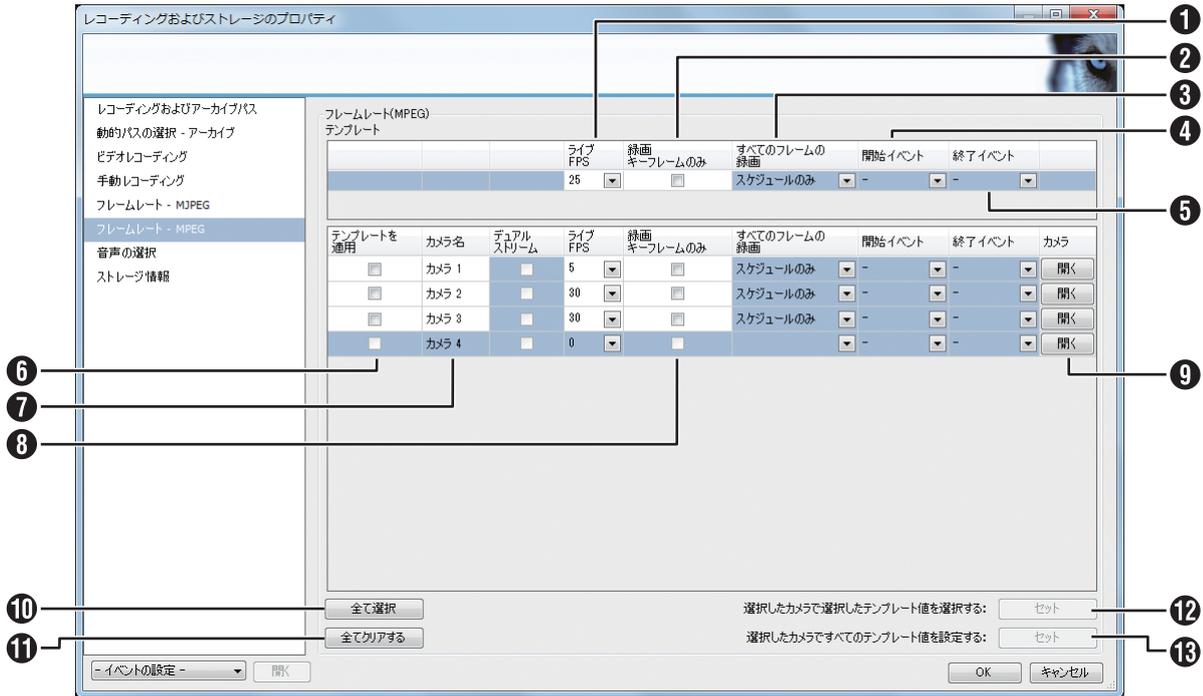
- フレームレートの合計が本機の性能を超えないように設定してください。本機の性能については、取扱説明書の『記録 / 表示 / 配信性能』をご覧ください。



付番	項目	設定値	内容
①	スピードアップの有効化	チェック チェックなし	スピードアップを有効にします。
②	ライブフレームレート	20	スピードアップ設定が有効なときの、ライブ画面のフレームレートを設定します。 ・「通常のフレームレート」の「ライブフレームレート」の設定によって、設定できる値が変わります。 ・「通常のフレームレート」の「ライブフレームレート」よりも小さい値は設定できません。
③	レコーディングのフレームレート	10.00	スピードアップ設定が有効なときの、記録するフレームレートを設定します。 ・「スピードアップ設定」の「ライブフレームレート」の設定によって、設定できる値が変わります。 ・「スピードアップ設定」の「ライブフレームレート」よりも大きい値は設定できません。
④	時間単位	秒 分、時間	時間単位を設定します。
⑤	スピードアップをオン	モーション検知 イベント イベントおよびモーションの検知 スケジュールのみ	スピードアップ設定をオンにするタイミングを設定します。
⑥	開始イベント	選択なし	「スピードアップをオン」を「イベント」または「イベントおよびモーションの検知」に設定したときに、開始 / 終了イベントを選択します。
⑦	終了イベント		
⑧	テンプレートを適用	チェック チェックなし	上段の「テンプレート」で設定した内容を適用するときにチェックを付けます。
⑨	カメラ名	—	カメラ名を表示します。
⑩	カメラ	—	「開く」をクリックすると、「カメラプロパティ」画面を表示します。
⑪	全て選択	—	すべてのカメラのチェックボックスにチェックを付けます。
⑫	全てクリアする	—	すべてのカメラのチェックボックスのチェックをはずします。
⑬	選択したカメラで選択したテンプレート値を選択する	—	「セット」をクリックすると「テンプレートを適用」でチェックを付けたカメラに、テンプレートで選択した値を設定します。
⑭	選択したカメラですべてのテンプレート値を設定する	—	「セット」をクリックすると「テンプレートを適用」でチェックを付けたカメラに、テンプレートのすべての値を設定します。

「設定値」の太字は初期値です。

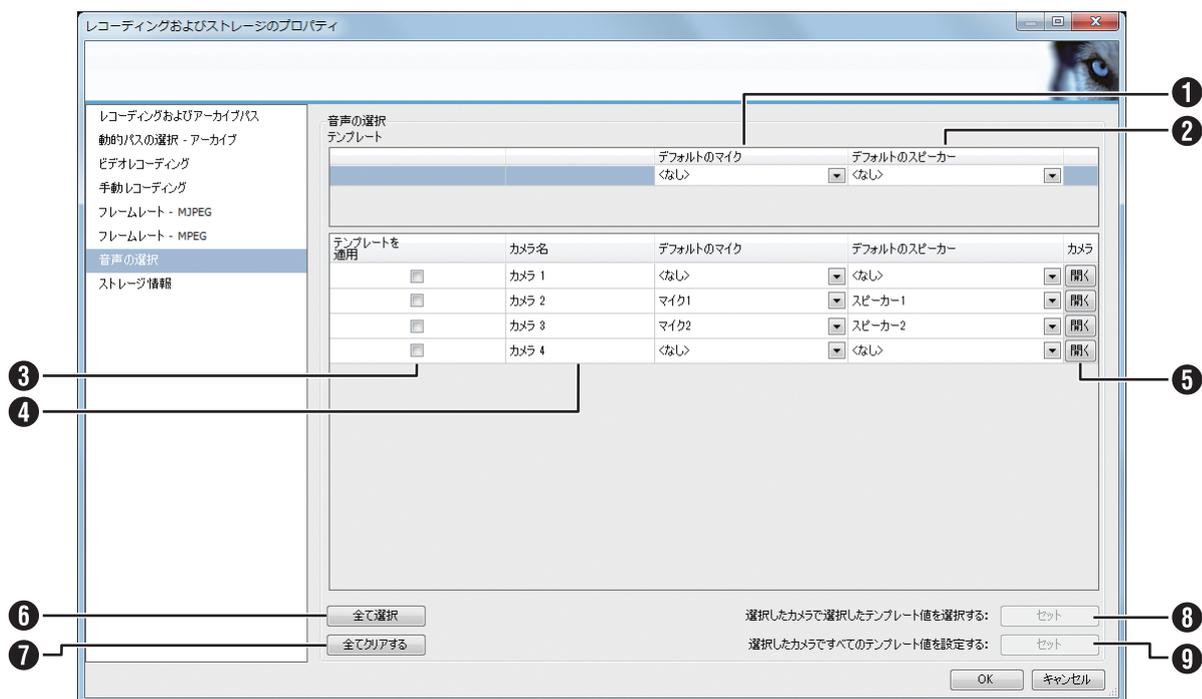
フレームレート - MPEG



付番	項目	設定値	内容
①	ライブ FPS	1 ~ 10、15、20、 25 、30	ライブ画面のときのフレームレートを設定します。 有効な設定値はカメラによって異なります。カメラの取扱説明書をご覧ください。 になり、有効な設定値を確認してから設定してください。
②	キーフレームのみの録画	チェック チェックなし	キーフレーム (1 フレーム) のみを録画するときにチェックを付けます。
③	すべてのフレームの録画	モーション検知 イベント イベントおよびモーションの検知 スケジュールのみ	「キーフレームのみの録画」にチェックを付けた場合に、すべてのフレームを録画するときの条件を選択します。
④	開始イベント	選択なし	録画を開始するイベント、終了するイベントを設定します。
⑤	終了イベント		
⑥	テンプレートを適用	チェック チェックなし	上段の「テンプレート」で設定した内容を適用するときにチェックを付けます。
⑦	カメラ名	—	カメラ名を表示します。
⑧	デュアルストリーム	チェック チェックなし	デュアルストリームを有効にするときにチェックを付けます。 デュアルストリームの設定は、カメラごとのカメラプロパティ画面で変更できます (デュアルストリームに対応しているカメラのみ設定できます)。
⑨	カメラ	—	[開く] をクリックすると、「カメラプロパティ」画面を表示します。
⑩	全て選択	—	すべてのカメラのチェックボックスにチェックを付けます。
⑪	全てクリアする	—	すべてのカメラのチェックボックスのチェックをはずします。
⑫	選択したカメラで選択したテンプレート値を選択する	—	[セット] をクリックすると「テンプレートを適用」でチェックを付けたカメラに、テンプレートで選択した値を設定します。
⑬	選択したカメラですべてのテンプレート値を設定する	—	[セット] をクリックすると「テンプレートを適用」でチェックを付けたカメラに、テンプレートのすべての値を設定します。

「設定値」の太字は初期値です。

音声の選択



付番	項目	設定値	内容
①	デフォルトのマイク	なし	マイクおよびスピーカーを使用するときの設定です。
②	デフォルトのスピーカー	なし	
③	テンプレートを適用	チェック チェックなし	上段の「テンプレート」で設定した内容を適用するときにチェックを付けます。
④	カメラ名	—	カメラ名を表示します。
⑤	カメラ	—	[開く] をクリックすると、「カメラプロパティ」画面を表示します。
⑥	全て選択	—	すべてのカメラのチェックボックスにチェックを付けます。
⑦	全てクリアする	—	すべてのカメラのチェックボックスのチェックをはずします。
⑧	選択したカメラで選択したテンプレート値を選択する	—	[セット] をクリックすると「テンプレートを適用」でチェックを付けたカメラに、テンプレートで選択した値を設定します。
⑨	選択したカメラですべてのテンプレート値を設定する	—	[セット] をクリックすると「テンプレートを適用」でチェックを付けたカメラに、テンプレートのすべての値を設定します。

「設定値」の太字は初期値です。

ストレージ情報

ドライブ	バス	使用	ドライブ容量	ビデオデータ	その他のデータ	空きスペース
C#	C#	使用しない	118 GB	0 GB	20 GB	99 GB
D#	D#	レコーディングおよびアーカイブ	5,588 GB	0.8 GB	0.3 GB	5,587 GB
L#	L#	使用しない	1.0 GB	0 GB	0.9 GB	0.1 GB

ドライブ容量 - 118 GB

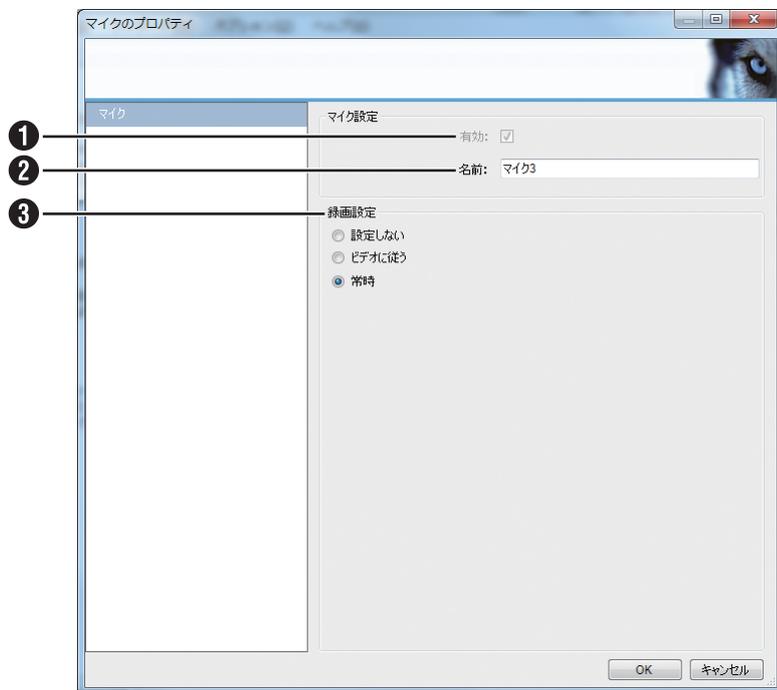
凡例:
■ 空きスペース
■ その他のデータ
■ ビデオデータ

付番	項目	設定値	内容
①	ドライブ	—	現在使用中のストレージの情報が表示されます。 ドライブごとに、パス、容量、ビデオデータ量、その他のデータ量、空きスペースが表示されます。
②	パス	—	
③	使用	—	
④	ドライブ容量	—	
⑤	ビデオデータ	—	
⑥	その他のデータ	—	
⑦	空きスペース	—	

「設定値」の太字は初期値です。

マイクのプロパティ

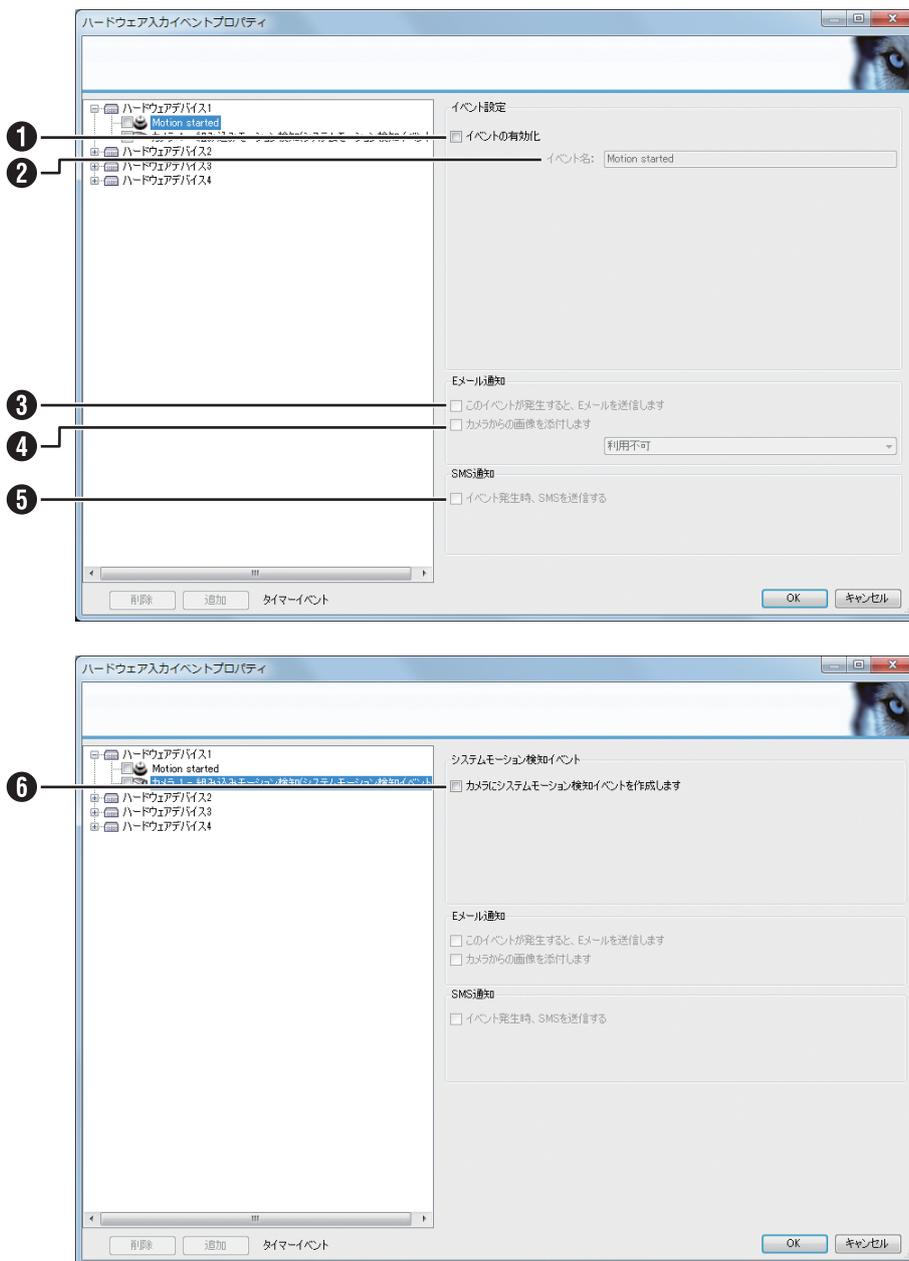
マイク



付番	項目	設定値	内容
①	有効	チェック チェックなし	マイクを有効にするときにチェックを付けます。
②	名前	—	マイクの名称を入力します。
③	録画設定	設定しない ビデオに従う 常時	<ul style="list-style-type: none"> 設定しない： 音声を記録しません。 ビデオに従う： 同じデバイス上にあるカメラの記録タイミングに従って音声を記録します。 常時： 常に音声を記録します。カメラの記録設定とは独立しています。

「設定値」の太字は初期値です。

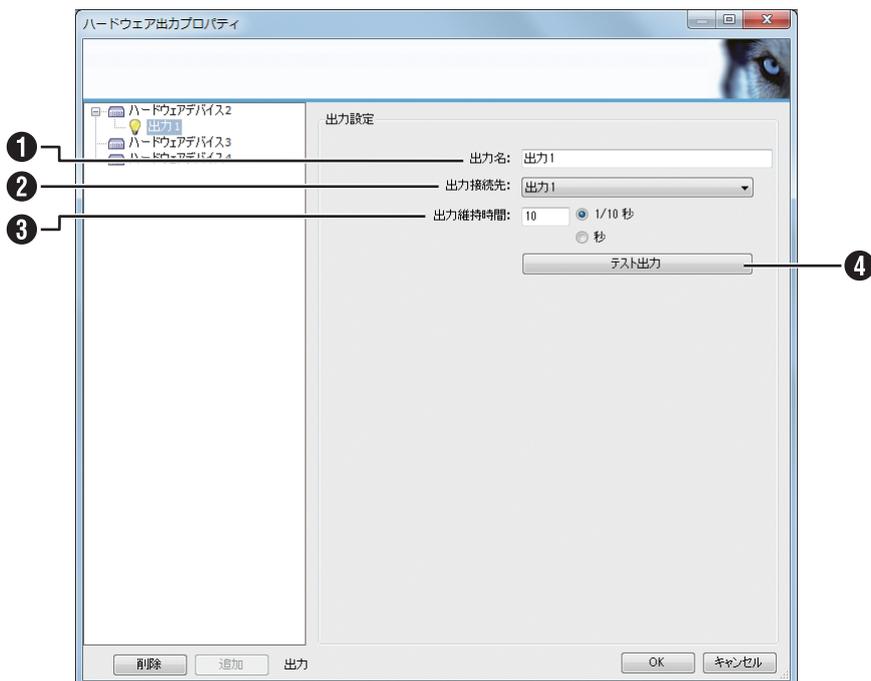
ハードウェア入カイベントプロパティ



付番	項目	設定値	内容
①	イベントの有効化	チェック チェックなし	イベント機能を使用するときにチェックを付けます。 設定する項目は、選択したイベントによって異なります。
②	イベント名	なし	イベント名を設定します。 ・ 次の文字は使えません。 < > & ' " ¥ / : * ? []
③	このイベントが発生すると、Eメールを送信します	チェック チェックなし	イベント発生時にEメールを送信するときにチェックを付けます。
④	カメラからの画像を添付します	チェック チェックなし	Eメールに画像を添付するときにチェックを付けて、プルダウンから画像の添付元を選択します。
⑤	イベント発生時、SMSを送信する	チェック チェックなし	本機はSMSでの通知には対応していません。
⑥	カメラにシステムモーション検知イベントを作成します	チェック チェックなし	モーション検知時のイベントを作成するときにチェックを付けます。

「設定値」の太字は初期値です。

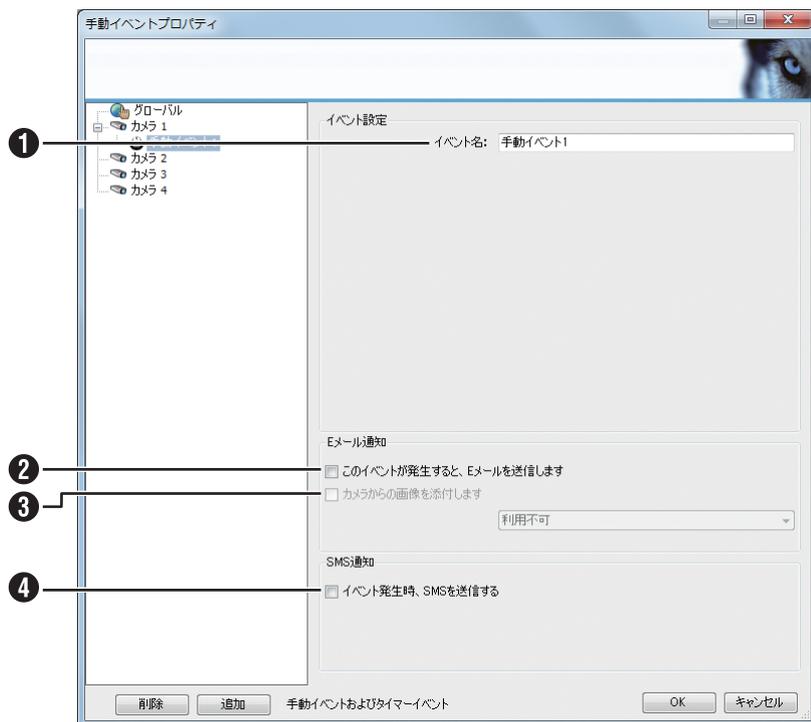
ハードウェア出力プロパティ



付番	項目	設定値	内容
①	出力名	—	出力の名前を設定します。 ・ 次の文字は使えません。: < > & ' " ¥ / : * ? []
②	出力接続先	—	出力の接続先を選択します。
③	出力維持時間	10 (1/10 秒)	出力を保持する時間を、1/10 秒または秒単位で設定します。
④	テスト出力	—	テスト出力をクリックすると、出力の設定をテストすることができます。

「設定値」の太字は初期値です。

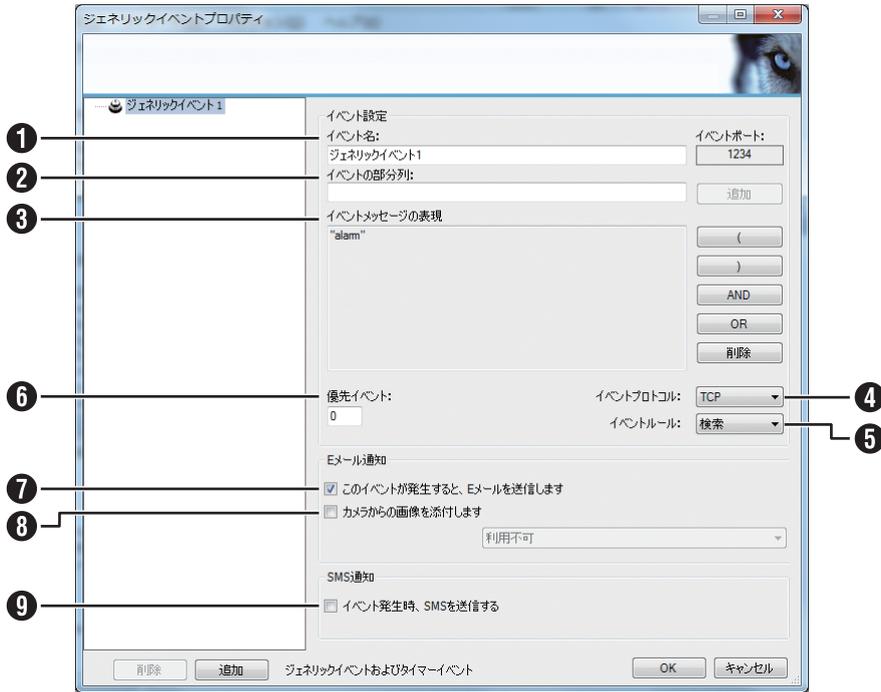
手動イベントプロパティ



付番	項目	設定値	内容
①	イベント名	なし	イベント名を設定します。 ・ 次の文字は使えません。: < > & ' " ¥ / : * ? []
②	このイベントが発生すると、Eメールを送信します	チェック チェックなし	イベント発生時に Eメールを送信するときにチェックを付けます。
③	カメラからの画像を添付します	チェック チェックなし	Eメールに画像を添付するときにチェックを付けて、プルダウンから画像の添付元を選択します。
④	イベント発生時、SMSを送信する	チェック チェックなし	本機は SMS での通知には対応していません。

「設定値」の太字は初期値です。

ジェネリックイベントプロパティ

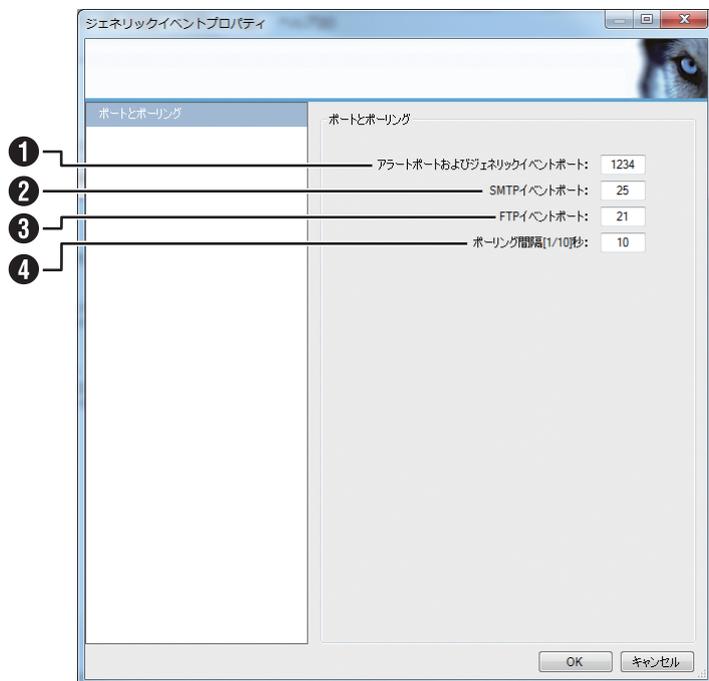


付番	項目	設定値	内容
①	イベント名	—	イベントの名前を設定します。 ・ 次の文字は使えません。:<>&'"/:*? []
②	イベントの部分列	—	受信した文字列の解析時にキーワードとなる語句を入力します。入力した語句は、[追加]をクリックすると、「イベントメッセージの表現」に追加されます。 ・ 次の文字は使えません。:<>&'"/:*? []
③	イベントメッセージの表現	—	追加した語句が表示されます。次のボタンを使って条件を編集します。 ・ () : 関連する語句をひとまとまりにしています。() でまとめられた語句は、他の語句に優先して処理されます。 ・ AND : 両方とも含む必要がある語句のあいだに追加します。 ・ OR : いずれかを含む必要がある語句のあいだに追加します。 ・ 削除 : カーソルの左側の語句を削除します。
④	イベントプロトコル	何れでも TCP UDP	イベントを検知するのに、本機が受信するプロトコルを選択します。
⑤	イベントルール	一致 検索	受信データを解析するときのルール（完全一致したデータを解析するか、部分一致したデータを解析するか）を設定します。
⑥	優先イベント	0 ~ 1000 0	各イベントに優先順位をつけて、受信データが複数のイベントルールに合致する場合に作動させるイベントを決定します。
⑦	このイベントが発生すると、Eメールを送信します	なし	イベント発生時にEメールを送信するときにチェックを付けます。
⑧	カメラからの画像を添付します	チェック チェックなし	Eメールに画像を添付するときにチェックを付けて、プルダウンから画像の添付元を選択します。
⑨	イベント発生時、SMSを送信する	チェック チェックなし	本機はSMSでの通知には対応していません。

「設定値」の太字は初期値です。

ジェネリックイベントプロパティ

ポートとポーリング

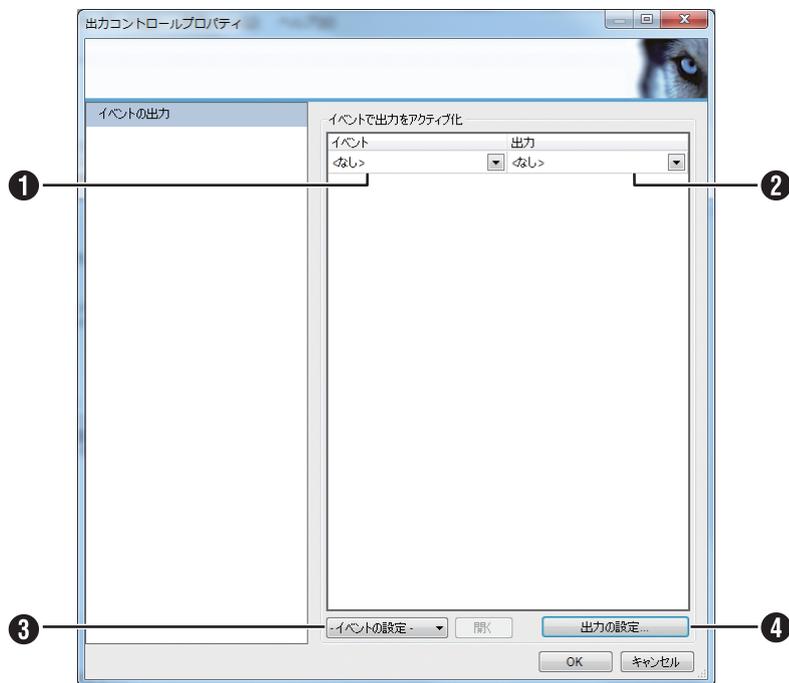


付番	項目	設定値	内容
①	アラートポートおよび ジェネリックイベントポート	1 ~ 65535 1234	ジェネリックイベントなど、イベントによる警告を扱うポート番号を設定します。
②	SMTP イベントポート	1 ~ 65535 25	デバイスから監視システムに SMTP を介してイベント情報を送信するときのポート番号を設定します。
③	FTP イベントポート	1 ~ 65535 21	デバイスから監視システムに FTP を介してイベント情報を送信するときのポート番号を設定します。
④	ポーリング間隔 [1/10] 秒	10 (1/10 秒)	いくつかのデバイスにおいては、入力が受信されたかどうか検知するため、監視システムがデバイスの入力ポートの状態をチェックする必要があります。そのような定期的な状態チェックを「ポーリング」と呼びます。 <ul style="list-style-type: none"> 入出力機器についてはポーリング間隔をできるだけ短く設定してください。 ポーリングを必要とするデバイスについては入出力機器の取扱説明書をご覧ください。

「設定値」の太字は初期値です。

出力コントロールプロパティ

イベントの出力

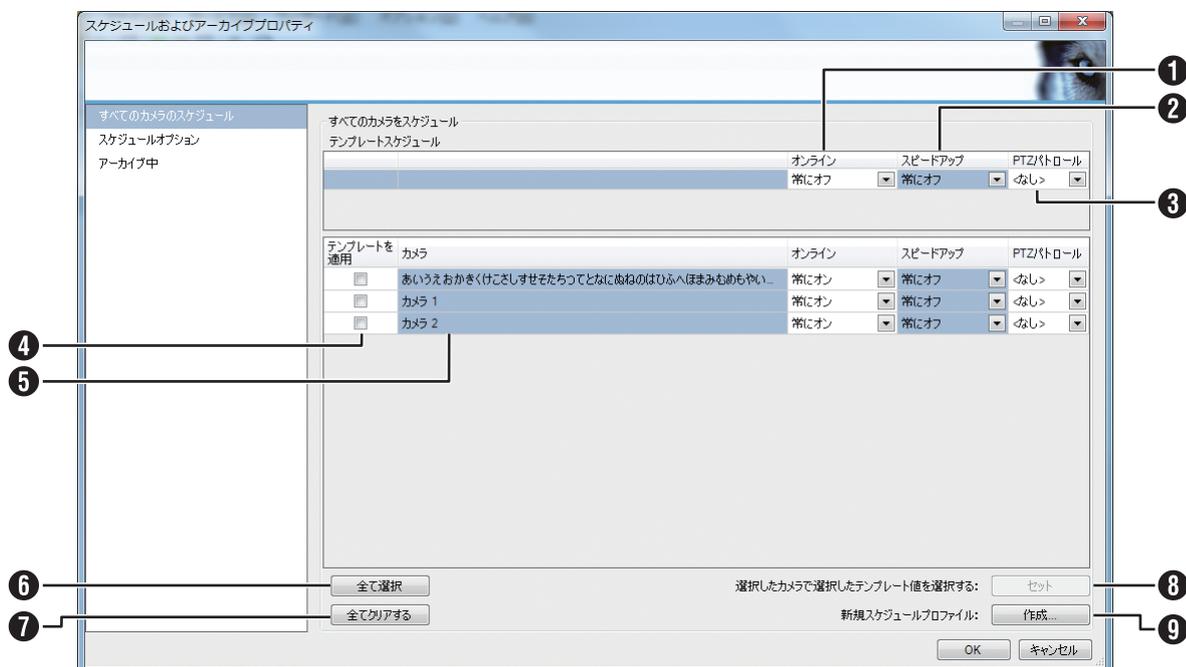


付番	項目	設定値	内容
①	イベント	なし	イベントで出力を制御する場合の、イベントと出力の組み合わせを設定します。 構成済みの入力イベントおよび出力先がある場合、それらが選択項目として表示されます。
②	出力	なし	
③	イベントの設定	ハードウェア入力イベント 手動イベント ジェネリックイベント	イベントを選択して [開く] をクリックすると、選択したイベントの設定画面を表示します。
④	出力の設定	—	出力設定画面を表示します。

「設定値」の太字は初期値です。

スケジュールおよびアーカイブ

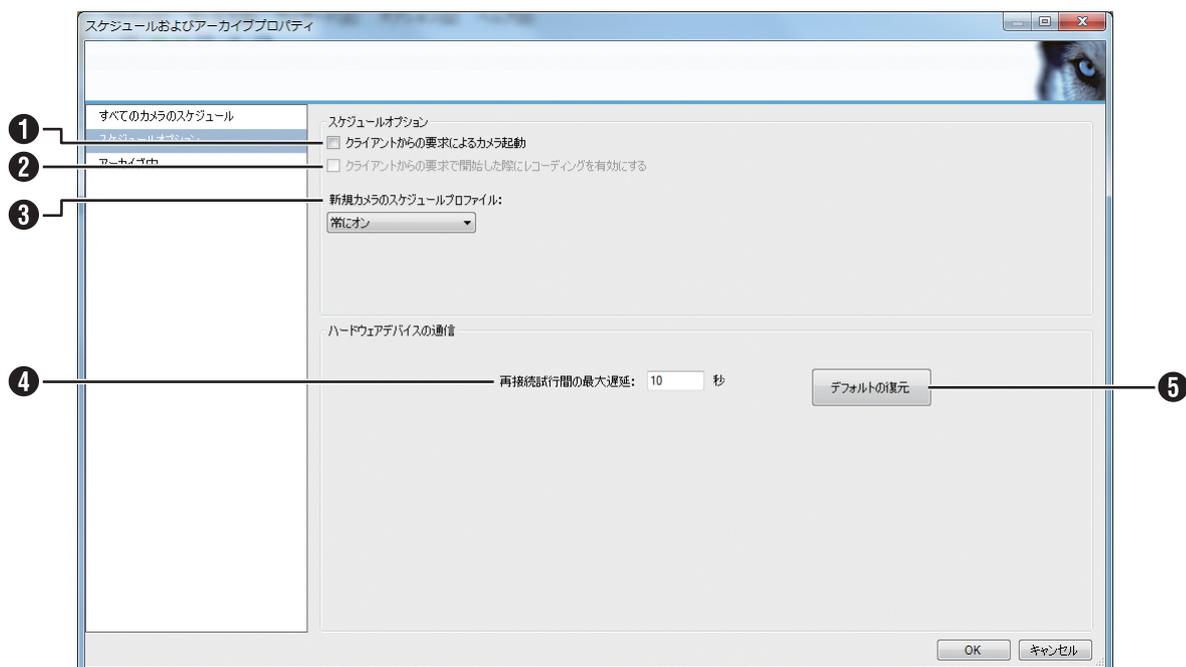
すべてのカメラのスケジュール



付番	項目	設定値	内容
①	オンライン	常にオフ	カメラごとに、オンライン、スピードアップ、PTZパトロールのスケジュールを選択します。
②	スピードアップ	常にオン	
③	PTZパトロール	なし	
④	テンプレートを適用	チェック チェックなし	上段の「テンプレート」で設定した内容を適用するときにチェックを付けます。
⑤	カメラ名	—	カメラ名を表示します。
⑥	全て選択	—	すべてのカメラのチェックボックスにチェックを付けます。
⑦	全てクリアする	—	すべてのカメラのチェックボックスのチェックをはずします。
⑧	選択したカメラで選択したテンプレート値を選択する	—	[セット] をクリックすると「テンプレートを適用」でチェックを付けたカメラに、テンプレートで選択した値を設定します。
⑨	新規スケジュールプロファイル	—	[作成] をクリックすると、スケジュールプロファイルを新規作成します。

「設定値」の太字は初期値です。

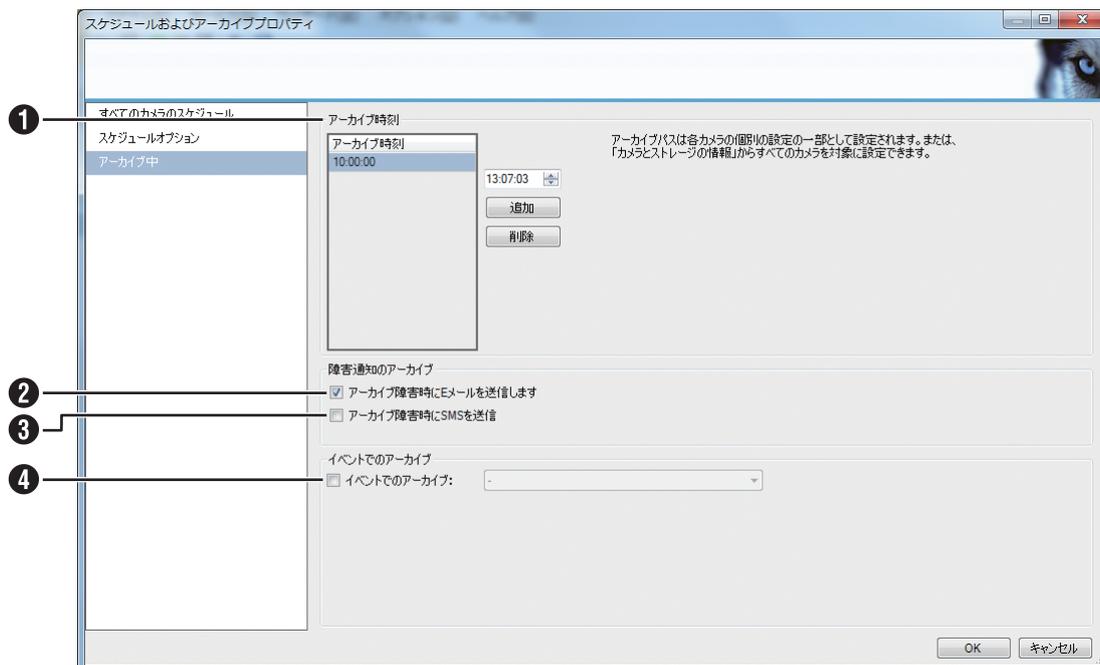
スケジュールオプション



付番	項目	設定値	内容
①	クライアント要求からの要求によるカメラ起動	チェック チェックなし	クライアントからのリクエストに応じてカメラを起動させるときにチェックを付けます。
②	クライアントからの要求で開始した際にレコーディングを有効にする	チェック チェックなし	クライアントからのリクエストに応じてカメラを起動させた場合に、記録を有効にするときはチェックを付けます。
③	新規カメラのスケジュールプロファイル	常にオン 常にオフ	カメラを新規に追加したときのスケジュールの初期値を設定します。初期設定は、カメラによって異なります。
④	再接続試行間の最大遅延	10	再接続の最大遅延時間を設定します。
⑤	デフォルトの復元	—	再接続の最大遅延時間を初期設定に戻します。

「設定値」の太字は初期値です。

アーカイブ中

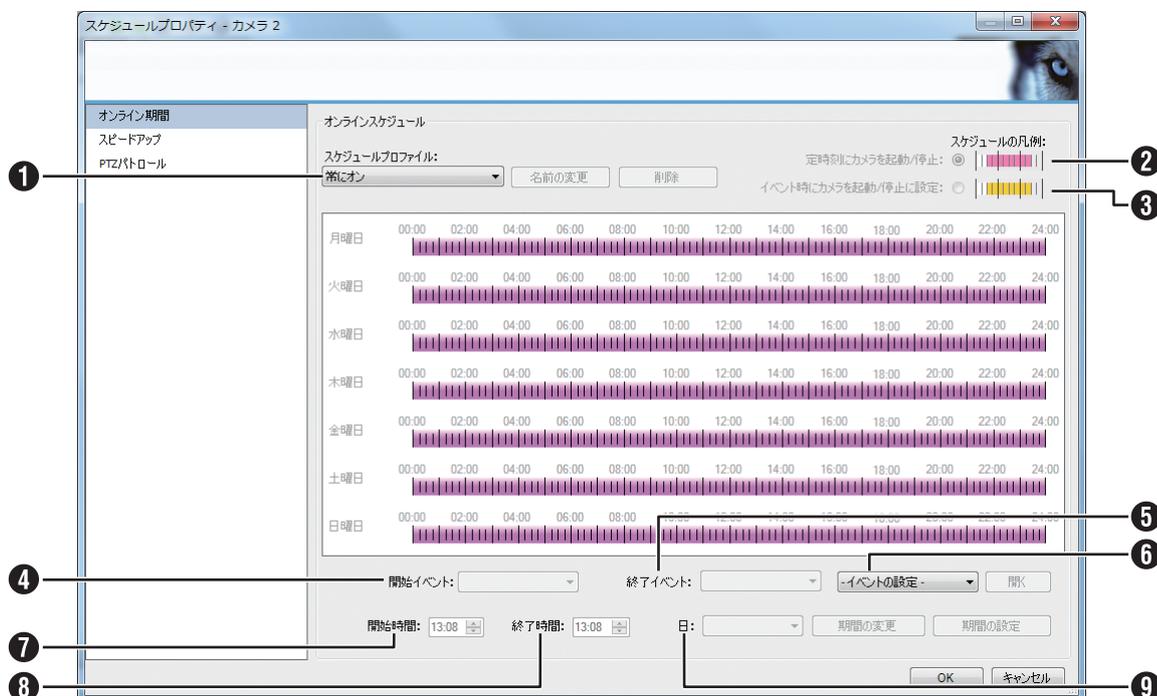


付番	項目	設定値	内容
①	アーカイブ時刻	12 : 00 : 00	アーカイブの時刻を設定します。
②	アーカイブ障害時にEメールを送信します	チェック チェックなし	アーカイブ作業中に障害が発生した場合には、Eメールを送信するときはチェックを付けます。
③	アーカイブ障害時にSMSを送信	チェック チェックなし	本機はSMSでの通知には対応していません。
④	イベントでのアーカイブ	チェック チェックなし	イベントによってアーカイブする場合はチェックを付けて、プルダウンからイベントを選択します。

「設定値」の太字は初期値です。

スケジュールプロパティ - (カメラ名)

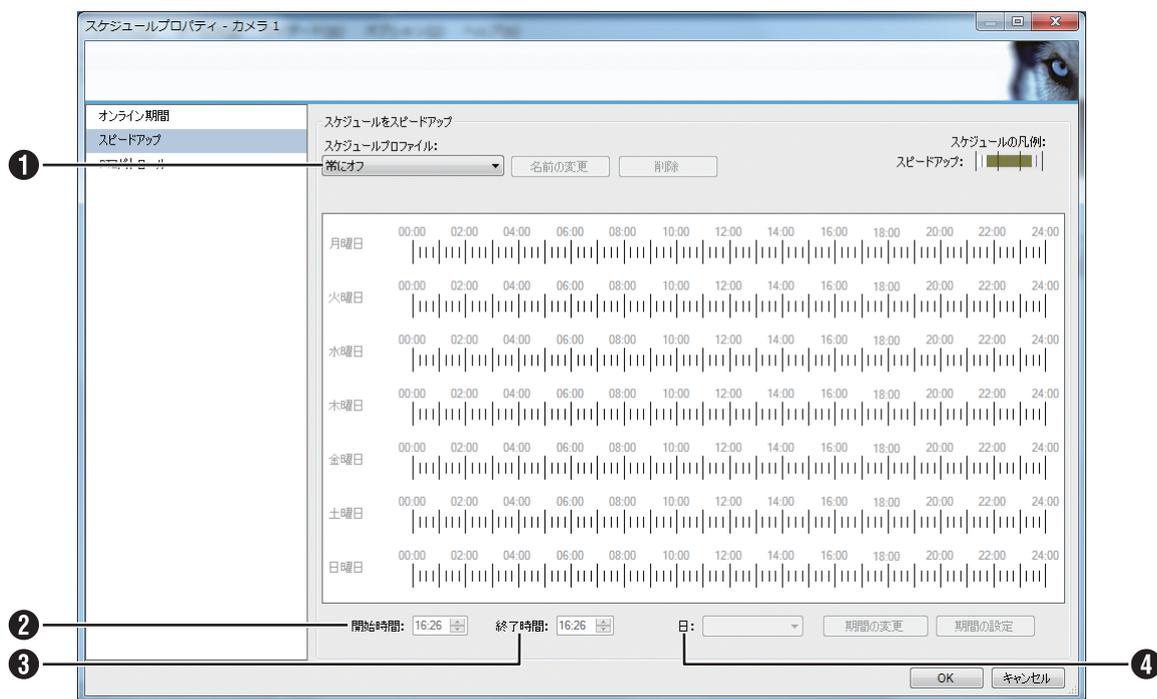
オンライン期間



付番	項目	設定値	内容
①	スケジュールプロファイル	新規追加 ... 常にオン 常にオフ	スケジュールプロファイルを選択します。 「新規追加 ...」を選択すると、新しいスケジュールを追加します。
②	定時刻にカメラを起動/停止	チェック チェックなし	規定の時間にカメラを起動/停止させます。
③	イベント時にカメラを起動/停止に設定	チェック チェックなし	イベント発生時にカメラを起動/停止させます。
④	開始イベント	—	開始イベント、終了イベントを設定します。
⑤	終了イベント	—	
⑥	イベントの設定	ハードウェア入力イベント 手動イベント ジェネリックイベント	イベントを選択して「開く」をクリックすると、選択したイベントの設定画面を表示します。
⑦	開始時間	0:00 ~ 23:59	開始時間と終了時間を設定します。
⑧	終了時間		
⑨	日	月曜日～日曜日、 平日、 毎日	期間を設定します。

「設定値」の太字は初期値です。

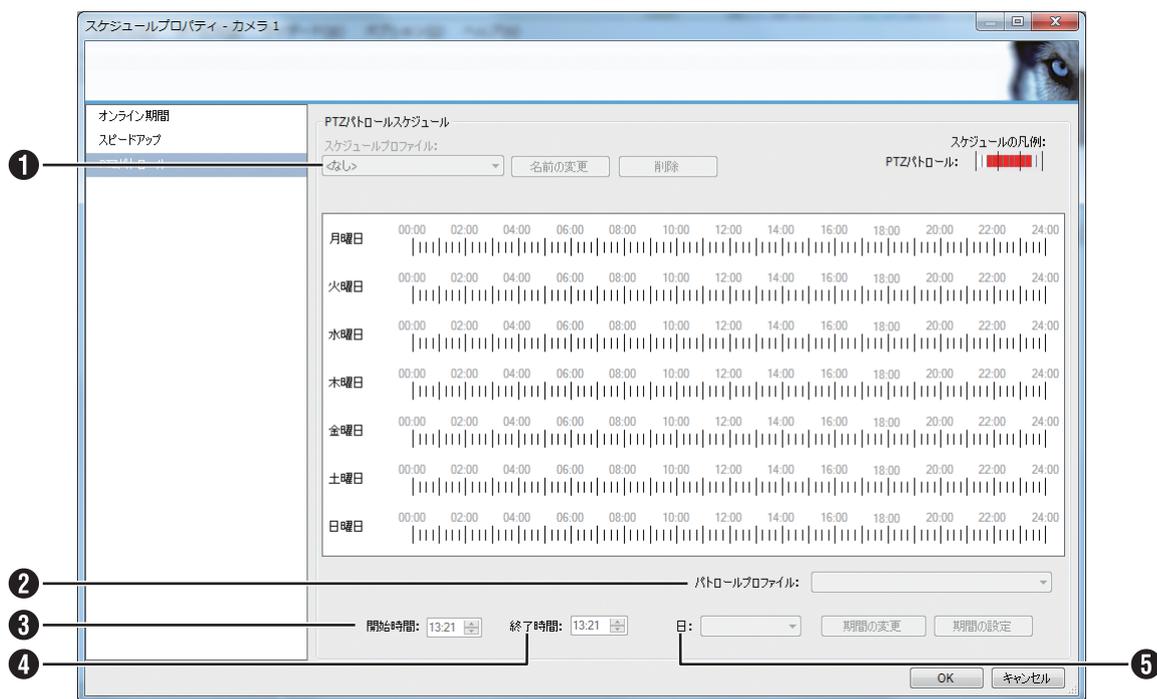
スピードアップ



付番	項目	設定値	内容
①	スケジュールプロファイル	新規追加 ... 常にオン 常にオフ	スケジュールプロファイルを選択します。 初期設定は、カメラによって異なります。 「新規追加 ...」を選択すると、新しいスケジュールを追加します。
②	開始時間	0:00 ~ 23:59	開始時間と終了時間を設定します。
③	終了時間		
④	日	月曜日～日曜日、 平日、 毎日	期間を設定します。

「設定値」の太字は初期値です。

PTZパトロール

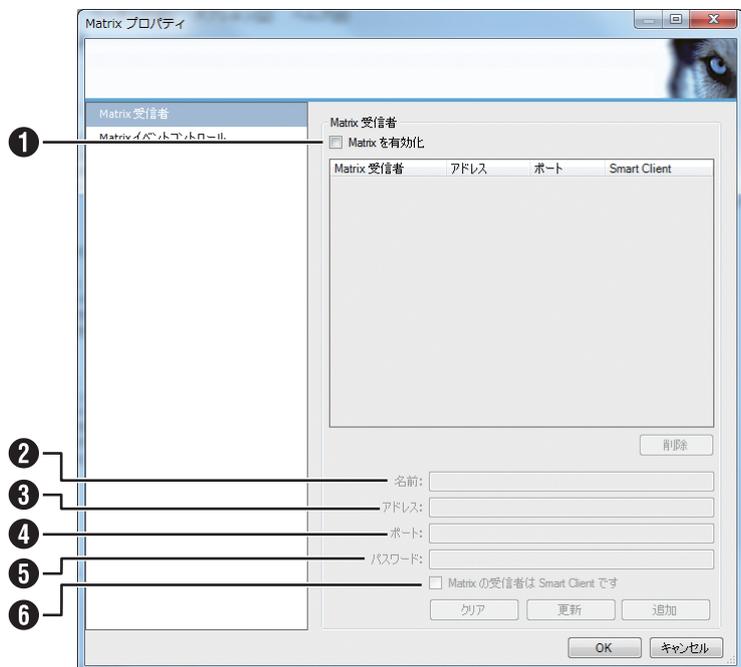


付番	項目	設定値	内容
①	スケジュールプロファイル	新規追加 ... なし	スケジュールプロファイルを選択します。 初期設定は、カメラによって異なります。
②	パトロールプロファイル	—	パトロールプロファイルを選択します。
③	開始時間	0:00 ~ 23:59	開始時間と終了時間を設定します。
④	終了時間		
⑤	日	月曜日～日曜日、 平日、 毎日	期間を設定します。

「設定値」の太字は初期値です。

Matrix プロパティ

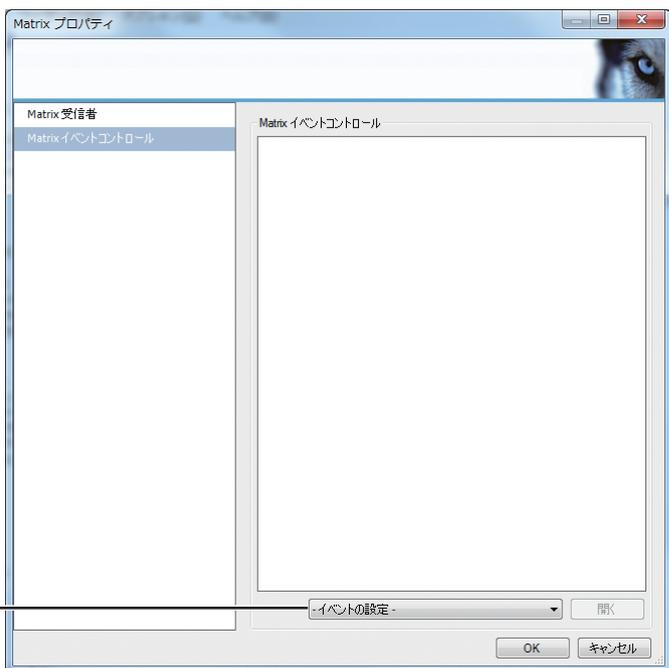
Matrix 受信者



付番	項目	設定値	内容
①	Matrix を有効化	チェック チェックなし	イベント発生時に映像を配信する Matrix 機能を有効にするときにチェックを付けます。
②	名前	—	Matrix 機能で配信される映像の受信者を設定します。
③	アドレス	—	
④	ポート	—	
⑤	パスワード	—	
⑥	Matrix の受信者は Smart Client です。	チェック チェックなし	

「設定値」の太字は初期値です。

Matrix イベントコントロール



付番	項目	設定値	内容
①	イベントの設定	ハードウェア入力イベント 手動イベント ジェネリックイベント	イベントを選択して [開く] をクリックすると、選択したイベントの設定画面を表示します。

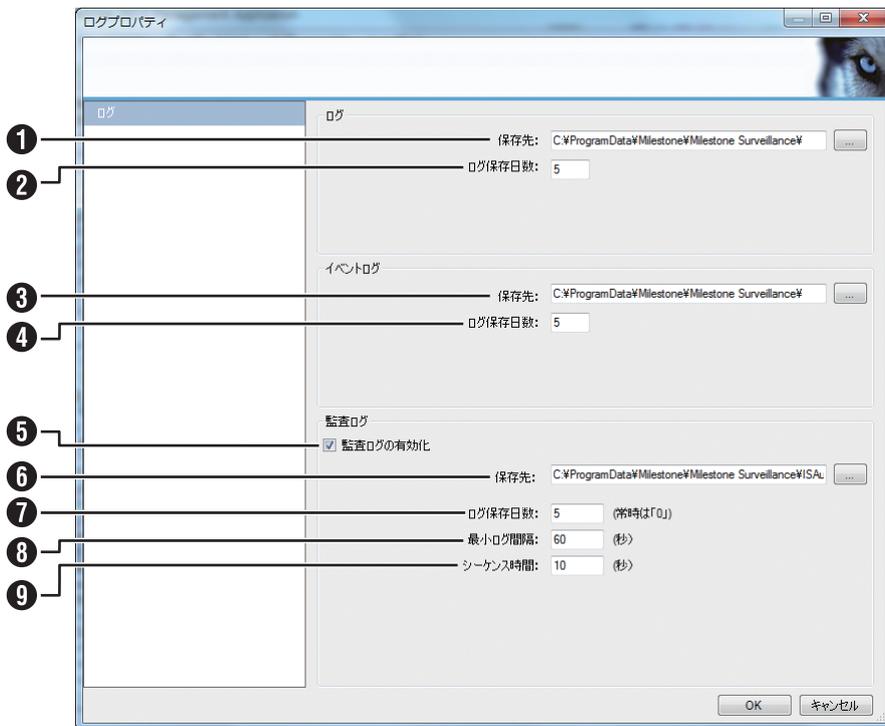
「設定値」の太字は初期値です。

ログプロパティ

ログ

ご注意

- イベントログの保存先は、変更しないでください。

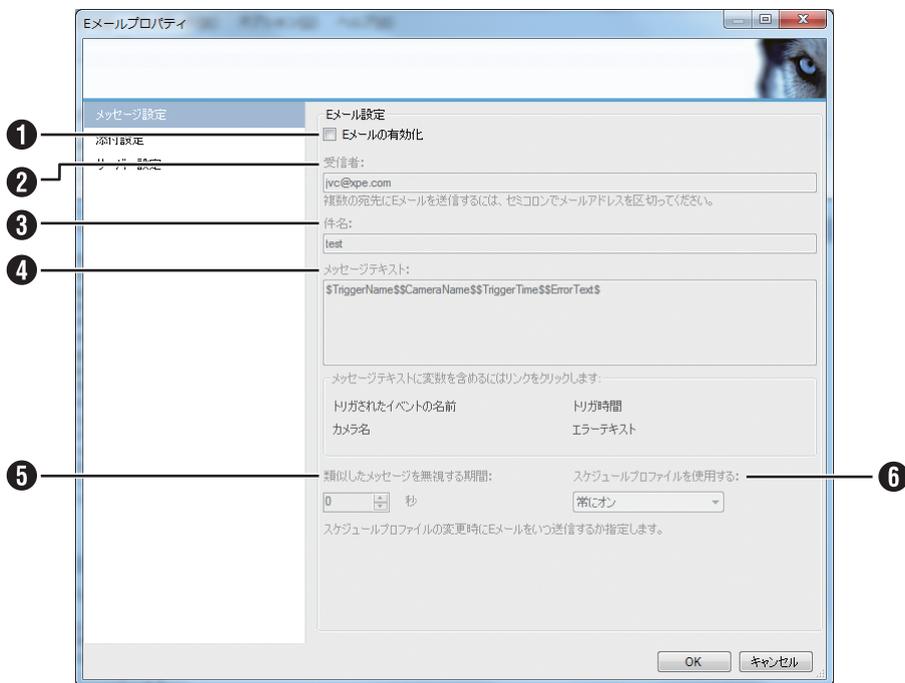


付番	項目	設定値	内容
①	保存先	L: ¥Log ¥MS ¥	システムログの保存先を指定します。
②	ログ保存日数	30	システムログを保存する日数を指定します。
③	保存先	L: ¥Log ¥MS ¥	イベントログの保存先は変更しないでください。
④	ログ保存日数	30	イベントログを保存する日数を指定します。
⑤	監査ログの有効化	チェック チェックなし	クライアントパソコンユーザーに関するログファイルの設定を行います。 ログを有効にするときはチェックを付けます。
⑥	保存先	L: ¥Log ¥MS ¥	監査ログの保存先を指定します。
⑦	ログ保存日数	30	監査ログを保存する日数を指定します。
⑧	最小ログ間隔	60	ログを取得する最小間隔を指定します。
⑨	シーケンス時間	10	同一シーケンスと見なす最大閲覧時間を指定します。

「設定値」の太字は初期値です。

E メールプロパティ

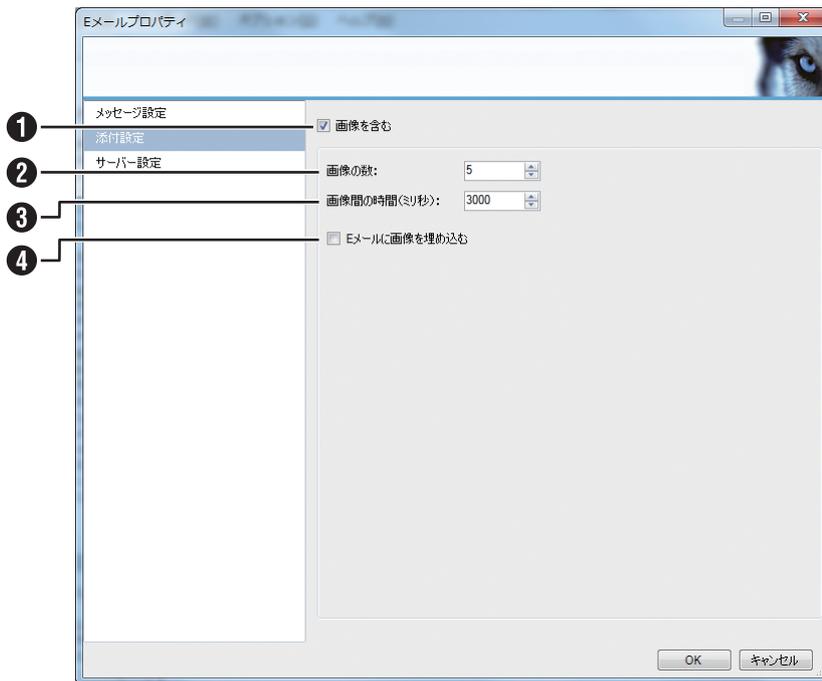
メッセージ設定



付番	項目	設定値	内容
①	Eメールの有効化	チェック チェックなし	Management Application から E メールを送信するときにチェックを付けます。
②	受信者	—	送信先のメールアドレスを入力します。複数の送信先を指定する場合は、セミコロンを入れてアドレスを続けて入力します。
③	件名	—	件名を入力します。
④	メッセージテキスト	—	送信内容を入力します。
⑤	類似したメッセージを無視する時間	0 ~ 86400 0秒	類似したイベントが続けて発生したときに、メッセージを送信しない間隔を設定します。
⑥	スケジュールプロファイルを使用する	常にオフ 常にオン 設定 ...	スケジュールプロファイルを使用し、E メールを利用する時刻を設定します。「設定 ...」を選択すると、「通知スケジューリングプロパティ」を開きます。

「設定値」の太字は初期値です。

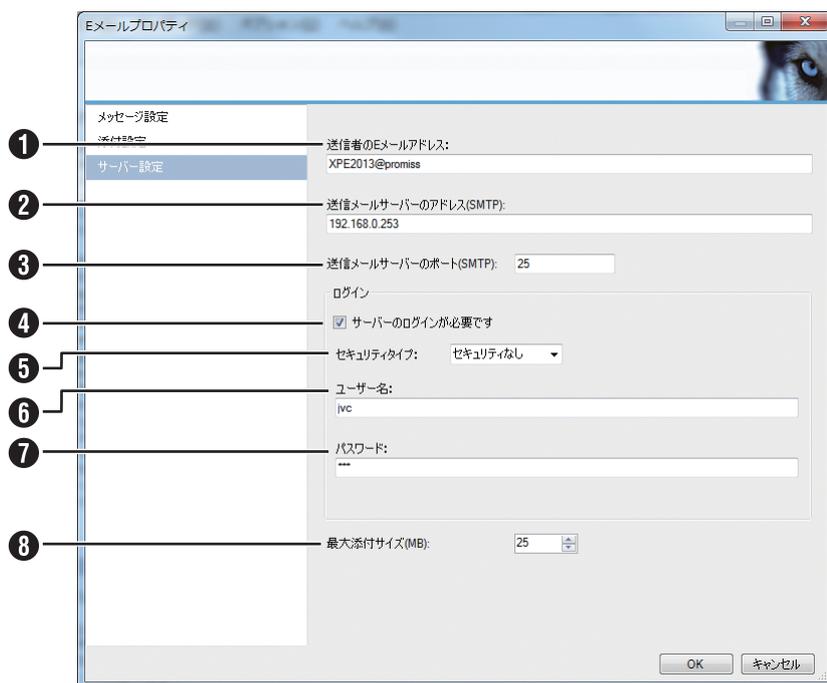
添付設定



付番	項目	設定値	内容
①	画像を含む	チェック チェックなし	メール通知に画像を添付するときにチェックを付けます。
②	画像の数	1 ~ 20 5	添付する画像の数を設定します。
③	画像間の時間 (ミリ秒)	0 ~ 300000 500	添付する画像の間隔を設定します。
④	Eメールに画像を埋め込む	チェック チェックなし	Eメールに画像を埋め込むかどうかを設定します。

「設定値」の太字は初期値です。

サーバー設定



付番	項目	設定値	内容
①	送信者のEメールアドレス	—	送信者のメールアドレスなど、メールサーバーへのログイン設定を入力します。
②	送信メールサーバーのアドレス (SMTP)	—	
③	送信メールサーバーのポート (SMTP)	25	
④	サーバーのログインが必要です	チェック チェックなし	
⑤	セキュリティタイプ	TSL SSL セキュリティなし	
⑥	ユーザー名	—	
⑦	パスワード	—	
⑧	最大添付サイズ (MB)	25	

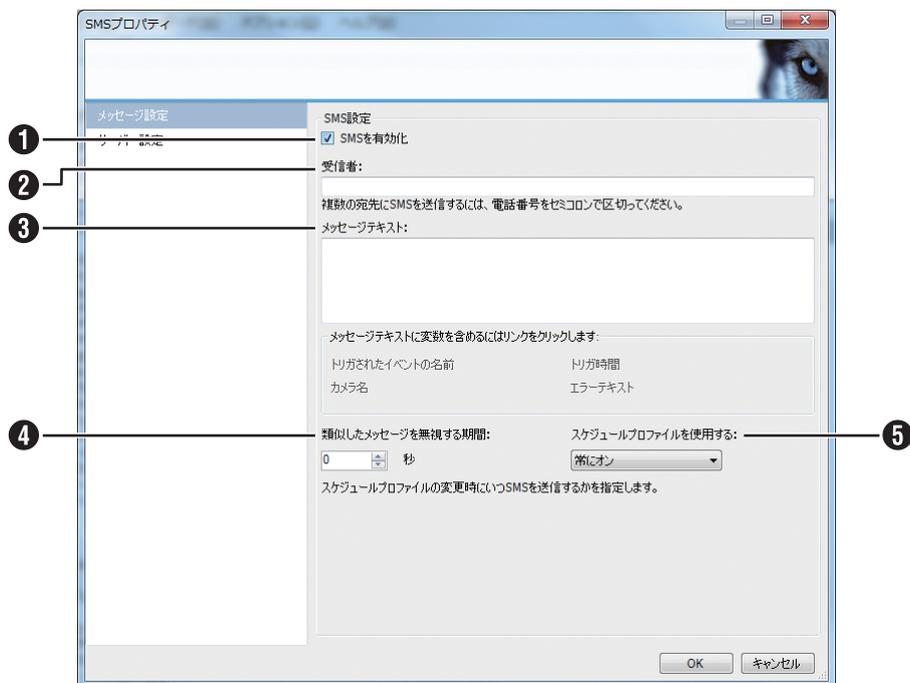
「設定値」の太字は初期値です。

SMS プロパティ

メッセージ設定

ご注意

- 本機は、SMS での通知には対応していません。



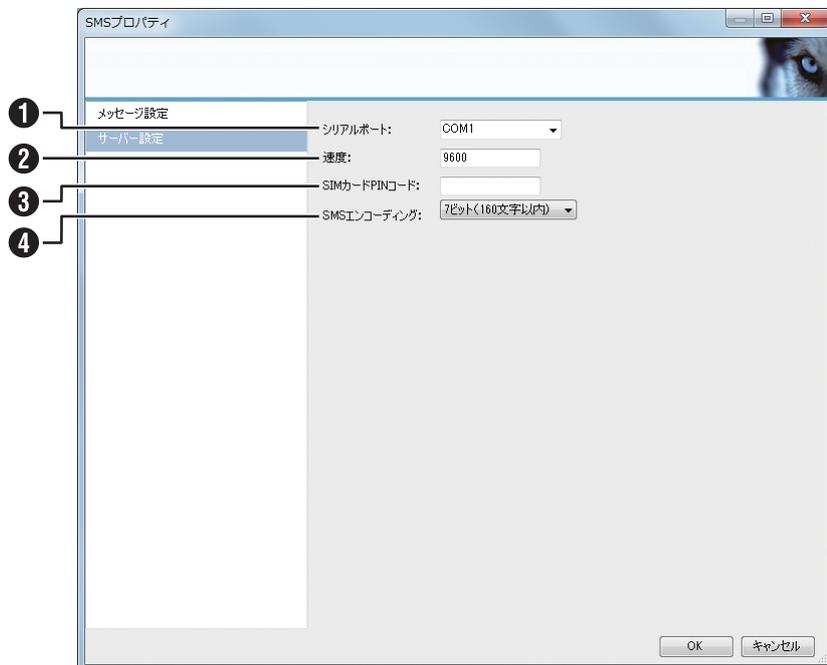
付番	項目	設定値	内容
①	SMS を有効化	チェック チェックなし	SMS 通知を有効にするときにチェックを付けます。
②	受信者	—	SMS 通知の送信先を入力します。
③	メッセージテキスト	—	送信するメッセージを入力します。
④	類似したメッセージを無視する期間	0	類似したメッセージを送信せずに、無視する期間を設定します。
⑤	スケジュールプロファイルを使用する	常にオフ 常にオン 設定 ...	スケジュールプロファイルを使用し、SMS 通知を利用する時刻を設定します。「設定 ...」を選択すると、「通知スケジューリングプロパティ」を開きます。

「設定値」の太字は初期値です。

サーバー設定

ご注意

- 本機は、SMS での通知には対応していません。



付番	項目	設定値	内容
①	シリアルポート	COM1 COM2	USB/3G モデムで使用するシリアルポートを選択します。
②	速度	9600	使用している USB モデムデバイスのボーレートを設定します。
③	SIM カード PIN コード	—	USB/3G モデムに挿入されている SIM カードの PIN コードを指定します。
④	SMS エンコーディング	7ビット(160文字以内) 8ビット(140文字以内) UCS-2 (70文字以内)	SMS エンコーディングを選択します。

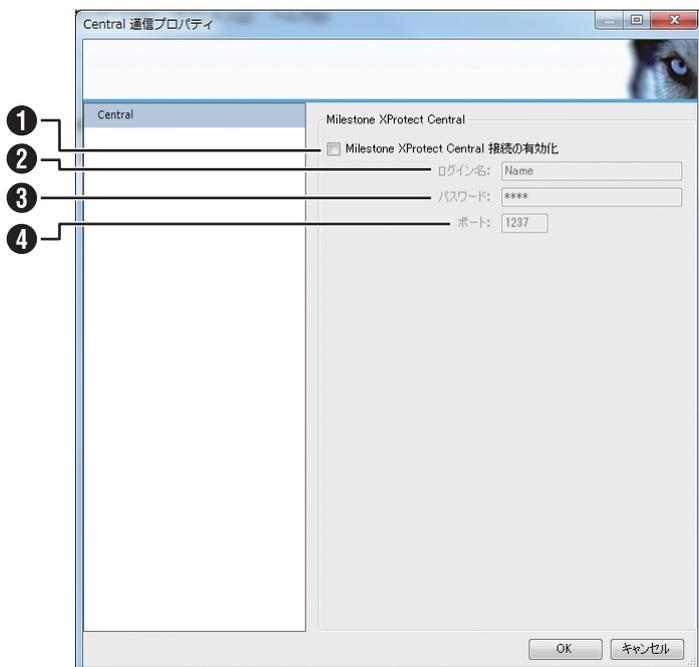
「設定値」の太字は初期値です。

Central 通信プロパティ

Central

ご注意

- 本機は、Central 機能には対応していません。

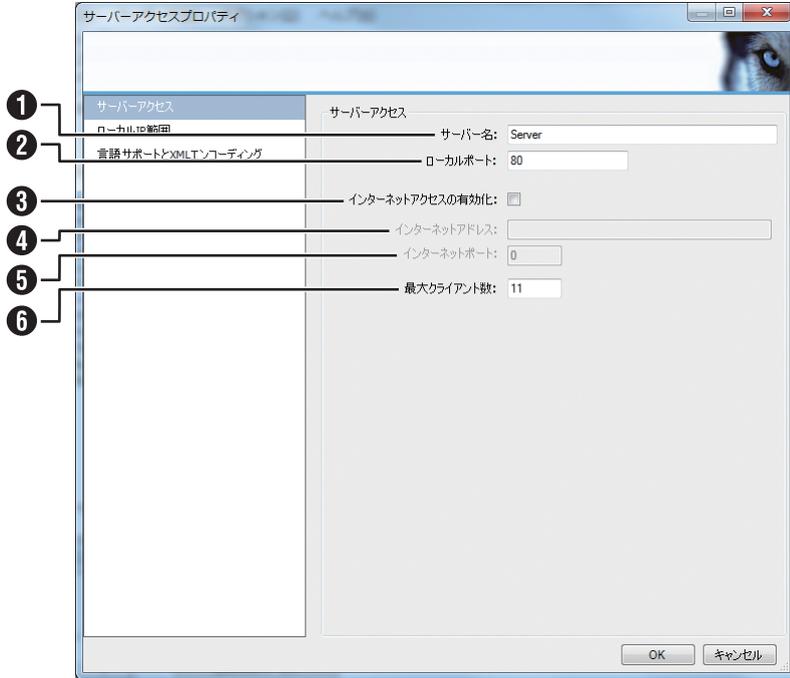


付番	項目	設定値	内容
①	Milestone XProtect Central 接続の有効化	チェック チェックなし	Central 接続を有効にするときにチェックを付けます。
②	ログイン名	—	Central 接続で使用する名前を入力します。
③	パスワード	—	Central 接続で使用するパスワードを入力します。
④	ポート	1237	Central 接続で使用するポート番号を入力します。

「設定値」の太字は初期値です。

サーバーアクセスプロパティ

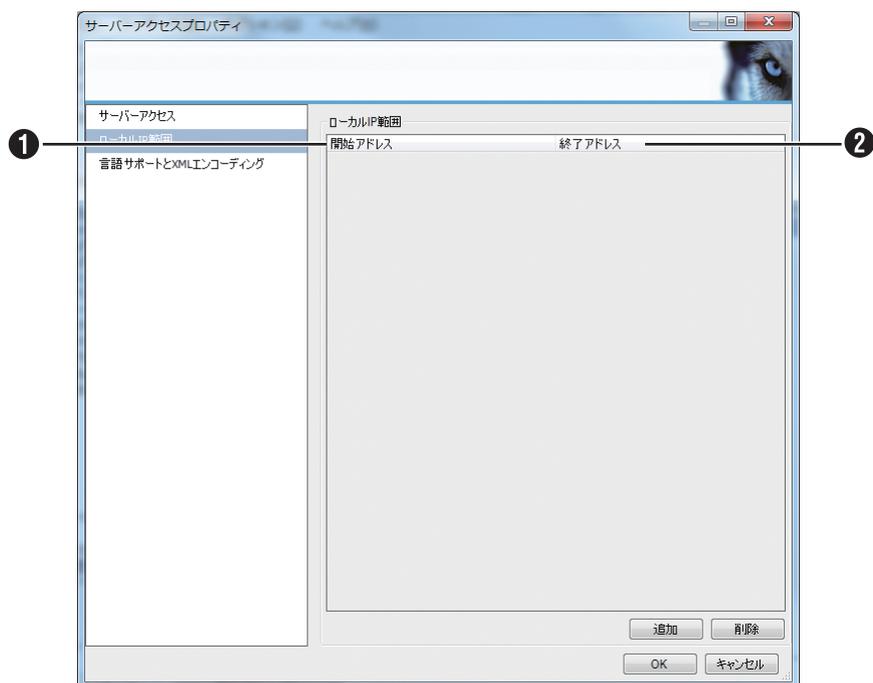
サーバーアクセス



付番	項目	設定値	内容
①	サーバー名	Server	サーバー名を設定します。
②	ローカルポート	80	サーバー用に使用するポート番号を設定します。
③	インターネットアクセスの有効化	チェック チェックなし	インターネットに接続されている監視用パソコンから、ルーターやファイアウォールを通してインターネット経由で本機に接続できるようにする場合はチェックを付けます。 チェックを付けた場合は、インターネットアドレス欄にルーターまたはファイアウォールのインターネット側のグローバル IP アドレスを、インターネットポート欄に監視用パソコンがアクセスするためのポート番号を指定してください。インターネットに接続された監視用パソコンからのアクセスを許可する場合は、ルーターやファイアウォールで適切なポートフォワーディングの設定を行なってください。 詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。
④	インターネットアドレス	—	インターネットで本機に接続するときのグローバル IP アドレス、あるいはホスト名を指定します。
⑤	インターネットポート	0	インターネットで本機に接続するときのポート番号を指定します。
⑥	最大クライアント数	11	同時接続できる Smart Client の最大ユーザー数を指定します。本機でライブ画面、再生画面で Smart Client を使う場合もユーザー数に含まれます。11 以上を設定しないでください。

「設定値」の太字は初期値です。

ローカル IP 範囲



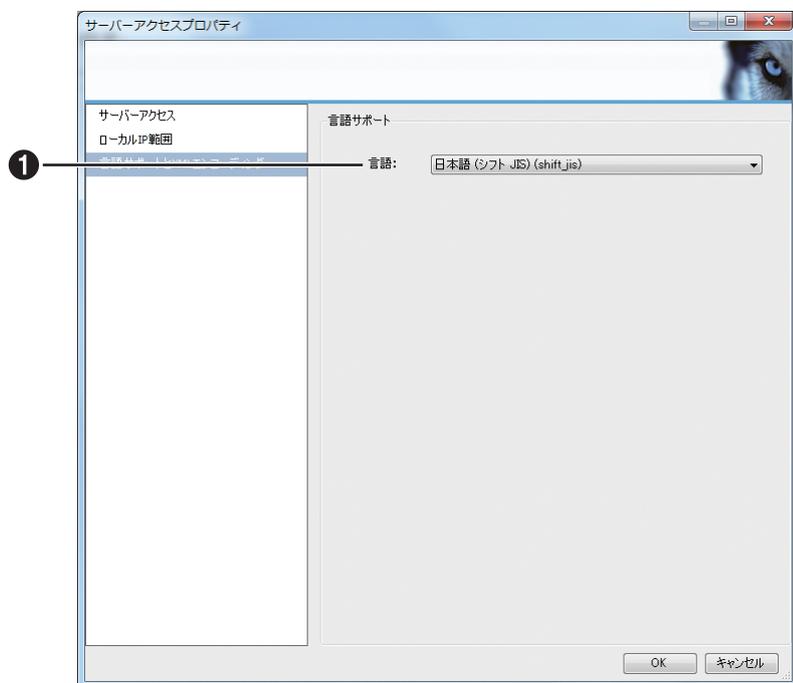
付番	項目	設定値	内容
①	開始アドレス	—	インターネットから本機へのアクセスが有効で、かつローカルネットワーク内の監視用パソコンから本機に接続する必要がある場合に設定します。 [追加] をクリックして、監視用パソコンの IP アドレスの範囲を指定してください。IP アドレス範囲は、必要なだけ設定できます。 ・ 1 つの IP アドレスを設定することも可能です。 (例 :192.168.10.1 ~ 192.168.10.1)
②	終了アドレス	—	

「設定値」の太字は初期値です。

言語サポートと XML エンコーディング

ご注意

- 必ず「日本語 (シフト JIS) (shift_jis)」に設定してご使用ください。
「日本語 (シフト JIS) (shift_jis)」以外で使用すると、正しく動作しません。

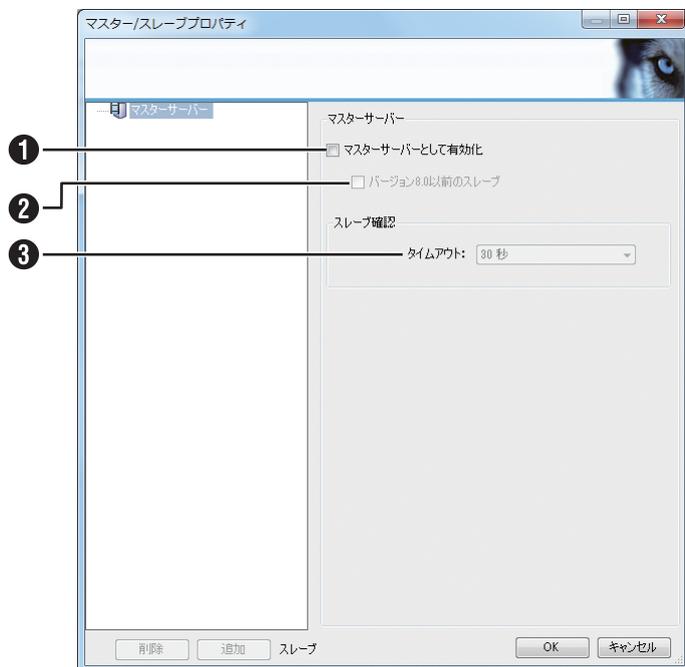


付番	項目	設定値	内容
①	言語	日本語 (シフト JIS) (shift_jis)	カメラ名、ユーザー名、パスワード用に使用する言語 (ローカル・キャラクターセット) を選択します。

「設定値」の太字は初期値です。

マスター・スレーブプロパティ

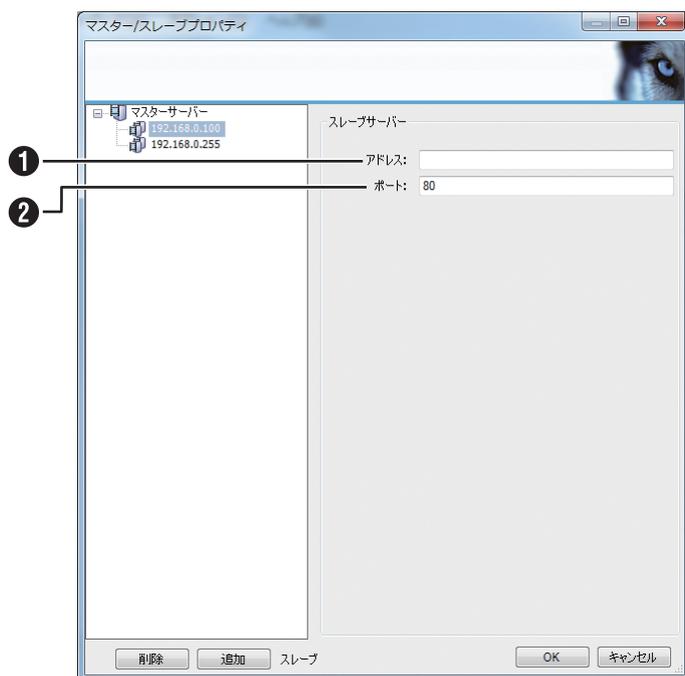
マスターサーバー



付番	項目	設定値	内容
①	マスターサーバーとして有効化	チェック チェックなし	本機を複数利用するときのマスター/スレーブ設定です。本機をマスターサーバーとして使用するときにはチェックを付けます。
②	バージョン 8.0 以前のスレープ	チェック チェックなし	チェックを付けるとバージョン 8.0 以前の Milestone XProtect で実行するスレープを使用できます。また、すべてのスレープ（バージョン 8.0 以前およびそれ以降）のスレープ状態更新機能が無効になります。
③	タイムアウト	30 秒 1 分 2 分 5 分 10 分	スレープ更新のタイムアウトを設定します。

「設定値」の太字は初期値です。

スレーブサーバー

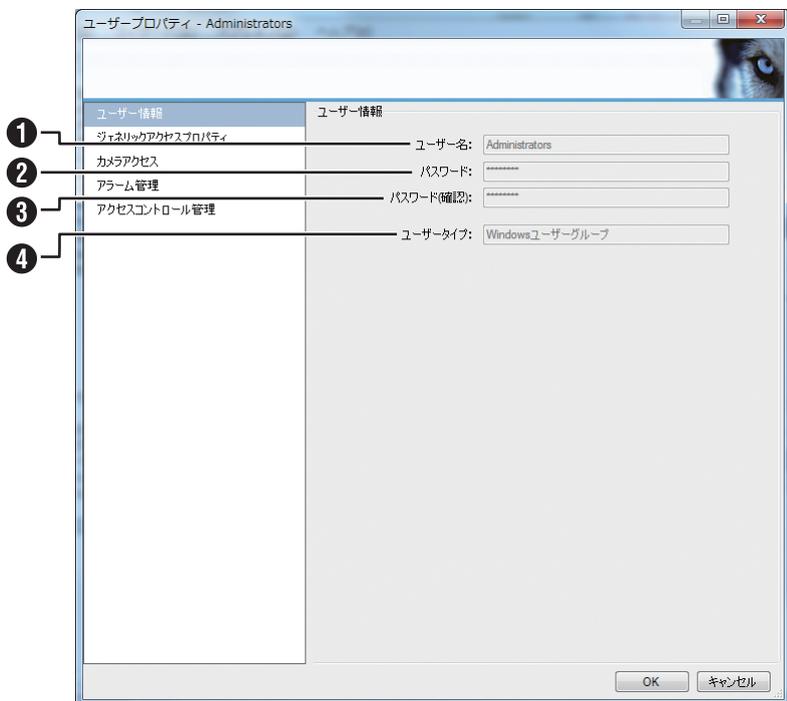


付番	項目	設定値	内容
①	アドレス	—	スレーブサーバーのアドレスとポートを登録します。
②	ポート	80	

「設定値」の太字は初期値です。

ユーザープロパティ

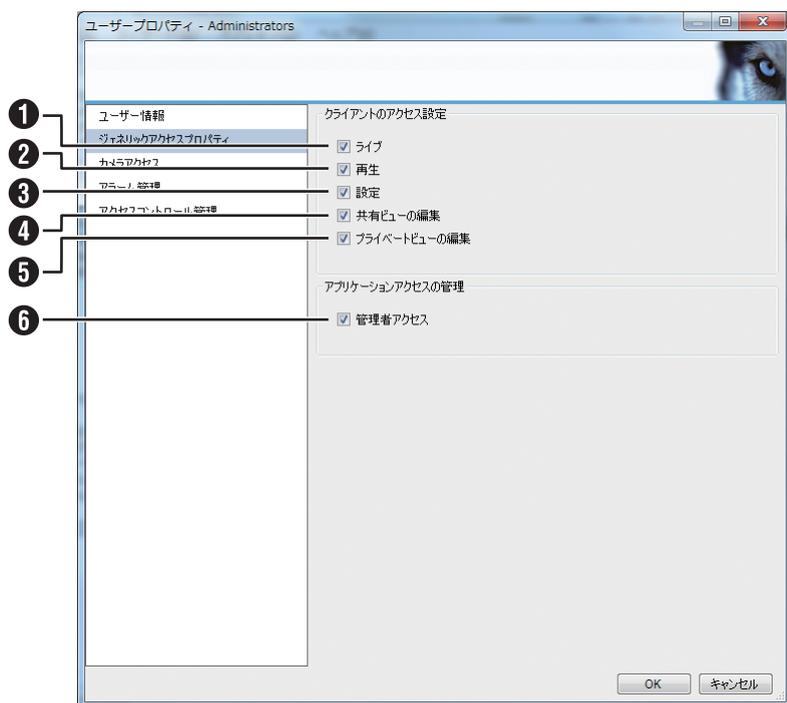
ユーザー情報



付番	項目	設定値	内容
①	ユーザー名	—	ユーザー名を変更します
②	パスワード	—	パスワードを変更します。
③	パスワード (確認)	—	
④	ユーザータイプ	—	ユーザーのタイプを表示します。

「設定値」の太字は初期値です。

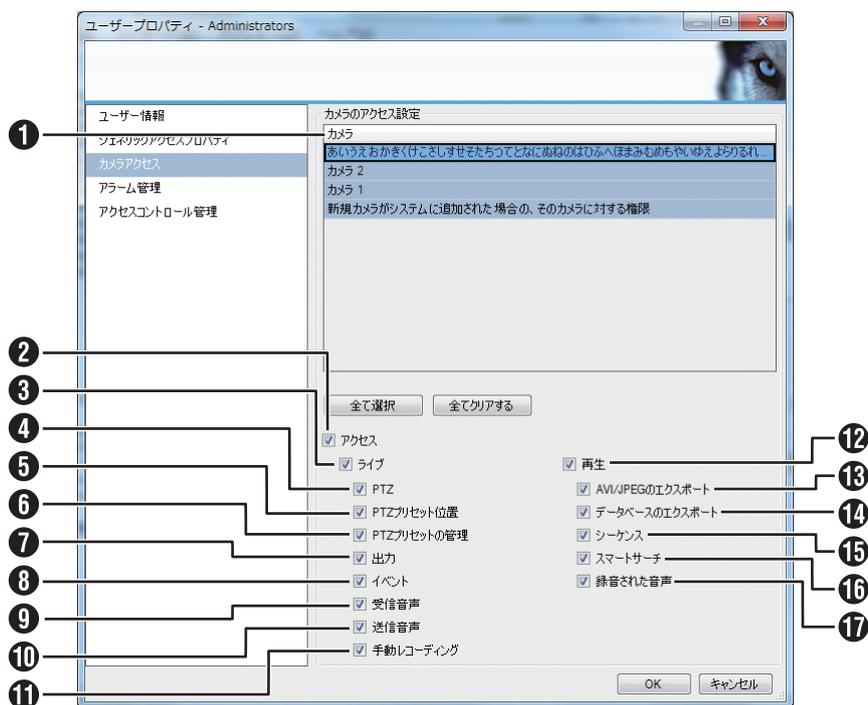
ジェネリックアクセスプロパティ



付番	項目	設定値	内容
①	ライブ	チェック チェックなし	ライブ映像を見ることができます。
②	再生	チェック チェックなし	記録映像が再生できます。
③	設定	チェック チェックなし	クライアントの設定が変更できます。
④	共有ビューの編集	チェック チェックなし	共有グループ内ビューが作成・編集できます。
⑤	プライベートビューの編集	チェック チェックなし	プライベートビューが作成・編集できます。
⑥	管理者アクセス	チェック チェックなし	管理者としてアクセスできます。

「設定値」の太字は初期値です。

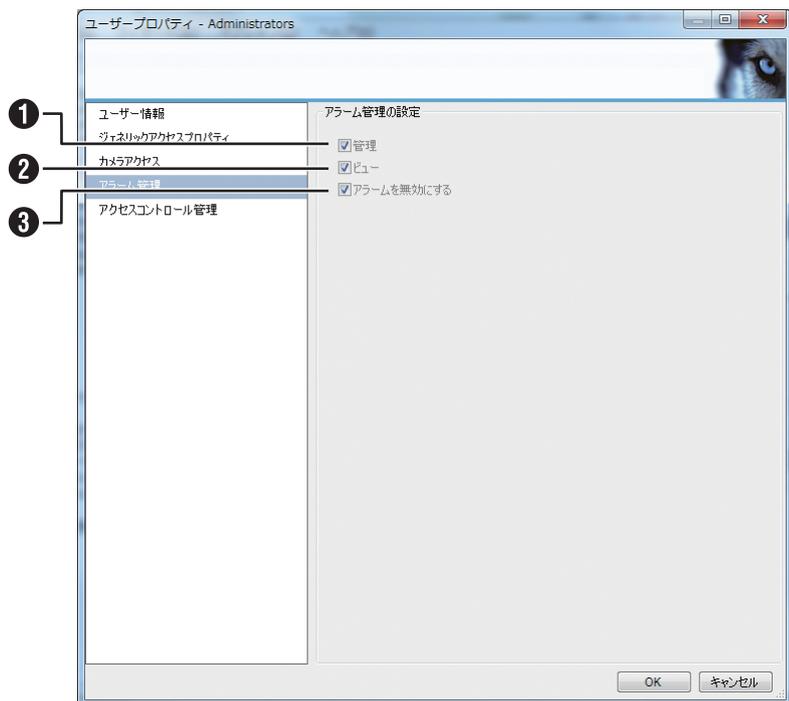
カメラアクセス



付番	項目	設定値	内容
①	(カメラ名)	—	全カメラまたはカメラごとに、Smart Client の機能の使用権限を設定します。チェックがはずれた機能は使用できません。初期設定は、カメラによって異なります。詳しくは、カメラの取扱説明書をご覧ください。
②	アクセス	チェック チェックなし	
③	ライブ	チェック チェックなし	
④	PTZ	チェック チェックなし	
⑤	PTZ プリセット位置	チェック チェックなし	
⑥	PTZ プリセットの管理	チェック チェックなし	
⑦	出力	チェック チェックなし	
⑧	イベント	チェック チェックなし	
⑨	受信音声	チェック チェックなし	
⑩	送信音声	チェック チェックなし	
⑪	手動レコーディング	チェック チェックなし	
⑫	再生	チェック チェックなし	
⑬	AVI/JPEG のエクスポート	チェック チェックなし	
⑭	データベースのエクスポート	チェック チェックなし	
⑮	シーケンス	チェック チェックなし	
⑯	スマートサーチ	チェック チェックなし	
⑰	録音された音声	チェック チェックなし	

「設定値」の太字は初期値です。

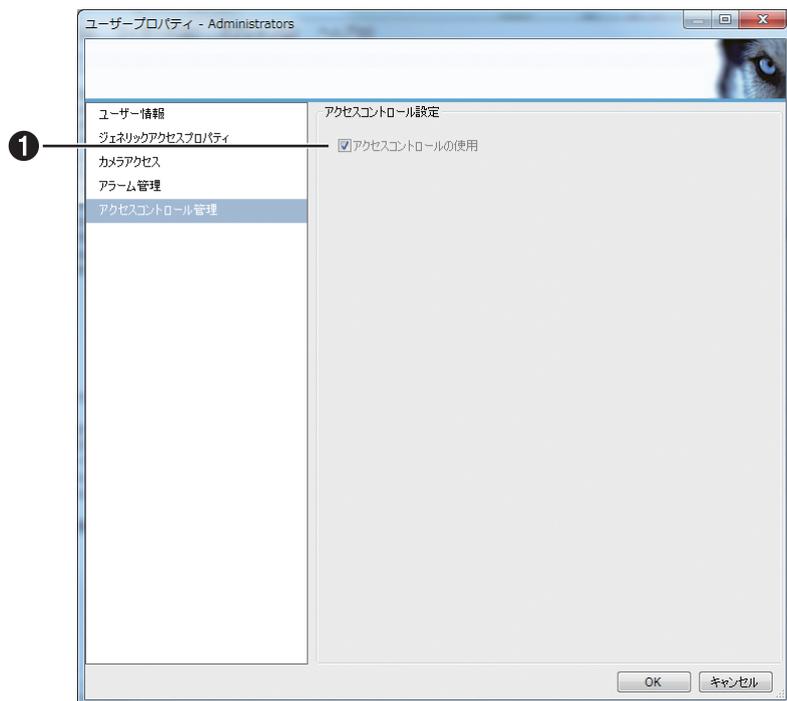
アラーム管理



付番	項目	設定値	内容
①	管理	チェック チェックなし	Smart Client のアラーム管理の使用権限を設定します。 チェックがはずれた機能は使用できません。
②	ビュー	チェック チェックなし	
③	アラームを無効にする	チェック チェックなし	

「設定値」の太字は初期値です。

アクセスコントロール管理

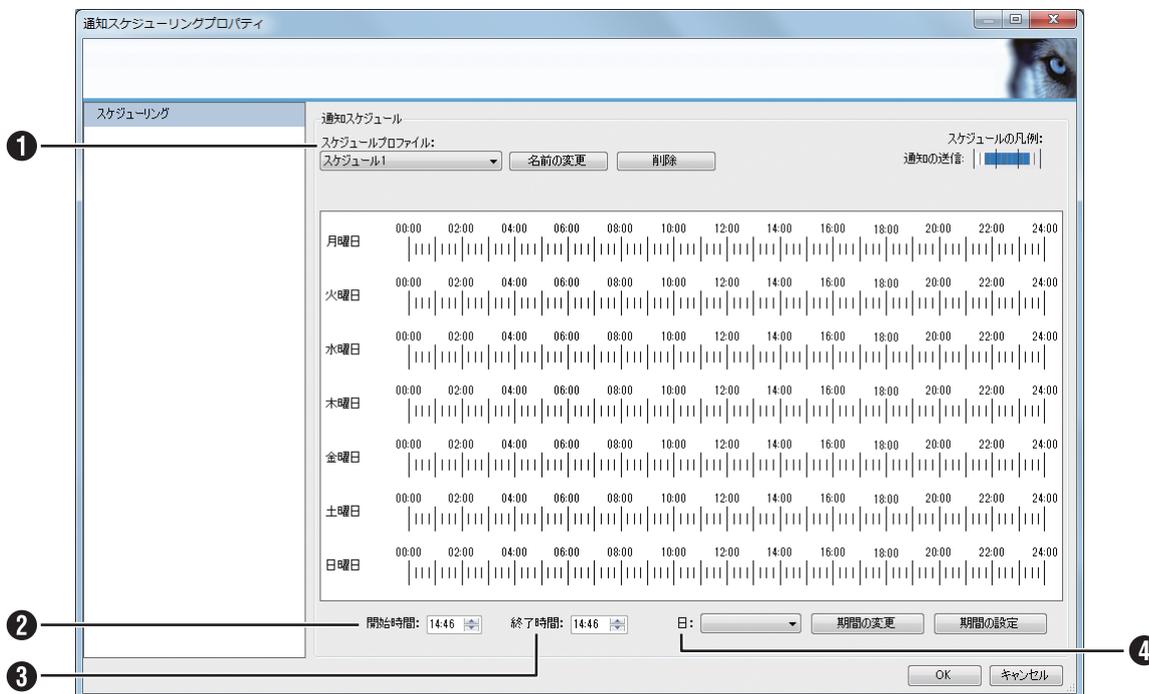


付番	項目	設定値	内容
①	アクセスコントロールの使用	チェック チェックなし	チェックを付けると、関連するユーザーがアクセスコントロール関連の機能を使用できます。 本機は、アクセスコントロール機能には対応していません。

「設定値」の太字は初期値です。

通知スケジューリングプロパティ

スケジューリング

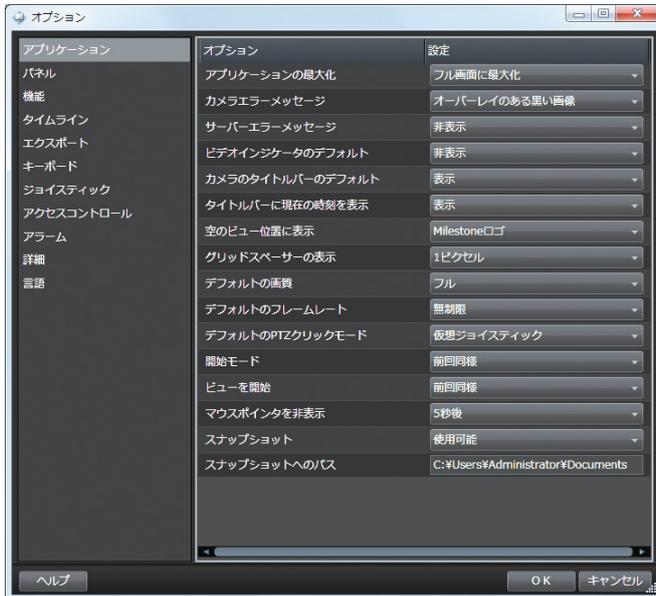


付番	項目	設定値	内容
①	スケジュールプロファイル	新規追加 ... 常にオフ 常にオン	スケジュールプロファイルを選択します。
②	開始時間	0:00 ~ 23:59	開始時間と終了時間を設定します。
③	終了時間		
④	日	月曜日～日曜日、 平日、 毎日	期間を設定します。

「設定値」の太字は初期値です。

アプリケーション

Smart Client の表示設定やスナップショット保存時の設定を行います。



項目	設定値	内容
アプリケーションの最大化	フル画面に最大化 通常ウィンドウとして最大化	Smart Client 画面を最大化したときの表示方法を設定します。
カメラエラーメッセージ	オーバーレイとして表示 オーバーレイのある黒い画像 非表示	カメラのエラーメッセージの表示方法を設定します。
サーバーエラーメッセージ	オーバーレイとして表示 非表示	サーバーエラーメッセージの表示方法を設定します。
ビデオインジケータのデフォルト	表示 非表示	ビデオインジケータを表示するかを設定します。
カメラのタイトルバーのデフォルト	表示 非表示	カメラが割り当てられているビューにタイトルバーを表示するかを設定します。
タイトルバーに現在の時刻を表示	表示 非表示	タイトルバーに時刻を表示するかを設定します。
空のビュー位置に表示	Milestone ロゴ、なし、 黒い画像	カメラが割り当てられていないビューに表示するものを設定します。
グリッドスペーサーの表示	非表示、1ピクセル、2ピクセル、 3ピクセル、4ピクセル	グリッドの間隔を設定します。
デフォルトの画質	フル、高詳細、高い、中、 低い	Smart Client 起動時の画質を設定します。
デフォルトのフレームレート	無制限、中、低	Smart Client 起動時のフレームレートを設定します。
デフォルトの PTZ クリックモード	クリックして中央へ 仮想ジョイスティック	Smart Client 起動時の PTZ カメラの PTZ クリックモードを設定します。
開始モード	フル画面、最大化、 ウィンドウ、前回同様	Smart Client 起動時の画面のサイズを設定します。
ビューを開始	前回同様、無し、確認	Smart Client 起動時にどのビューを表示するかを設定します。
マウスポインタを非表示	設定しない、5 秒後、10 秒後、 20 秒後、30 秒後	マウスがとまってから何秒後にマウスポインタを非表示にするかを設定します。
スナップショット	使用可能 使用不可	カメラ映像のスナップショット作成を使用するかを設定します。
スナップショットへのパス	—	カメラ映像のスナップショットの保存先を設定します。

「設定値」の太字は初期値です。

パネル

Smart Client のライブ画面や再生画面で表示するパネルの設定を行います。



項目		設定値	内容
ライブ	ビュー	使用可能 使用不可	ライブ・再生・設定の各画面で使用するパネルを設定します。
	カメラ	使用可能 使用不可	
	音声	使用可能 使用不可	
	出力	使用可能 使用不可	
	イベント	使用可能 使用不可	
	MIP プラグイン	使用可能 使用不可	
再生	ビュー	使用可能 使用不可	
	カメラ	使用可能 使用不可	
	記録の検索	使用可能 使用不可	
	音声	使用可能 使用不可	
	スマートサーチ	使用可能 使用不可	
	MIP プラグイン	使用可能 使用不可	
設定	ビュー	使用可能 使用不可	
	システム概要	使用可能 使用不可	
	オーバーレイボタン	使用可能 使用不可	
	プロパティ	使用可能 使用不可	
	MIP プラグイン	使用可能 使用不可	

「設定値」の太字は初期値です。

機能

Smart Client のライブ画面、再生画面、設定画面で使用する機能の設定を行います。



項目		設定値	内容
ライブ	カメラ再生	使用可能 使用不可	ライブ・再生・設定の各画面（モード）の機能を使用可能にするかを設定します。
	オーバーレイボタン	使用可能 使用不可	
	印刷	使用可能 使用不可	
再生	独立再生	使用可能 使用不可	
	印刷	使用可能 使用不可	
設定	オーバーレイボタンの編集	使用可能 使用不可	
	ビデオバッファリングの編集	使用可能 使用不可	

「設定値」の太字は初期値です。

タイムライン

Smart Client のタイムラインで表示、使用する機能の設定を行います。

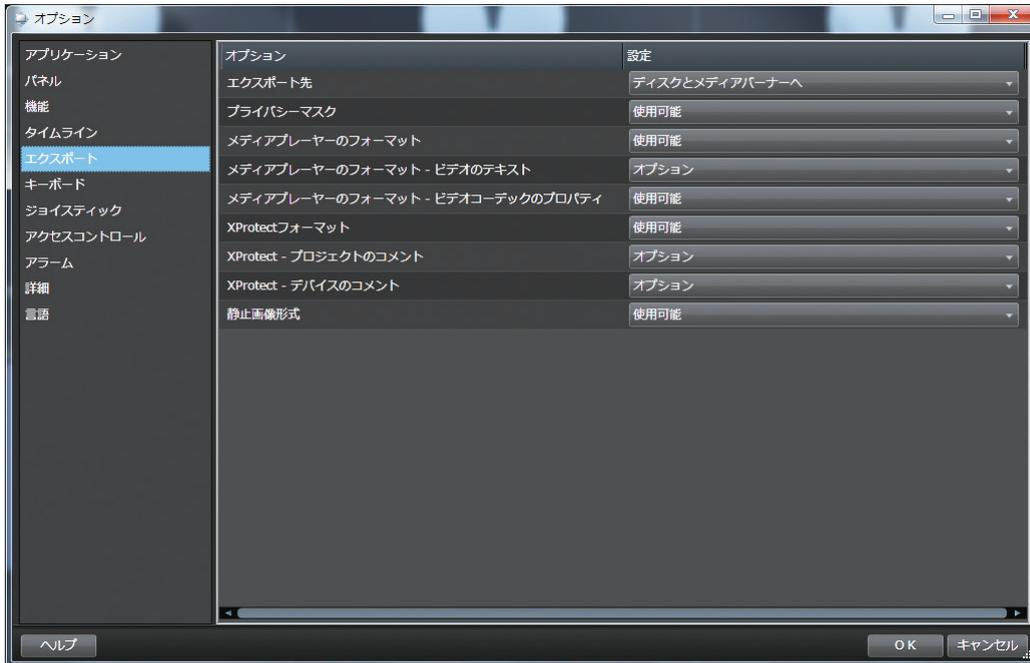


項目	設定値	内容
受信音声	表示 非表示	受信音声を表示するかを設定します。
送信音声	表示 非表示	送信音声を表示するかを設定します。 本機は送信音声の記録には対応していません。
ブックマーク	表示 非表示	ブックマークを表示するかを設定します。
モーション表示	表示 非表示	モーションを表示するかを設定します。
すべてのカメラのタイムライン	表示 非表示	すべてのカメラのタイムラインを表示するかを設定します。
再生	ギャップのスキップ ギャップをスキップしない	映像再生時に記録がない部分（ギャップ）をスキップするかを設定します。

「設定値」の太字は初期値です。

エクスポート

Smart Client のエクスポート時に表示、使用する機能の設定を行います。

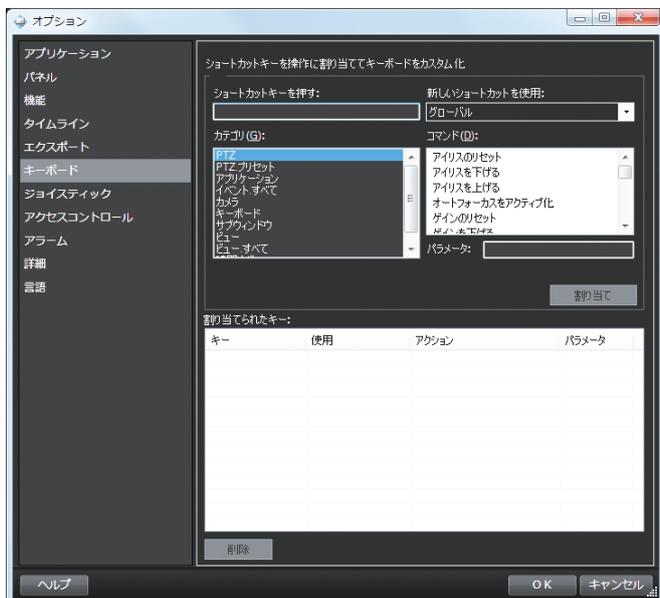


項目	設定値	内容
エクスポート先	ディスクへ メディアバーナーへ ディスクとメディアバーナーへ	エクスポート時に、エクスポート先として選択できる場所を設定します。
プライバシーマスク	使用可能 使用不可	エクスポート時に、プライバシーマスクの選択を使用可能にするかを設定します。
メディアプレーヤーのフォーマット	使用可能 使用不可	メディアプレーヤーのフォーマットでエクスポートできるようにするかを設定します。
メディアプレーヤーのフォーマット - ビデオのテキスト	必須 オプション 使用不可	メディアプレーヤーのフォーマットでエクスポートする場合に、ビデオのテキストを入力するかを設定します。
メディアプレーヤーのフォーマット - ビデオコーデックのプロパティ	使用可能 使用不可	メディアプレーヤーのフォーマットでエクスポートする場合に、ビデオコーデックのプロパティ変更を使用可能にするかを設定します。
XProtect フォーマット	使用可能 使用不可	XProtect フォーマットでエクスポートできるようにするかを設定します。
XProtect - プロジェクトのコメント	必須 オプション 使用不可	XProtect フォーマットでエクスポートする場合に、プロジェクトのコメントを入力するかを設定します。
XProtect - デバイスのコメント	必須 オプション 使用不可	XProtect フォーマットでエクスポートする場合に、デバイスのコメントを入力するかを設定します。
静止画像形式	使用可能 使用不可	静止画像としてエクスポートできるようにするかを設定します。

「設定値」の太字は初期値です。

キーボード

特定の操作に、キーボードの【Ctrl】または【Alt】キーなどと他のキーを組み合わせたショートカットキーを割り当てます。

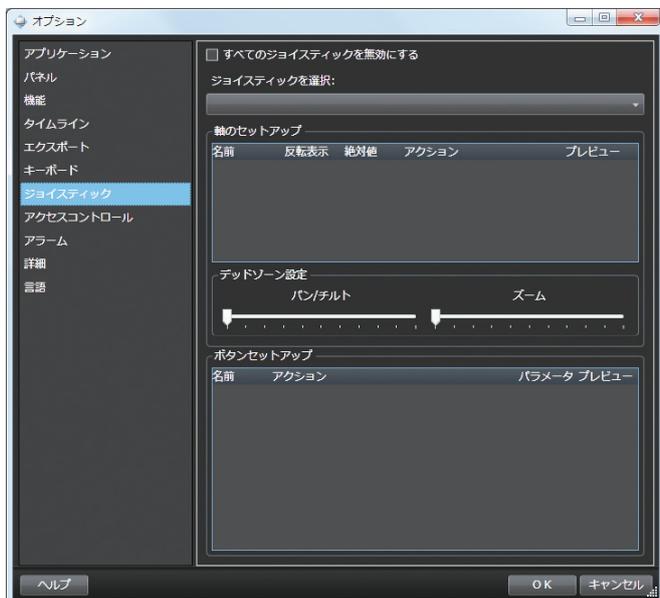


項目	設定値	内容
ショートカットキーを押す	—	この欄をクリックして、登録したいショートカットキーの組み合わせを押します。
新しいショートカットを使用	グローバル ライブモード 再生モード セットアップモード	登録するショートカットキーを Smart Client のどの画面で使用するか設定します。
カテゴリ/コマンド	PTZ アプリケーション カメラ キーボード サブウィンドウ ビュー ビュー.すべて 時間ナビ 出力.すべて	割り当てるコマンドのカテゴリを選択し、カテゴリに応じたコマンドリストから、割り当てるコマンドを選択します。
パラメータ	—	コマンドまたはアクションのパラメータを指定します。 例えば、 選択されたカメラビュー項目をコピーする パラメータのウィンドウとビュー位置を指定する場合、「2;1」と入力すると、最初のビュー位置（ビュー位置 1）で、カメラがフロートウィンドウ（ウィンドウ 2）にコピーされます。
割り当てられたキー	—	割り当てられたショートカットキーの組み合わせがリスト表示されます。[削除]をクリックすると、選択したショートカットを削除します。

「設定値」の太字は初期値です。

ジョイスティック

ジョイスティックに PTZ 機能を割り当てます。



項目	設定値	内容
すべてのジョイスティックを無効にする	チェック チェックなし	チェックを付けると、システムに接続されているすべてのジョイスティックが使用できなくなります。
ジョイスティックを選択	—	設定するジョイスティックを選択します。
軸のセットアップ	名前	次の3つの軸があります。 ・ X 軸（水平） ・ Y 軸（垂直） ・ Z 軸（奥行きまたはズームレベル）
	反転表示	デフォルトでは、例えばジョイスティックを X 軸に沿って右に倒すと PTZ カメラは右を、Y 軸に沿って手前に倒すと上を向きます。「反転」を選択するとその反対になります。
	絶対値	ジョイスティックの角度とカメラの向きが対応するようになります。
	アクション	ジョイスティックを動かしたときの動作を指定します。
	プレビュー	プレビュー表示で設定を確認します。
デッドゾーン設定	パン / チルト ズーム	ジョイスティックのデッドゾーン（遊び）を設定します。 スライダーを右に動かすとデッドゾーンが拡大し、カメラを操作するためのジョイスティックの動きが大きくなります。
ボタンセットアップ	—	「アクション」欄で割り当てる動作を選び、ジョイスティックの各ボタンに動作を割り当てます。

「設定値」の太字は初期値です。

アクセスコントロール

Smart Client のアクセスコントロールの設定を行います。



項目	設定値	内容
アクセスリクエスト通知の表示	はい いいえ	アクセスリクエスト通知を画面に表示するかを設定します。 本機は、アクセスコントロール機能には対応していません。

「設定値」の太字は初期値です。

アラーム

Smart Client のアラーム通知の設定を行います。



項目	設定値	内容
音による通知を再生する	チェック チェックなし	アラーム通知音の再生を有効にするときにチェックを付けます。

「設定値」の太字は初期値です。

詳細

Smart Client の詳細設定を行います。

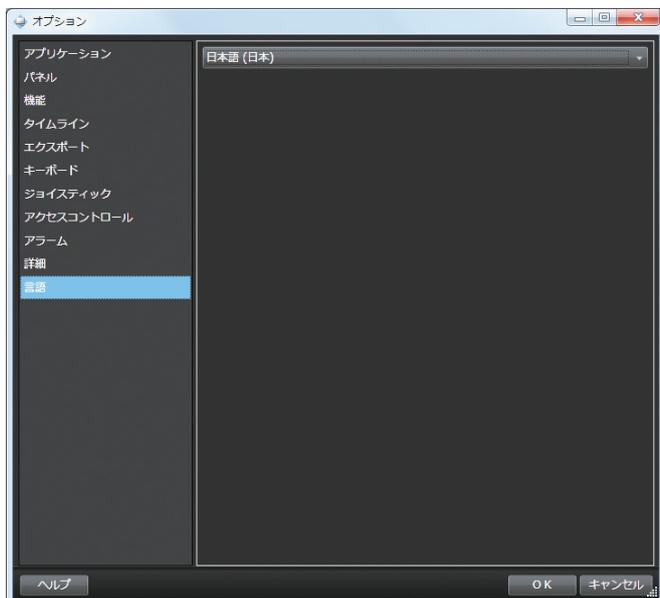


項目	設定値	内容
最大デコードスレッド	自動 標準 1～8	ビデオストリームをデコードするときに使用するスレッドの数を設定します。 マルチコアのパソコンで、ライブ / 再生画面でのパフォーマンスを向上させます。 お使いのパソコン、カメラの数やフレームレートの設定に合わせて、最適な設定をしてください。 この設定は、画面ごとやカメラごとに設定することはできません。
インターレースの解除	フィルターなし トップフィールドの垂直伸張 ボトムフィールドの垂直伸張 コンテンツ適応型	カメラ画像がインターレースの場合に、インターレースを解除する方法を設定します。カメラ画像がインターレース画像でない場合は、この設定は画質やパフォーマンスに影響しません。 カメラ画像がインターレースの場合は、記録フレームレートが低下する場合があります。
時間ゾーン	ローカル マスターサーバーの時間ゾーン 協定世界時 カスタム時間ゾーン	使用するタイムゾーンを設定します。
カスタム時間ゾーン	(UTC+09:00)大阪、札幌、東京	「時間ゾーン」で「カスタム時間ゾーン」を選択したときに、使用するタイムゾーンを設定します。

「設定値」の太字は初期値です。

言語

Smart Client の言語の設定を行います。



設定値	内容
英語 (米国) 日本語 (日本) 他 24 言語をサポート	Smart Client で使用する言語を選択します。「日本語 (日本)」を設定してください。 設定を反映させるには、Smart Client を再起動してください。

「設定値」の太字は初期値です。

JVCケンウッド
カスタマーサポートセンター

固定電話  0120-2727-87

携帯電話・PHS  0570-010-114

一部のIP電話など 045-450-8950

FAX 045-450-2308

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

ご相談窓口におけるお客様の個人情報は、お問合せへの対応、修理およびその確認に使用し、適切に管理を行い、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。

ホームページ <http://www3.jvckenwood.com/>

株式会社 JVCケンウッド・公共産業システム

〒 221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3-12